

阪神・淡路大震災と大阪市立大学の対応

— 大震災に関する大阪市立大学の活動資料リスト —



1 9 9 8 . 3

震災文庫

8

344

阪神・淡路大震災と大阪市立大学の対応

— 大震災に関する大阪市立大学の活動資料リスト —

1998.3

大阪市立大学

神戸大学人社系図



00099041174

表紙写真の説明

- 左上・避難所で救援食の準備をする学生たち 1995.5.17
- 左下・特例入試の合格発表会場 1995.3.31
- 右・被災地から輸送されてきた患者を受け入れる市大病院のスタッフ 1995.1.30

(救援活動)



ヘリコプターによる薬品の搬送 1995.1.28



大阪市災害救援船で神戸へ 1995.3.2



臨時救護室（神戸市立吾妻小学校）での市大病院の看護婦と薬剤師 1995.3.2



理科室を利用した臨時救護室（同左）の医薬品類



野菜を中心とした炊き出しの準備作業（大阪天王寺区内の職業技術専門校の調理室） 1995.3.31



炊き出しされた料理の盛付作業（同左）

(特列入試)



出願手続き 1995.3.25



個別学力試験会場 一九五・三・二五



合格発表 1995.3.31

(ボランティア活動)



大学で救援食の調理を打ち合わせる学生と教員
1995.3.2



入学手続 1995.3.31



ごまあえとサラダの調理がすんで、これから避難所へ届けるところ (同上)

(ボランティア活動・続き)



避難所となった六甲小学校で用意された食事 1995.3.2



芦屋市の老人養護施設「和風園」で食事を準備する学生 1995.5.17



「豚饅」炊き出しの準備風景 (兵庫勤労市民センター)、同時に栄養調査も行われた 1995.3.7



生活科学部食品栄養科学科が主催して、避難所となった「和風園」で開いた食事会 (同上)



避難所となった神戸商船大学で用意された食事 1995.3.15



「和風園」では食事会のあとも学生による健康管理のボランティア活動が続けられた (同上)

(学術調査団の活動)



大阪市鞆公園内のテニスコートに噴出した噴砂跡を調べる大阪市立大学の学生 一九九五・一・三三



阪急宝塚駅での調査の事前打ち合わせ。各調査班の調査ルートを検討した 一九九五.1



六甲アイランド北部の護岸付近。護岸の海側への移動に伴って背後の埋め立て地盤が大きく沈下し、地表面が陥没した 一九九五.1.27



神戸市東灘区森北町甲南女子大学正門の地表面変状を調査する大阪市立大学の調査グループ 一九九五.1.29

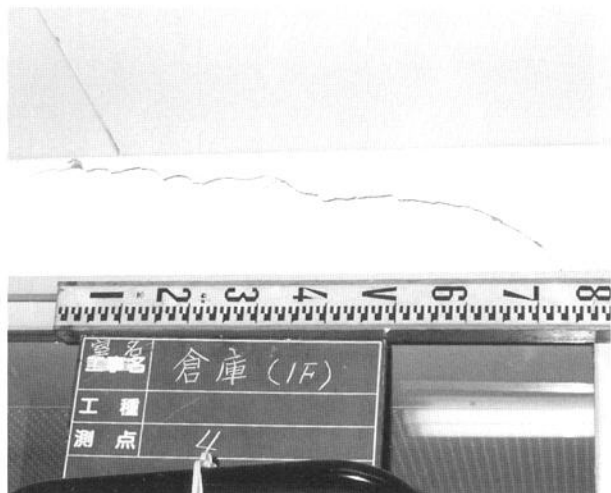


甲子園浜埋立地に発生した地表面の亀裂とそれに沿って噴出した噴砂跡 一九九五・一・三三



芦屋市三条町の宅地の変状を調査する大阪市立大学の調査グループ 一九九五・二・一六

(被災状況・杉本キャンパス)



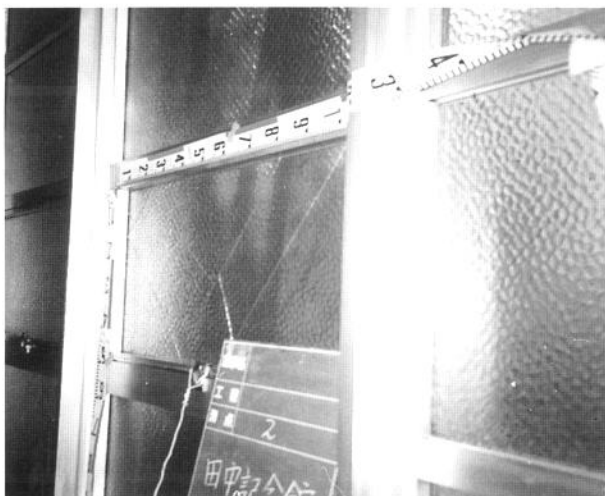
商学部1階倉庫 壁クラック



理学部渡廊下タイル落下



工学部GHP破損



田中記念館ガラス破損

(被災状況・阿倍野キャンパス)



附属図書館医学部分館、倒れた書架

(被災状況・大阪駅前第3ビル)



文化交流センター、天井パネル落下

(被災状況・杉本キャンパス旧附属図書館)



2号書庫6階 和雑誌書架



3号書庫6階東奥 新聞縮刷版書架



3号書庫6階 学部雑誌書架



1号書庫と2号書庫(4階) 縦目の壁

阪神・淡路大震災と大阪市立大学

大阪市立大学長 山本 研二郎

平成7年1月17日早朝、かつて経験したことのない激しい地震が発生した。恐ろしい地響き、激しい揺れ、物が落ちる音。瞬時の恐怖ののち、衣服を着けて階下へ降り、テレビニュースで被害の中心は神戸、阪神間であることを知った。

やがて大学事務局の人から電話連絡があって、まずはお互いの無事を確認し、大学の建物は少なくとも外観からは被害のないことを知る。ニュースが刻々と惨状を伝えるなか、学生、教職員の安否が気遣われるが、電話が混雑していて連絡が思うに任せない。交通機関が麻痺しているので、とりあえず本日は休講とする。

午後になって、やっと大学本部にたどりついた。緊急に会合を開催し、まずは被害状況の把握に努めることにした。幸いにして人的被害は軽微であった。しかし、学生の安否を完全に確かめるまでに1週間を要した。神戸地区の大学では大勢の学生が犠牲になったが、本学では1名も失わずにすんだことはなにより嬉しいことであった。

近隣で未曾有の大地震が発生したときに、被害の少なかった大阪市立大学がどのように振る舞ったか。今から振り返れば、それぞれの専門分野や特徴を生かして、日頃蓄積していたものを十分に発揮できたと思われる。

地震発生直後から、当然のことながら医学部附属病院の医師や看護婦による救護活動がはじまった。交通の遮断が救護隊の現地への到着をはばみ、一部海上ルートに頼って患者を輸送したが、今後多くの教訓を残した。また救急のみならず、心のケアについては災害後長期にわたる治療が必要なことも思い知らされた点である。生活科学部の学生を中心としたボランティア活動には目をみはるものがあった。全く新しい経験のなかで、自然発生的な行動であったが、災害直後とそれ以後の救護のあり方、さらには援助する方と受ける方の人間関係等々、大学キャンパスでは学び得ないような経験を数多く積むことが出来た。理系の学部の教員は、地質、地理、建築、土木、橋梁等とそれぞれの専門分野に応じて災害の実情調査や、それに基づいた復旧、さらには将来への提言など活動が広がった。また広観現象による地震予知研究も今回の災害によって一層活発になった分野である。また文系社会科学系学部の教員は、法律の無料相談や経済の動向、さらには震災による流通についても多方面からの追跡がなされた。大学全体としての取組みは何といても特例入試を実施したことであった。短時日の間に第1部・第2部あわせて106名の定数をこれにあてたが、幸いにして大学入試センター試験が終了していたので、事務的には処理し易く、一般入試の受験生と変わらない難易度の入試を実施することが出来た。

地震から3年経過した今日、大学が対応してきた事実を忠実に残しておきたいと思い、大学史資料室長広川教授にお願いして資料を集めていただいた。危機管理が必ずしも整っていなかっただけに、災害発生直後の大学人の動きは、まさに自然発生的なものであった。しかし日時が経つと、組織的な動きが変わっていく有り様がよく理解できる。

今回の大災害から学ぶべきことは数々あるが、この資料もその一端を担えるものではないだろうか。

目 次

写 真	1
阪神・淡路大震災と大阪市立大学	大阪市立大学長 山本研二郎 7
I 大阪市立大学の対応と参考資料	
阪神・淡路大震災に関する対応の概要	大学史資料室長 広川 禎秀 11
震災対応の主要日誌	20
参考資料	23
阪神大震災に関する大阪市立大学の活動資料収集のためのスタッフ会議	67
II 阪神・淡路大震災に関する大阪市立大学の活動資料リスト	
資料リストの概要（4学部）	理学部教授 中川 康一 71
工学部教授 高田 直俊	71
医学部教授 森井 浩世	72
生活科学部助教授 堀 智晴	73
資料リスト	75
凡例・震災関係資料公開基準	76
商学部	(77)
経済学部	(78)
法学部	(78)
文学部	(79)
理学部	(84)
工学部	(88)
医学部	(94)
生活科学部	(96)
経済研究所	(103)
同和問題研究室	(103)
学術情報総合センター	(104)
事務局	(104)
学生部	(106)
教務部	(106)
教職員組合	(106)
生活協同組合	(106)
有恒会	(107)
工学部土木同窓会	(107)
医学部同窓会	(108)

あとがき

阪神・淡路大震災に関する対応の概要

大阪府立大学 志 川 尚 秀

はじめに

1995年1月17日午前5時46分、淡路島沖を震源とするマグニチュード7.3の直下型地震が発生し、阪神・淡路大震災を引き起こした。この地震は、死者14,695人、重傷者11,500人、軽傷者49,000人、建物倒壊約100万棟、家屋全壊約100万戸、家屋半壊約100万戸、家屋被害総額約1兆円に達した。この地震は、戦後最大の震災であり、戦後最大の震災である。この地震は、戦後最大の震災であり、戦後最大の震災である。

I 大阪市立大学の対応と参考資料

1995年1月17日午前5時46分、淡路島沖を震源とするマグニチュード7.3の直下型地震が発生し、阪神・淡路大震災を引き起こした。この地震は、死者14,695人、重傷者11,500人、軽傷者49,000人、建物倒壊約100万棟、家屋全壊約100万戸、家屋半壊約100万戸、家屋被害総額約1兆円に達した。この地震は、戦後最大の震災であり、戦後最大の震災である。

1995年1月17日午前5時46分、淡路島沖を震源とするマグニチュード7.3の直下型地震が発生し、阪神・淡路大震災を引き起こした。この地震は、死者14,695人、重傷者11,500人、軽傷者49,000人、建物倒壊約100万棟、家屋全壊約100万戸、家屋半壊約100万戸、家屋被害総額約1兆円に達した。この地震は、戦後最大の震災であり、戦後最大の震災である。

1995年1月17日午前5時46分、淡路島沖を震源とするマグニチュード7.3の直下型地震が発生し、阪神・淡路大震災を引き起こした。この地震は、死者14,695人、重傷者11,500人、軽傷者49,000人、建物倒壊約100万棟、家屋全壊約100万戸、家屋半壊約100万戸、家屋被害総額約1兆円に達した。この地震は、戦後最大の震災であり、戦後最大の震災である。

1995年1月17日午前5時46分、淡路島沖を震源とするマグニチュード7.3の直下型地震が発生し、阪神・淡路大震災を引き起こした。この地震は、死者14,695人、重傷者11,500人、軽傷者49,000人、建物倒壊約100万棟、家屋全壊約100万戸、家屋半壊約100万戸、家屋被害総額約1兆円に達した。この地震は、戦後最大の震災であり、戦後最大の震災である。

1995年1月17日午前5時46分

1995年1月17日午前5時46分

1995年1月17日午前5時46分、淡路島沖を震源とするマグニチュード7.3の直下型地震が発生し、阪神・淡路大震災を引き起こした。この地震は、死者14,695人、重傷者11,500人、軽傷者49,000人、建物倒壊約100万棟、家屋全壊約100万戸、家屋半壊約100万戸、家屋被害総額約1兆円に達した。この地震は、戦後最大の震災であり、戦後最大の震災である。

阪神・淡路大震災に関する対応の概要

大学史資料室長 広川 禎 秀

はじめに

1995（平成7）年1月17日午前5時46分、淡路島北部を震源とするマグニチュード7.2の直下型地震が発生して、神戸市を中心に京阪神を直撃し、死者6430人、全壊家屋10万4900棟・18万1780世帯、半壊家屋14万4256棟・27万6105世帯、全焼家屋6982棟・8414世帯、半焼家屋89棟・182世帯という大災害をもたらした（1997年12月消防庁発表）。

本学においては、教職員・学生本人に死亡者はなかった。しかし、その家族を失ったり、家屋に甚大な被害を被ったものは少なくなかった。また、住居損壊や交通機関の遮断のため、通学・通勤に大きな影響をこうむり、後期試験や大学入試などに大きな混乱が生じた。地震発生後、本学は、本学関係者の被災に対処するとともに、後期試験や大学入試などで特別措置を講じ、また被災地に近接する大学として、被災地の人々に対する緊急な救援・支援の活動を行った。救援・支援活動には、大学としての活動とともに、多くの本学関係者の自発的活動があった。さらに、本学関係者による専門的立場からのさまざまな調査・研究活動も行われた。

以上の経緯をふまえ、1995（平成7）年中に、山本研二郎学長から、本学の大震災に関する活動の資料収集を行うことが大学史資料室に提起された。資料室運営委員会などの議論をへて、1996（平成8）年5月、大学史資料室のもとに「阪神大震災に関する本学の活動資料収集のためのスタッフ」が設置された。その後、各スタッフの尽力により、1997年7月までに、各部局から合計約500点、総頁数約9000頁の資料が集まった。これは、阪神・淡路大震災に関する今後の研究に役立つ資料であり、また本学の大震災に関する活動を記録する資料でもあるので、「資料リスト」を刊行し、資料利用の便宜をはかることになった。

本書の内容は二つの部分に分かれる。「I 大阪市立大学の対応と参考資料」は、「資料リスト」の利用者の参考のために、また前例のない大災害に直面してさまざまな対応を繰りひろげた本学の活動全般を把握できるように、大震災への本学の対応の概要を記述し、本学の震災対応の主要日誌及び参考資料などを掲載・収録している。「II 阪神・淡路大震災に関する大阪市立大学の活動資料リスト」は、文字通り資料リストである。資料の分量が多い理学部、工学部、医学部、生活科学部については、それぞれのリストにかんする簡単な説明（リストの概要）を付している。これら部局が、活発な活動状況を反映して、論文・報告書などの資料の分量が多くなったことが理解できよう。

なお、各部局等の紀要の特集号やこの「リスト」中の文献に、本学及び各部局等の具体的活動やその特徴を記載したものが多数含まれている。本章の終わりに各部局等発行（予定をふくむ）の紀要などをあげてあるので、あわせて参照されたい。

1 大震災に対する本学の対応の概要

(1) 地震直後の応急的対応

地震発生後、大学はただちに本学関係の被害状況の調査に着手するとともに、教務関係その他の応

急措置を講じた。

大学の建物、設備の被害は概して軽微であることがほどなく判明した（参考資料16、以下「資16」のように記す）。

1月17日当日は、教職員の出勤も容易でなかった。たとえば、商学部事務室では、9人の職員にさいわい死傷者などはなかったが、定刻出勤2名、10時3名、11時2名、12時1名、出勤不能1名という状況であった。

大学としては教職員、学生の被害状況の把握が急務であった。震災当日から、各学部などで教職員及び学生の被害状況の調査（安否調査）が始められた。教職員の安否はかなり早く判明したが、学生の安否の確認には時間がかかった。

学生の安否調査については、被災地の通信困難を考慮して、事務室からの電話確認をしばらく差し控えなければならない状況もあった。たとえば商学部では、語学授業の出席確認や友人に聞くなどの方法による安否確認方法を数日以上続け、1月24日から未確認者への電話連絡を開始した。このような被災状況調査の結果、本学の教職員・学生本人が死亡、または負傷して入院にいたった例はないことが判明した。ただし、家族が死亡したり、家屋が大きな被害を受けた教職員・学生は多数をかぞえた。また、本学卒業生にも死亡者がでた。

以上のように本学は、被災地にある大学にくらべれば被害の程度は小さかったが、被害自体はけっして小さいものではなかった。このような被災地に近接する本学の被害状況は、さまざまな意味で本学の震災対応の前提となった。

1月17日は、第1部、第2部とも全時限の授業が休講とされ、この日が提出期限であった文学部の卒業論文は延期とされた。1月19日には、教務部長名で震災のため全学共通科目の授業・試験を受けられない学生に対する追試験等の特例措置が発表された（資1）。その後、1月24日には、専門教育科目も含めて震災で試験を受けられなかった学生に追試験を行うことが発表された（資2）。

受験生の関係では、被災者の大学院博士課程（前期・後期）の出願期日（1月17～19日）の延期を認める措置、大学入試出願（1月23日～2月1日、郵送）に関して被災地からの願書の直接持ち込み等を認める特別措置の発表がなされた（資4）。

医学部附属病院（市大病院）では、17日から18日にかけて、被災患者の受け入れ体制と人的物的支援体制の確立がはかられ、1月17日から罹災患者の受け入れ、18日からは被災地などへの医療チームの派遣が始まった（資5、6）。19日には「兵庫県南部地震に関する救急体制等について」という議題で臨時診療科部長会・臨床教室連絡会議が開かれた（資7）。

大震災への本学の緊急対応は、全学的対応と部局独自の対応とが、あい呼応しながら進められた。未曾有の災害を目の当たりにして、多くの本学関係者が自発的に行動を起こした。もっとも、文学部のスタッフによる文学部全教職員にたいするアンケート調査によれば、「震災に対して特別な行動を起こさなかった」という回答が多数をしめている。しかし、そのなかには震災当日出勤し、卒論に関する学生対応を行った教員も含まれている。震災という非常事態に直面して、特別な活動とは意識しないで、多くの教職員は可能なかぎり責任を果たそうとしたといえるのではなかろうか。

(2) 大震災に対する本学の本格的対応

1月18日の臨時部局長会は、とりあえず被災学生対応の重要性を確認した。1月20日、学長名で被災した学生、教職員に対する「お見舞い」文が掲示され（資8）、また学長、部局長などによる兵庫県南部地震対策連絡会が開かれて、学生の安否調査などの震災対応措置が決定された。

1月23日、評議会が開かれた。会議の劈頭、大震災に関して本学にかかわる諸状況と対策が関係部局等から報告され、審議のうえ、今後の方策が決められた。主な内容は、① 学生・教職員の被災状況調査の継続、② 被災学生に対する特別措置、③ 大学入試出願の特例措置、④ 医学部附属病院の震災対応措置、⑤ 神戸市外国語大学への入試会場の提供などであった（資9）。

前述のように、教職員の被災状況は早期に判明し、1月26日には本人の死亡なし、重傷1名、軽傷2名、家族が死亡2名、同じく重傷2名、軽傷7名、家屋全壊11名、半壊6名、一部破損48名ということがわかった（資18）。

学生の安否調査などのため新聞広告が出され（資13）、各学部を通じて被災学生への住居等の提供の掲示もなされた（資14）。しかし、前述のように学生の被災状況の把握には一定の時間を要した。安否確認の担当部局をめぐって当初、譲りあいもあったが、結局各学部で行うことになり、教職員の努力によって、1月27日までに学生の死亡ゼロが確認された。本学の学生（第1部・第2部・大学院、留学生を含む）7903名のうち、本人または保証人が兵庫県に在住している学生は1160名であったが、学生部の2月7日現在のまとめによれば、主たる学資負担者が死亡した学生2名、その他の家族が死亡した学生5名、主たる学資負担者が負傷した学生7名、家屋全壊全焼44名（5月16日現在、62名）、半壊半焼70名（同、72名）、その他家屋一部損壊焼損・不明を合わせると被災学生の合計は263名（同、331名）となった（資21、22。合計は一部重複を含む）。

本学の外国人留学生282名のうち、被災地居住者は8名であったが、そのうち5名が被災した。被災者に対しては、教務部担当職員による住居の確保や指導教員による住居の提供など、さまざまな支援がなされた。

文部省は1月23日、高等教育局長名で、各大学宛てに被災学生の修学上の不利益が生じないように特段の配慮を講じるように通知した（資10）。さらに、国立大学協会及び公立大学協会は、文部省の意向を受けて、1月27日、各大学に被災受験生に対する特別入試（特例入試）の検討を要請した（資11、12）。それらの指示・要請を受けて、本学の震災対応の措置もいっそう具体化、本格化した。

1月30日、臨時評議会が開かれ、大震災へのそれまでの諸対応と方針について確認・拡充がなされた。その主な内容は、① 本学の被災学生への支援、② 被災受験生の出願手続等の特別措置、③ 被災地への医療チームの派遣、④ ボランティア活動、⑤ 学術調査団の派遣などであった（資20）。臨時評議会では、さらに学長、教務部長から、被災受験生への特別入試措置に関する公大協の依頼について報告があり、本学の対応について意見交換が行われた。その結果、「被災受験生への配慮から、特別入試を実施する方向で、具体的方法について入試委員会等で検討を行う」という決定がなされた。

1月30日の評議会で、本学の震災対応の基本的枠組みがほぼ決められた。以後、この基本方針を実行しながら、必要かつ可能な措置を追加していくことになった。

特例入試については、2月3日の臨時部局長会で素案が検討され、2月6日の入試委員会で原案が審議され、2月9日の臨時評議会で実施内容が決定された。特例入試は、「被災状況に鑑み、受験生の進学機会の確保を図る等の観点から、被災地の受験生の不利益を救済する方法として」実施するとされた。特例入試に関する各学部等における審議の過程では、全学的に募集人員の数が問題となったが、結果的に本学は国公立大学中、もっとも多い人数を引き受けることになった。これには、被災地に近接する大学として積極的に責任を果たすという意味が込められていたといえよう。2月13日の評議会で特例入試募集要項及び実施方法が確認され、24日から募集要項の交付が開始された（資23。特例入試については別項参照）。

2月9日の臨時評議会では、「兵庫県南部地震に伴う市立大学の対応について」という報告がされた。

これは、本学の対応を中間集約したものであった。以後、3月13日の評議会などで中間集約がなされ、大阪市市民局に報告するため事務局による中間集約も行われた。事務局による12月末現在でなされた本学被災学生・被災地などへの対応の集約を参考資料に収録しておく（資27）。

この間、日本育英会の被災学生に対する奨学生募集（資17）、本学保健管理センターによる被災者のカウンセリングの受け付け（資19）、予定された追・再試験の試験時間変更措置（資3）などが発表された。

また、図書館では被災地区大学の教員や学生に、本学図書館の図書閲覧などの利用サービスを実施し、利用延べ人数は608名となった。また、被災受験生には図書館閲覧室、教室などを自習室として開放する措置もとられた。

2月25～26日には、A日程・前期日程の試験が実施されたが、26日には、神戸市外国語大学の入試が、本学旧教養地区を第2会場として実施され、受験者総数2053名のうち、1411名が本学の会場で受験した。さらに、3月1～2日には、神戸大学大学院経営学研究科の入試が、旧教養地区を利用して行われ、約100名が本学会場で受験した。

3月1日から7日までの1週間、追・再試験が実施され、多数の学生が受験した。筆記試験によらないレポートによる試験も多数にのぼった。3月12日には、後期日程入試も実施されるなど、年度末の多くの大学業務と並行してさまざまな震災対応が行われた。3月24日は卒業式であったが、24～25日に特例入試の出願の受け付けが行われた。29日に特例入試が実施され、31日に合格者が発表された（特例入試の項参照）。

(3) その後の対応

被災学生に対する経済的支援の一助として、入学料及び授業料の減免が行われた。罹災証明書など被災の認定に必要な書類によって審査が行われ、入学料については申請者130名に対し、全額免除107名、半額免除10名、計117名の減免が行われた。授業料については、全額免除253名、3/4免除15名、半額免除11名、1/4免除8名、計287名の減免が行われた。

本学の建物等の被害は前述のように軽微であったが、復旧には、学校施設として国庫補助の対象に当たるため、大阪市教育委員会を通じて手続きなどを行い、3月中に約186万円で復旧工事を済ませ、その費用の補助対象分については3分の2が国庫補助を受けた（資16）。

震災以降、学内で発行されている広報誌紙が、あいついで大震災の特集を組み、さまざまな活動を取りあげ、被災者や救援活動の情報を伝えた。大阪市立大学広報スタッフが編集する『市大広報』『市大かわら版』、同和問題委員会等が編集・発行する『人権問題NEWS』がそれぞれ特集を組んだ。また、本学文科系同窓会の『有恒会報』、本学医学部同窓会の会報『仁瀾』、本学工学部土木会の『土木会報』などもそれぞれ震災関係の特集号を発行した。

9月には、全学共通科目・総合教育科目の特別講義「都市と震災」が開講された。集中30時間で、10名の本学教員と2名の非常勤講師が授業を行った（資28）。ただし、受講希望者が第1部・第2部合わせて484名にのぼったため抽選を行い、399名が履修を許可された。

11月22日には、大阪市立大学阪神大震災学術調査団と银杏祭実行委員会の共催で「大阪市立大学阪神・淡路大震災学術調査報告」が4号館410教室で開かれ（資29）、また本学文化交流センターによる同年の12月講座では、テーマを「都市防災—阪神・淡路大震災に学ぶ—」と設定し、全学部を網羅した講師陣で10回の講座が開かれた（資30）。さらに、12月8日の大阪市立大学人権週間記念企画では「阪神大震災と人権」のテーマで講演とパネル・ディスカッションが行われた（資31）。

2 本学のいくつかの顕著な活動について

(1) 医学部・附属病院の救援・支援活動

病院では、病院長から1月17日、18日とあいついで各診療科部長に対して被災患者の受け入れ協力体制をとるようにとの要請がなされ、19日には臨時診療科部長会・臨床教室連絡会議が開かれて被災患者の受け入れ及び人的物的支援体制を確立する方針が決められた(資5、6、7)。

ア 被災患者の受け入れ

18日以降、被災患者受け入れベッド約50床を確保するとともに、緊急対応用ベッドを第4会議室に20床設けた。また、5階講堂を被災患者の家族控え室(待機場所)とし、寝具20組を用意した。被災患者の受け入れは、3月22日までに入院患者59名、3月27日までに外来患者176名を数えた。

イ 被災地への医療救援活動

現地医療機関が甚大な打撃を受けている状況のもとで、被災地への緊急医療救援活動が求められた。それはとくに、医療チームを組織し、派遣することであった(資20、27)。

救援活動は、① 職員の派遣、② 救援物資提供、③ 人工透析患者の海上移送による収容支援などであった。

① 職員の派遣は、大阪市医療救護班として医師・看護婦の派遣、大阪市一時休息所への医師・看護婦の派遣、芦屋市立病院などの医療機関への医師等の派遣などであった。救援活動に派遣された医師・看護婦などの総計は延べ904名に達した。内訳は、医師450名、看護婦346名、事務職員71名、薬剤師26名、栄養士11名であった。

② 救援物資提供は、救急対応医薬品7万8390点、救急対応資機材1万4180点となった。

③ 人工透析患者の海上移送による収容支援とは、震災で急性腎不全患者などへの対応が現地病院のみでは困難となった状況のもとで、泌尿器科教室を中心に、現地病院と連携し、患者を大阪地区などの医療機関に移送したものである。1月20日から23日までに、受け入れ患者数延べ20名(内、市大病院への入院5名)、相談件数延べ47件となった。

森井浩世医学部教授(当時附属病院長)は、当時の病院・医学部の活動について次のように述べている。

(医学部の被災者救援活動は)基本的にボランティア精神であったと思います。特に、若い先生がそうでした。多くの若い先生から自主的な参加の申し出がありました。また、看護婦さんも山登りのスタイルで泊り込みで参加しました。病院としての対応は医療チームの派遣ですが、長期間となるため組織をつくる必要があると考え、結果的には少し活動を抑えることになったかもしれません(『市大広報』第31号、1996年11月)。

ウ その他

震災における被災死亡者への対応については、兵庫県監察医が日本法医学会に応援医師の派遣を求めて多数の検案を行ったが、医学部法医学教室からは1月19日から21日までのあいだ、医師1名が参加し、灘区において計113体の検案を行った。

(2) 特例入試の実施

通常の入試と並行して実施された特例入試は大きな困難を伴ったが、本学の特例入試は、おおよそ以下のような諸会議の開催、入試実施体制の確立、実際の入試の実施という経過で行われた。

○ 1月30日 臨時評議会 特例入試の実施を決定

- 2月3日 臨時部局長会 特例入試募集要項等の検討
- 2月6日 入試委員会 特例入試募集要項等の検討
- 2月9日 臨時評議会 特例入試募集要項及び実施方法の検討
- 2月13日 評議会 特例入試募集要項及び実施方法の確認
(1月30日以降、各学部教授会等で、特例入試の実施、募集要項及び実施方法等について審議、決定)
- 2月20日 入試委員会 特例入試募集要項及び実施方法の最終確認
- 2月24日 入試制度委員会 特例入試募集要項の最終確認
特例入試募集要項の交付を開始
- 3月6日 入試委員会 特例入試実施体制を確定
- 3月13日 評議会 特例入試実施体制を確立
- 3月24日～25日 特例入試の出願受付
- 3月27日 入試委員会 出願状況の確認、特例入試実施体制を確立
- 3月29日 特例入試を実施
- 3月31日 特例入試合格者発表、入学手続を実施
- 4月5日 入学式(全体)

特例入試実施にいたる過程では、基本的な考え方、募集人員、募集人員の表記方法、受験資格の範囲、第2部の資格要件などについて多くの論議が行われた。

特例入試の受験資格は、① 災害救助法による救助が行われた市町村に居住するか、または在学する高等学校があるもので、地震による被災の事実を証明する公的機関発行の書類などを提出できるもの、② 第1部全学部及び第2部の一部については大学入試センター試験を受験し、3月23日までにいずれの国公立大学にも合格していないものなどであった。募集人員は、第1部計約84名、第2部計約22名、合計約106名で、「試験の成績により合格者が募集人員に達しない場合があります」と募集要項に注記された。

本学の特例入試の志願者は354名(第1部313名、第2部41名)にのぼり、試験などによって88名(第1部74名、第2部14名)が合格し、81名が入学手続をとった(入学者数79名)。選抜方法は、学部によって異なったが、大学入試センター試験の成績、調査書、面接、志望動機書(第2部)などを総合して判定がなされた。

全国の国公立大学の特例入試結果は、実施大学数143、志願者数1479名、合格者数347名(入学手続者数329名)であった(資25)。本学は、1校で公立大学の合格者数の約35パーセントを引き受け、国立大学に匹敵する合格者数を出した。これは、被災地に隣接する総合大学として、被災受験生への責任を十分果たすものであった。

(3) 教員・学生などのボランティア活動

被災者を支援する大規模なボランティア活動が行われたことは、今回の大震災における注目すべき出来事であった。本学でも、多数のボランティア活動が行われた。その全容は把握できないが、その一部を記すことにする。

ア 生活科学部

病院以外で、学生・教員などがもっとも活発に組織的救援・支援活動を行ったのは生活科学部であり、学生のボランティア活動に対しては研究室として一定の支援もなされた。

社会福祉学研究室の学生は、関西の福祉系8大学の救援グループの構成メンバーとして、1月30日から3月31日まで被災地域においてボランティア活動を行った。活動内容は、避難所生活者の洗濯支援、ごみ処理の支援、社会福祉施設での介護の補助などであり、このボランティア活動に登録した学生は延べ731名を数えた。

食品栄養科学科の学生・教員による被災地での栄養指導、食品搬送、炊き出し、「食事会」が行われ、延べ30名の学生が参加した。また、生活環境学科の学生も教員に協力して住宅被害調査などの活動を行った。

生活科学部児童・家族相談所では、心理的ダメージを受けた被災者に対して無料心理相談を実施した。3月1日から臨床心理の専門家が相談にあたり、1997（平成9）年1月31日現在相談件数は43件となった。そのなかにはなお継続中の相談もある。

イ 法学部の無料法律相談活動

法学部法律相談所による被災地での無料法律相談が、3月3日西宮市、3月4日神戸市で行われ、本学名誉教授、法学部教員、本学出身弁護士、学生が、借地、借家、倒産、労働問題など計58件の相談にあたった。

ウ その他

工学部では、建築学科・土木学科などの学生が、個人的に、あるいは組織的に（研究室・学会などのメンバーとして）、構造物被害状況調査、家屋損壊状況調査などの学術調査に多数参加し、また募金活動・義援金カンパにも多数が応じた。

本学教職員組合は、震災直後から被災教職員などの援助、被災地救援などを大学に申し入れた。また、組合員にカンパを訴えて205万0870円を集め、兵庫県南部地震災害救援義援金に送った。

三大学（本学・一橋大学・神戸大学）学生研究討論集会は、1月23日から2月3日の間に、義援金・救援物資を募集して、義援金16万4459円を集め、毎日新聞大阪社会事業団に託し、救援物資は車などで被災地に届けた。また、第2部自治会も、同期間に、義援金・救援物資の募集を行い、集めた義援金18万6943円を毎日新聞大阪社会事業団に託し、救援物資は被災地の病院へ直送した。この他、学生サークル、クラス単位での各種ボランティア活動が行われた。

本学生協同組合は、現地での人的支援とともに、救援募金46万2355円を集め、市大関係被災者救援のため学生部に20万円、大学生協連に26万2355円を託した。

本学卒業生で震災地域居住者は少なくない。有恒会は、事務局が会員の安否を調査するとともに、被害を受けた会員の状況を会報などで伝え、被災者を激励し、支援のネットワークづくりなどの活動を行った。

ボランティア活動の全貌は把握できないが、以上のように「ボランティア元年」といわれる大規模な活動に本学学生も少なからず参加した。ボランティア活動のあり方についても、活動経験を積むなかで議論され、被災地に負担をかけず、独自行動ができるボランティアが望ましいあり方であるという認識がしだいに広がった。それぞれのスタイルで、多様なボランティア活動が行われ、日ごろ目立たない学生が献身的活動を行ったケースもあったといわれる。

エ 二次災害への保障の問題

生活科学部では、ボランティア活動の経験をふまえ、関係者によってボランティアが有害物質などで二次被害を受けた場合の保障や保険制度の必要性が指摘された。

学生委員会では、現地でダイオキシンなど有害物質による二次災害を受けるおそれがあるとして、その保障が必要であるという意見が出された。また医学部では、大学院生・研究生がボランティア活

動で二次災害を被った場合の保障について文部省及び厚生省に問い合わせを行ったが、保障制度はないということであった。

関係者のあいだで、ボランティア活動における二次災害への保障の問題について共通の認識が生まれたことは重要であるといえよう。

(4) 学術調査団及び調査・研究活動

阪神・淡路大震災は、自然の猛威をまざまざとみせつけ、また現代日本の都市文明の脆弱性をあばき出すものでもあった。大学本来の使命は学問にあり、それは自然と人間と社会について根底的かつ総合的に問題を考究することである。そのような意味で、震災に関する学問的研究で成果をあげることは、大学及び大学関係者の重要な任務であり、社会的責任でもあった。また、都市型総合大学を理念にかかげる本学が、その理念にてらしてどのように震災に対応したかふり返ることも意味があることである。本学関係者のなかには、以上のような専門研究者としての自覚のもとに、大きな成果をあげたものが多数いることは本書の「リスト」によって確かめられるであろう。各専門分野の研究成果についてはここではふれない。ただし、阪神大震災学術調査団の活動などは、震災を契機に盛りあがった本学関係者の研究活動の雰囲気をよく示すものであるので、簡単にそれらの活動の概要を述べることにする。

ア 大阪市立大学阪神大震災学術調査団

震災後、理学部地球学科が中心となって学内に呼びかけ、1月23日、研究集会が開かれ、48名が参加した。そこで、今後の調査方針などが協議され、同日、大阪市立大学阪神大震災学術調査団が結成された。趣旨は、救援活動は必要であるが、時機を失しないでいろいろな分野・角度から現地調査を行って実情を把握し、将来に役立つデータを得、諸施策の立案の参考にするというものであった。団長を弘原海清理学部長とし、メンバーは文学部、理学部、工学部、生活科学部の教員25名をベースとして構成された(資32)。連絡先は理学部地球学科都市地盤研究室であった。調査区域は、兵庫県南部及び大阪市などとされた。

以下、学術調査団及び同団が中心となって行った主な活動をあげる。

- 2月9日 前兆現象依頼 前兆現象調査グループが、アンケート調査を各マスコミに依頼、FAXでデータを収集。
- 2月24日 中間集計報告会 10日間で1200件以上のデータが寄せられた(3月末現在1519件)。動物の異常行動、自然の異常現象等の調査概要が報告された。マスコミの取材が多数あった。
- 3月13日 緊急合同報告会(田中記念館、参加者500名以上、各マスコミが取材)。合同調査班は、1月31日から2月5日までに、延べ115名が参加、六甲山地東部及びその周辺の地盤変状、断層活動に焦点を当てて調査。

○ 3月21日現在の調査概略

1月20日から3月21日まで、延べ調査人員は4学部、294名。

区域と内容

- ① 神戸市・淡路島……活断層、液状化・流動化、家屋・土木構造物被害調査
- ② 芦屋・伊丹・宝塚……活断層・亀裂・地盤変状、墓石倒壊
川西・池田・豊中……家屋構造物被害調査
- ③ 尼崎・大阪・堺……液状化・流動化
- ④ 高石・岸和田……家屋・土木構造物被害調査

- 6月18日 公開シンポジウム「阪神淡路大震災と自然保護」（関西自然保護機構主催、本学基礎教育実験棟階段教室、参加者約100名）

内容は、阪神淡路大震災と前兆現象、大震災と都市地盤、震災と緑の機能、都市における自然。

- 10月29日～11月2日 国際学術シンポジウム「国際地球情報シンポジウム—地球：環境・資源・災害—」（大阪市立大学・シンポジウム組織委員会・国際数理地質学会・日本情報地質学会・情報知識学会の主催、会場は大阪国際交流センターほか）

内容は、阪神・淡路大震災、環境問題、資源開発、自然災害などに関する6セッションの学術シンポジウムのほか、市民のための公開講座、ワークショップ、レセプションなど。参加者は学術シンポジウム延べ約450名を含め、延べ1000名を越えた。海外から16カ国41名の参加者があった。

学術調査団と本学学術情報総合センター教員組織の「データベースを含むメディアシステム部門」とが協力して、阪神大震災画像データベースの検索システムが作成されている。そのなかには、神戸地域地理情報データベース、阪神・淡路大震災被害現地調査写真データベースなどが含まれている。インターネットで大阪市立大学のホームページ (<http://www.osaka-cu.ac.jp/>) にアクセスすれば見ることができる。なお、学術調査団の活動の成果は、いずれ調査団自身によって詳しく報告される予定である。

イ その他

震災関係の研究成果については、先に述べたように本「リスト」そのものを参照されたい。

なお、文科系でもさまざまな活動がなされている。社会・経済システム学会関西支部は、震災以来、本学その他を会場にして、大震災に関する研究シンポジウムを継続的に開催している。被災した史料を救出・保全する目的で、歴史学関係者によって組織された歴史資料保全情報ネットワーク（歴史資料ネットワーク）には、本学文学部の教員、大学院生が参加して活動している。また、震災後、本学教員有志が組織した研究会・阪神大震災社会問題調査機構によって新聞、書籍の収集もなされた。

（参考 各部局等の紀要等）

大阪市立大学商学部・大阪市立大学経営学会『CORE—阪神淡路大震災特別号』1995(平成7)。

8.31

大阪市立大学文学部『人文研究—阪神・淡路大震災特集号』（1997年度中に刊行予定）

大阪市立大学工学部『大阪市立大学工学部紀要特別号—阪神・淡路大震災の調査・報告』1997(平成

9).1

大阪市立大学事務局『市大広報』第26号（特集：阪神大震災）1995.4

同 第27号（特集：阪神大震災II）1995.7

同 第30号（特集：阪神淡路大震災から1年半）1996.7

同 第31号（特集：阪神淡路大震災から1年半II）1996.11

大阪市立大学事務局『市大かわら版』第15号（座談会・阪神大震災—ボランティア活動の経験を語る）1995.4

（大阪市立大学）同和問題委員会・障害者問題委員会・外国人学生問題委員会・女性問題委員会『人権問題NEWS』第21号（特集：阪神大震災と人権）1995.12

震災対応の主要日誌

1997年1月17日～4月5日

- 1月17日(火) 全学全時限休講措置
大学院出願受付の延期(1月19日までを1月20日まで延期し、持参と消印を有効とする)
医学部附属病院長、各診療科に震災救急体制を要請(資5)
- 18日(水) 臨時部局長会
○被災学生対応の必要性確認
附属病院長、被災患者受入れ協力の要請(資6)
- 19日(木) 後期試験等について学生への通知文を掲示(資1)
附属病院で臨時診療科部長会・臨床教室連絡会議を開き、震災救急体制確立をはかる
(資7)
- 20日(金) 全学震災対策連絡会を設置
全学第2次試験事務打ち合せ会
○震災に伴う入試出願への対応(資4)
学長から被災者への見舞文を掲示(資8)
- 23日(月) 学部第2次入試出願開始(2月1日まで)
後期試験開始(2月3日まで)
文部省、被災学生の修学上の不利益解消の措置を指示(資料10)
評議会(資9)
○教職員、学生の被災状況調査の継続
○被災教職員への一時居住特別措置として田中記念館を提供
○被災学生への一時居住特別措置として大阪府ヤングタウンを共益費のみで提供等
宿舎の斡旋
○被災学生の入学料・授業料減免措置の検討
○留学生への対応(宿舎を中心として)
○全学建物・設備被害状況の報告
- 臨時部局長会
○後期試験を受験できない被災学生に対して、3月1日～7日に追試験の実施を決定
- 大阪市立大学阪神大震災学術調査団の結成
- 24日(火) 後期試験追試験実施について周知文を掲示(資2)
○安否等の連絡を求める新聞広告(資13)
- 25日(水) 全学教務委員会
○後期試験への対応を検討(特に卒業・修了・進級予定者への配慮)
日本育英会震災関係奨学金貸与募集を開始(資17)
- 26日(木) 大阪市職員の被災地派遣を開始
事務局による教職員の被災状況のまとめ(資18)
- 27日(金) 文部省、被災受験生支援のため国公立大学に図書館・教室の開放等の検討を要請

- 国大協・公大協、各大学に特別入試の検討を要請（資11、12）
保健管理センターが被災学生のためのカウンセリングを開始（資19）
- 30日(月) 臨時評議会（資20）
- 震災特例入試の実施を決定
 - 大阪市立大学阪神大震災学術調査団の結成を承認
 - 神戸市外国語大学への入試会場提供を決定
 - 被災地区大学教員・学生に本学図書館利用サービスを開始
- 2月3日(金) 臨時部局長会
- 震災特例入試募集要項等の検討
 - 震災関係各種対応の検討
- 追・再試験時間帯等の変更（資3）
- 6日(月) 入試委員会
- 震災特例入試募集要項等の検討
- 学生部が被災受験生への参考書や学用品・文房具等の提供を在學生に呼びかけ
- 7日(火) 学生部による学生の被災状況中間まとめ（資21）
- 9日(木) 臨時評議会
- 震災特例入試募集要項及び実施方法の検討
 - 兵庫県南部地震に伴う市立大学対応のまとめを報告
- 学生部
- 被災学生へ授業料、住居等についての相談受付を新聞広告（資15）
- 13日(月) 評議会
- 震災特例入試募集要項及び実施方法の確認
 - 震災関係への各種対応の検討
- 15日(水) 学生部委員会
- 被災学生に対する授業料・入学金の減免並びに市大奨学金に対する要望書のまとめ
- 20日(月) 入試委員会
- 震災特例入試募集要項及び実施方法の最終確認
- 24日(金) 入試制度委員会
- 震災特例入試募集要項の最終確認
- 震災特例入試募集要項の交付を開始（資23）
- 25日(土) 第2次前期日程入試を実施
- 26日(日) 神戸市立外国語大学に入試会場を提供
- 27日(月) 第2次私費外国人留学生入試を実施
- 3月1日(水) 追試験及び再試験を実施（3月7日まで）
- 6日(月) 入試委員会
- 震災特例入試実施体制を確定
- 10日(金) 第2次前期日程合格者発表
- 12日(日) 第2次後期日程入試を実施
- 13日(月) 評議会

- 震災特例入試実施体制の確立
- 震災関係各種対応の中間まとめ（学生の安否・被災状況調査、授業料・入学料の減免、奨学金の特別募集の周知と申請受付、短期貸付金枠の拡大、特別家賃宿舍等の斡旋、被災学生のための特別カウンセリング実施、震災による就職内定取消状況調査、学生のボランティア活動状況等）（資24）

学生部が平成6年度授業料分納者のうち被災学生への貸与制度の開始

24日(金) 卒業式

震災特例入試の出願受付を開始（3月25日まで）

27日(月) 入試委員会

- 震災特例入試出願状況の確認
- 震災特例入試実施体制の確認

授業料等減免審査委員会

- 震災に伴う入学料減免審査の特例措置を決定

29日(水) 震災特例入試を実施

31日(金) 震災特例入試合格者発表、入学手続き実施（資25）

事務局「兵庫県南部地震に伴う市立大学の対応について」の中間まとめを大阪市市民局へ報告

4月4日(火) 入学関係書類提出日

5日(水) 入学式

参 考 資 料

(資1)

兵庫県南部地震に伴う全学共通科目の授業・試験について

- 1 全学共通科目の授業は平常どおり、定期試験は予定どおり実施します。
- 2 災害のため全学共通科目の授業・試験に出席できないと判定される学生には、追試験等の特例措置を講じます。
 - (1) 追試験等の特例措置対象科目
全学共通教育の全科目
 - (2) 追試験の予定日
3月3日(金)・6日(月)・7日(火)
- 3 上記2に該当する学生は、2月6日(月)までに学部教務係へ届けて下さい。

(やむを得ない場合は電話連絡等でも可)

平成7年1月19日

教 務 部 長

(資2)

兵庫県南部地震に伴う全学共通科目及び専門教育科目の
追試験について（第1部・第2部）【変更】

災害のため定期試験を受験できなかった学生への追試験の日程を
次のとおり変更します。

記

1 全学共通科目及び専門教育科目の追試験の日程

3月1日（水）～7日（火）の5日間

（ただし、土曜・日曜を除く）

2 追試験該当者及び試験時間割発表

2月23日（木）第1部 午後1時

第2部 午後3時

あなたの友人で被災地の人がいましたら、上記の変更を連絡
してあげてください。

平成7年1月24日

教 務 部 長
商 学 部 長
経 済 学 部 長
法 学 部 長
文 学 部 長
理 学 部 長
工 学 部 長
医 学 部 長
生 活 科 学 部 長

(資3)

兵庫県南部地震に伴う追・再試験の
試験時間帯等の変更について

[全学共通科目・専門教育科目]

兵庫県南部地震に伴い阪神間の鉄道路線は現在も一部遮断されており、復日には、なお期間を要するものとみられています。

そのため、鉄道の代替路線・代替バスを利用したとしても、1時限目等の科目が受験できない人がいる見込みです。

つきましては、3月1日(水)～7日(火)に実施する追・再試験は、試験時間を60分とし、試験時間帯を次のとおり変更します。

なお、通常の追・再試験も同様の扱いとなります。

記

部	時限	時 間
第 1 部	1	10:30~11:30
	2	11:40~12:40
	3	13:30~14:30
	4	14:40~15:40
	5	15:50~16:50

部	時限	時 間
第 2 部	1	18:30~19:30
	2	19:40~20:40

平成7年2月3日

大阪市立大学

平成7年1月20日
大阪市立大学

〔担当：教務部教務課〕
☎：605-2131〕

兵庫県南部地震に伴う入試の出願手続について

大阪市立大学では、兵庫県南部地震に伴う入試の出願手続について下記のとおり決定しましたので、お知らせします。

記

- 1 出願期間は、予定通り郵送のみで、1月23日（月）から2月1日（水）17時必着ですが、1月30日（月）から2月1日（水）の3日間は、被災地からの「出願書類」の直接持ち込み（代理人を含む）を受付します。
（受付時間は、10時から17時まで）
- 2 出願書類のうち「調査書」については、後日提出をみとめます。
- 3 入学願書は、郵便事情も考慮して、早く提出してください。
- 4 出願書類の入手が困難など、困ったことは、ご相談ください。

（連絡先 大阪市立大学教務部

☎ 06-605-2131）

兵庫県南部地震に伴う第2次試験の対応について

- 1 入学願書（学生募集要項）の取り寄せに関して
 - (1) 文化交流センターに取りに来るように案内する。
（大阪駅前第3ビル 17階）
 - (2) 遠隔地は、「宅急便の着払い」を行う。
 - (3) 交通機関が不通で取りに来ることができない場合は、大学負担で「速達郵便」で発送する。（郵便料金は、後日返送させる。）

- 2 出願受付に関して
 - (1) 受付期間は、原則として「1月23日（月）～2月1日（水）17時」とする。（2月2日の朝一番の到着分まで処理する。）
 - (2) 出願方法は、原則として「郵送」とする。（時間的に余裕があれば、住吉郵便局に持参させる。＝2月1日〔水〕17時まで受理する。）
なお、被災地からの「出願書類」の直接持ち込み（代理人を含む）を受け取る。（受付時間は、10時から17時まで）
 - (3) 上記(1)(2)項で対応できない場合は、状況により考慮する。
2月2日（木）以降に郵便で「出願書類」が到着した場合、状況を考慮して、原則として「受理」する。

- 3 大学入試センター試験「成績請求票」紛失等について
 - (1) 大学入試センターに再発行の申請を直ちに行うように指示する。
大学入試センター事業第一課 （☎03-3465-8600）
 - (2) 「成績請求票」が出願期間に到着しがたい場合は、次の内容を記載したものを出願書類に同封して出願する。
① 氏名、② 生年月日、③ 再発行申請日及び申請した方法（電話による等）、④ 出身高等学校名、⑤ 他の国公立大学への出願学部・日程、⑥ 大学入試センター試験「受験番号」「試験場コード」

- 4 「調査書」及び「健康診断書」等の不足について
 - (1) 出願は受理する。
 - (2) 同封できない理由書を同封する。（提出予定日を記入する。）

願書配付

- 大阪府下、京都府南部、奈良県北部、和歌山県北部
兵庫県（西宮市、宝塚市）以東

大学に取りに来させる

（北部から来る者は文化交流センター＜大阪駅前第3ビル17階＞を指示する）

- 遠隔地

宅配便「着払い」で発送する。

（大阪に知り合いのある者は「取りに来てもらう」ことを依頼させる）

- 宅急便、交通手段のない地域（下記）

大学負担で発送「速達郵便」（後日、返送させる）

390（郵便料金） + 370（速達料金） = 760円（合計）

* 宅急便の不通地域
芦屋市、 尼崎市、 伊丹市、 川西市
神戸市、 三田市、 宝塚市、 西宮市
淡路島（洲本市、津名郡、三原郡）
多紀郡、 川辺郡、 美濃郡、 氷上町

P

平成7年1月17日

各診療科部長殿

病院長代理
中井義明

兵庫南地震に伴う院内体制について

本日の地震に伴う、神戸、阪神間で
大きな被害がもたらされ、本院におい
ては、次救急の受け入れが求められる可能性が
あり、各診療部において、その応援
体制がとれるように、下記をお願いいた
す。

P

平成7年1月18日

各診療科部長殿

病院長

兵庫南地震に伴う患者受け入れ体
制の協力依頼について

大阪市消防局及び環境保健局を通じ、
震災罹災に伴う患者受け入れの協力依
頼が参っておりますので、各診療科に
おけます病棟運用におきまして、可能に限
り、ご協力をお願いいたします。

(資7)

平成 7年1月19日

殿

病 院 長

臨時診療科部長会・臨床教室連絡会議の開催について

標題について、臨時診療科部長会・臨床教室連絡会議を次のとおり開催いたします。

記

日 時 平成 7年 1月19日(木) 午後4時から

場 所 病院 18階 第1会議室

議 題 兵庫県南部地震に関する救急体制等について

関係機関から兵庫県南部地震に関し本院へ応援の要請があり、昨日より患者の受け入れを行なっています。
診療科部長または医局長の出席をお願いいたします。

お 見 舞 い

このたびの兵庫県南部地震で被害を受けられました学生、教職員の皆様に対し、謹んでお見舞い申し上げます。

一日も早く復旧されますことを心からお祈り申し上げます。

平成7年1月20日

大阪市立大学長

兵庫県南部地震関係

H7. 1. 23

1. 兵庫県南部地震対策連絡会の開催(1/20)

2. 対策事項

- ①大学建物、設備の被害状況
- ②学長見舞い文の掲示
- ③学生の安否調査
- ④教職員の安否調査
- ⑤被災学生の定期試験等に対する措置
- ⑥学生の安否照会及び定期試験等に対する措置のための新聞広告
- ⑦入試出願期間の特別措置
- ⑧被災教職員に対する特別措置……田中記念館の宿泊
- ⑨被災学生に対する特別措置……合宿所の宿泊、さつき会貸付金の特別増額、
大阪府住宅供給公社「ヤングタウン」の家賃・敷金免除
- ⑩被災傷病人の受入れ及び救援医療チームの派遣(医学部)
- ⑪神戸市外国語大学への入学試験会場の提供

(資10)

文高大第34号
平成7年1月23日

各国公立大学長
各国立短期大学部学長 殿
各国公立高等専門学校長

文部省高等教育局長
吉田 茂

兵庫県南部地震に伴う学生の修学等について（通知）

兵庫県南部地震により、被災地域にある大学、短期大学及び高等専門学校の学生はもとより、その他の大学等においても当該地震により被災した地域に関わりのある学生について、授業や試験等を受けられないなど修学上支障が生じています。

各大学等におかれましては、今回の地震による被害の重大性に鑑み、補講及び追試の実施、卒業論文及び学位論文等の提出期限の延期、レポート等の活用による単位認定等の方法も含め、所要の措置を御検討の上、学生の修学、進学及び就職に不利益が生じないように弾力的に取扱うなど特段の御配慮をお願いします。

また、諸措置を取られた場合には、学生、教員及び事務職員等への周知徹底に御配慮されるよう宜しくお願いします。

(資11)



公大協第 54号
平成7年1月27日

各公立大学長 様

公立大学協会
会長 伊東 信行
第2委員会
委員長 山住 正己
(公印省略)

阪神大震災で被災した受験生への配慮について (依頼)

標記の件については、各大学において出願手続きの便宜等すでに配慮されていること
と思います。日を追って災害の状況、規模が明らかになってくるにつけ、被災した受験
生に対しては、公立大学としても、さらなる配慮を検討する必要があると考えられます。

本日、公立大学協会正副会長、同第2委員会正副委員長が集まり、今後の対応につ
いて、検討いたしました。

公立大学の場合は、地域的な特性や設置者がそれぞれ異なることなど、各大学の置か
れている状況は様々ではありますが、公立大学としての使命や、被災した受験生に対す
る進学機会の確保と、受験の公平性を考慮しつつ、各大学において、その実情に応じた
判断に基づき、特別入試を実施するなどの対応を検討していただくことが望ましいと考
えます。この点につき、本日の意見交換の結果、各大学に検討をお願いすることで意見
が一致しました。

つきましては、以上の趣旨をご理解の上、各大学におかれましては、この件に関する
判断、対応策について検討されますよう、お願い申し上げます。

なお、実施する場合の対応策については、各大学の実情により、異なるとは考えま
すが、公立大学協会としては、原則として別紙のとおりとしたいと考えますので、よろ
しく願いいたします。

(資12)

平成7年1月27日
公立大学協会会長、副会長
公立大学協会第2類委員、委員

阪神大震災で被災した受験生に対する対応措置について

- (1) 措置の内容 特別入試を原則として実施する
- (2) 受験対象者 原則として、災害救助法に基づき指定された被災地（15市7町）に住居や高校がある者で被災した受験生
- (3) 試験方法 大学入試センター試験成績、調査書、面接、小論文等による
- (4) 試験日程 ①3月末から4月上旬の間
②特別入試の併願は認めない
- (5) その他 各大学の入試日程、試験方法等については、2月10日頃までにとりまとめ、公立大学協会として一括公表する

(資13)

謹んで震災お見舞い申し上げます。
大阪府立大学の学生の皆様へ
安否を大学へお知らせ下さい。被災学生の定期試験等は、
別途対応しますので所属学部教務係へご連絡下さい。

大阪府立大学
〒565-0871 大阪府吹上区吹上1-1-1
TEL 06-6602-2203 FAX 06-6602-2203
E-MAIL: info@oita-u.ac.jp

1995.1.24
朝日、毎日、読売
産経各紙に掲載

(資14)

兵庫県南部地震被災学生へ

兵庫県南部地震により被災し、住居等に困っている学生について、下記のとおりお知らせします。

記

住居関係（被災学生のみ）

施設	所在地	収容人員、条件等	申込み方法等
大阪市立大学合宿所	大阪市立大学内	臨時宿泊 男 1室(12人) 女 1室(12人) 無料 3月15日まで入所可 先着順	学部教務係
ヤングタウン (大阪府住宅供給公社)	堺市三原台2丁 (東北ニュータウン東区) 東区高津駅前 「東区」下車 徒歩約10分	300人(単身) 共益費 月5,850円 (敷金・保証金) 先着順	(株)青少年の町 0722(91)5001 1月25日 午前9時～ 直接申込み ・罹災証明 ・学生書 ・印鑑 ・共益費2ヶ月分 (5,850×2ヶ月) 必要

貸付金（被災学生のみ）

- さつき会貸付金の臨時増額
 - ・貸付金額 30,000円（無利子）
 - ・貸付期間 6カ月以内
 - ・貸付人数 20名
 - ・申し込み 学生課

平成7年1月23日

工学部 教務係

(資15)

阪神大震災の被災者の皆様に 心よりお見舞い申し上げます。

学校通信

この欄は、地震関係の学校からのお知らせです。
詳しくは、各学校へ直接お問い合わせ下さい。

企画・制作／読売新聞大阪本社広告局

☆大 学

▽新入生及び在學生には、被災の程度に応じて学費が減免されます。入学予定者には授業料納付金の延納を認めます。
四天王寺国際仏教大 入試係

▽被災した大學生及新入生の住居を募集します。ホストファミリーも歓迎、情報お待ちします。

神戸商科大学 学生課
TEL 078(794)6161

▽神戸学院大からのお知らせ
◎学位記授与式(卒業式)は3月28日午前10時より行います。
◎4月からの行事は予定どおり行います。

▽被災により納付が困難な入学科
・授業料の減免、奨学金、下宿の斡旋等については、相談ください。大阪府立大 学生部
TEL 06(605)2101

1997.2.9 読売夕刊

(資16)

市立大学杉本地区の被害は、校舎の壁面のクラックや外壁タイル・壁ジョイント部等の落下、窓ガラスの破損等の被害があった、反面、老朽化した建物ではこの震災による被害であるかどうか判明できない状況の物もあった。

また、北区梅田の大阪駅前第3ビルにある市立大学文化交流センターでは、天井パネルが落下する被害があった。

復旧は、学校施設として、国庫補助の対象に当たるため、大阪市教育委員会を通じて大阪府へ諸手続き等を行い、3月中に約186万円で復旧工事を済ませた。その費用の補助対象分については、3分の2が国庫補助を受けた。

しかし、老朽化した建物ではこの震災による被害と判明できなかった物や、修理を検討したが被害の程度から修理するに至らなかった物もあった。

校舎建物施設名	被害状況の概要
商学部棟	壁面のひび割れ
図書館書庫	壁ジョイント部の落下
田中記念館	窓ガラスの破損
理学部棟渡り廊下	外壁タイルの落下
第1体育館渡り廊下	天井ひび割れ
法学部棟	壁の亀裂等
工学部F棟	壁の亀裂等
理学部棟	壁のひび割れ等
保健管理センター	壁・検査台のひび割れ
3号館北側	舗装タイルひび割れ
基礎教育実験棟南側	舗装タイルひび割れ
工学部C棟研究室	GHP機器の破損
文化交流センター	天井パネルの落下
理学部附属植物園	作業棟屋根瓦のズレ

施設被害状況の概要

校舎建物施設名	復旧費用額(千円)
商学部棟	1,122
図書館書庫	
田中記念館	
理学部棟渡り廊下	184
工学部C棟研究室	271
文化交流センター	282
計	1,859

施設の復旧概要

(資17)

平成7年1月25日

各 学 部 長
各 研 究 科 主 任 様

学 生 部 長

日本育英会奨学生の兵庫県南部地震による
災害採用について（通知）

標題について、日本育英会より別紙のとおり通知がありましたので
お知らせします。

被災した学生から、日本育英会の奨学金貸与について問い合わせや
希望があった場合は、学生課まで申し出るよう周知してください。

(資17の参考資料)

【日本育英会奨学金－平成7年度阪神・淡路大震災－採用者数】

	学 部		大学院	合 計
	1 部	2 部		
商 学 部	6	2	0	8
経 済 学 部	9	0	1	10
法 学 部	5	3	0	8
文 学 部	7	1	1	9
理 学 部	1	－	3	4
工 学 部	20	－	1	21
医 学 部	1	－	3	4
生活科学部	7	－	0	7
合 計	56	6	9	71

(資18)

兵庫県南部地震にかかる教職員の被災状況（平成7年1月26日現在）

① 教職員及び家族の負傷状況

	本人				家族（同居）				家族（別居）				備考
	死亡	重傷	軽傷	計	死亡	重傷	軽傷	計	死亡	重傷	軽傷	計	
教員		1	1	2			3	3			1	1	
職員			1	1			1	1	1	2		3	
名誉教授							2	2					
その他									1			1	
合計		1	2	3			6	6	2	2	1	5	

② 現住家屋の損壊状況

	全壊			半壊			一部破損			備考
	居住可	不可	計	居住可	不可	計	居住可	不可	計	
教員		3	3	2		2	18	2	20	
職員		2	2		2	2	20	1	21	
名誉教授		5	5	1	1	2	2		2	
その他		1	1				4	1	5	
合計		11	11	3	3	6	44	4	48	

③ 自宅からの出勤が困難なため、一時避難先から出勤している者

	本学の施設 （田中記念館等）	親類・知人宅	その他 （ホテル等）	計	備考
教員	2	6	5	13	
職員	3	6		9	
その他		2	1	3	
計	5	14	6	25	

(1995.1.30 臨時評議会資料)

「阪神大震災」の被害を受けられたみなさんへ

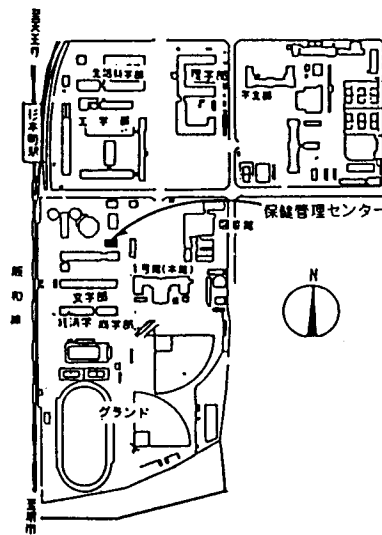
このたびの被災を心よりお見舞いたします。みなさんの直面されている悲惨な状況とお気持ちを推測するだけで深い痛みを覚えます。同時にここまでサーバイバルされてこられた勇気とがんばりに畏敬の念を感じています。

当カウンセリング・ルームでは、学生生活上直面している問題、精神的な不安や負担、地震の恐怖などについての相談に応じますので、お気軽に来談ください。

相談の日時は原則的には予約制にしていますので、直接もしくはお電話にて予約ください。時間は9時～5時です。緊急の場合には、そのむね申し出てください。時間なども、できるだけご希望にそうように努力いたします。専門のカウンセラーがお待ちしております。

場所：大阪市立大学保健管理センター内
カウンセリング・ルーム

電話：06-605-2108



大阪市立大学保健管理センター内 カウンセリング・ルーム



兵庫県南部地震に伴う市立大学の対応について

◎ 学生支援

○ 試験対応（定期・入試）

- ・全学共通科目の試験は平常どおり実施するが、被災学生については、追試験・レポート提出等の特例措置をとる
- ・4年次、MC2年次生等卒業予定者については特に配慮する
- ・大学院博士課程の出願受付(1/17～1/19)を20日(消印有効)に延長
- ・2次試験の願書配付の措置を遠隔地：宅配便の着払い、被災地：速達郵便で発送(大学負担、後日納付)
- ・2次試験の出願手続きを(被災地のみ)直接持込可(1/30～2/1)、調査書の後日提出可、その他電話相談受付

○ 卒業論文

- ・卒論提出期限を延期
- ・震災で卒論原稿を紛失した者等については、生原稿で審査するなど特別な配慮を行う

○ 宿舍等斡旋

- ・家屋損壊の学生に府住宅供給公社「ヤングタウン」(家賃・敷金免除)等の廉価な住居を斡旋
- ・緊急避難として、学内の合宿所を提供

○ 留学生対応

- ・被災地居住者9名の内4名が被災し、内2名が仮居住を希望しており、1名は大阪国際交流センターの配慮により借り上げ住居に入居、1名は本学留学生宿舍・府市留学生宿舍への入居を斡旋

◎ 大阪市立大学阪神大震災学術調査団の派遣

- ・被害状況をいろんな分野、角度から現地調査を進め実情を把握することにより、近い将来大いに参考になる資料も得られ、また、都市生活上の諸施策立案上の支援に生かすため、理学部長を団長とする学術調査団を結成し、現地調査へ派遣している

◎ 神戸市外国語大学へ入試会場の提供

- ・2次試験の学外会場として、本学の旧教養地区の2・3・4号館を2月26日に提供

◎ ボランティア活動

○ 生活科学部人間福祉学科社会福祉学研究室を中心とした救援チームの派遣

- ・1月30日～2月3日 兵庫県下の社会福祉施設へ 総数約120名

(資20-2)

◎ 医療チームの派遣関係

- 1月18日 芦屋市立芦屋病院へ 医師8名

- 大阪市共同医療救護班
 - ・ 1月19日～21日 神戸市へ 医師2名 看護婦5名
〔全体：医師5名、看護婦10名、事務2名〕
(第1次)
 - ・ 1月21日～23日 神戸市へ 医師2名 看護婦5名
〔全体：医師5名、看護婦10名、事務2名〕
(第2次)
 - ・ 1月23日～25日 神戸市へ 医師2名 看護婦5名
〔全体：医師5名、看護婦10名、事務2名〕
(第3次)
 - ・ 1月25日～28日 神戸市へ 医師2名 看護婦4名
〔全体：医師5名、看護婦10名、事務2名〕
(第4次)
 - ・ 1月28日～31日 神戸市へ 医師2名 看護婦4名
〔全体：医師5名、看護婦10名、事務2名〕
(第5次)

- 大阪市一時休息所へ医師派遣
 - ・ 1月25日～2月1日 大淀コミュニティセンター 医師1名 看護婦1名
※ 28日より(午前：大淀コミュニティセンター、午後：福島コミュニティセンター)
- 神戸市災害対策本部へ精神科医師派遣
 - ・ 1月25日～31日 神戸市災害対策本部 医師2名

- 西宮市へ小児科医師及び看護婦派遣
 - ・ 1月25日～2月1日 西宮市立中央病院 延べ 医師29名 看護婦50名
 - ・ 1月26日～27日 事務4名
- 関連病院へ医師派遣
 - ・ 1月21日～2月6日 医療法人浩生会舞子台病院 延べ 第2内科医師23名
 - ・ 1月24日～2月6日 神戸朝日病院(神戸市長田区) 延べ 第3内科医師29名

- 人工透析患者を海上移送による府内病院収容支援
 - ・ 1月20日～23日 大阪港↔六甲アイランド 泌尿器科医師1名 事務2名
(受入れ患者延べ20名、相談件数延べ43件)

- 救急対応医薬品、資器材等の救援物資関係
 - ・ 1月18日 芦屋市民病院へ (医薬品：段ボール 1箱・資器材：段ボール 1箱)
 - ・ 1月19日 大阪府医療対策課へ (医薬品：段ボール 4箱・資器材：段ボール13箱)
 - ・ 1月21日 神戸市の被災地へ (医薬品：段ボール25箱・資器材：段ボール16箱)
 - ・ 1月23日 神戸市の被災地へ (医薬品：段ボール25箱・資器材：段ボール 9箱)
 - ・ 1月25日 神戸市の被災地へ (医薬品：段ボール 1箱・資器材：段ボール 1箱)
 - ・ 1月25日 大淀コミュニティセンター (医薬品：段ボール 4箱・資器材：段ボール 2箱)
 - ・ 1月28日 神戸市の被災地へ (医薬品：段ボール18箱・資器材：段ボール 1箱)

◎ 罹災患者受入れ

- 1月17日～29日 市大病院への受入れ 入院患者延べ52名 外来患者延べ90名

阪神大震災による学生の被災状況

H7. 2. 7 学生部

学 部	商学部 2203	経済学部 2253	法学部 2303	文学部 2353	理学部 2503	工学部 2653	生活科部 2803	医学部 14-2731	教務部 (留学生)2131	合 計
学生数(1部・2部・院・ 学部院留学生含む)	1137	1196	1076	953	748	1397	616	723	研修生等57含む (283)	7903
本人又は保証人が兵庫県在住	178	197	138	142	96	231	93	85	(8)	1160*
“ 豊中・池田・吹田・箕面	52	60	59	55	30	79	36	49		420
“ 福島・西淀・滝・元正・此花	19	20	16	13	9	24	10	16		127
被災状況	8学部は留学生除く								留学生分	
本人死亡	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
本人負傷(要入院)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
扶養学資負担者死亡	0	1	0	1	0	0	0	0	0	2
その他の家族死亡	0	4	0	0	0	1	0	0	0	5
扶養学資負担者負傷	0	1	0	1	1	1	0	3	0	7
家屋全壊・全焼	2	10	6	8	3	9	1	1	4	44
家屋半壊・半焼	8	10	12	12	3	15	8	2	0	70
家屋一部損壊焼損	9	6	11	17	3	36	11	8	0	101*
家屋損壊・程度不明	3	0	0	0	25	0	0	5	1	34*
(参考)震災による追試希望者	30	30	74	21	13	121	17	5	学部を含む	311

*とりあえず兵庫県全域数。災害救助法適用10府10町の出力依頼中 *一部損壊数、程度不明数は判定困難のため公表しない。

阪神大震災による学生の被災状況

H7. 5. 16 学生部

(新入生は除く)

学 部	商学部	経済学部	法学部	文学部	理学部	工学部	生活科部	医学部	教務部	合 計
	2203	2253	2303	2353	2503	2653	2803	14-2731	(留学生)2131	
学生数(1部・2部・院・ 学部院留学生含む)	1137	1196	1076	953	748	1397	616	723	留学生等57名 (282)	7902
本人又は保証人が兵庫県在住	178	197	138	142	96	231	93	85	(8)	1160
“ 豊中・池田・吹田・箕面	52	60	59	55	30	79	36	49		420
“ 福島・西淀・滝・大正・此花	19	20	16	13	9	24	10	16		127
被災状況	8学部は留学生除く								留学生分	
本人死亡	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
本人負傷(要入院)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
就学資金負担者死亡	0	1	0	1	0	0	0	0	0	2
その他の家族死亡	0	4	0	0	0	1	0	0	0	5
就学資金負担者負傷	0	1	0	1	1	1	0	3	0	7
家屋全壊・全焼	6	10	14	8	8	9	1	1	5	62
家屋半壊・半焼	10	10	8	12	7	15	8	2	0	72
家屋一部損壊焼損	49	6	33	17	18	36	11	8	0	178
家屋損壊・程度不明	0	0	0	0	0	0	0	5	0	5

大 阪 市 立 大 学

阪神・淡路大震災に伴う特例入試学生募集要項

1 趣 旨

本学では、阪神・淡路大震災の被災状況に鑑み、受験生の進学機会の確保を図る観点から、被災した受験生を救済する方法として、A・前期日程（2月25日・26日）及び後期日程（3月12日）とは別に被災受験生を対象に特例入試を次の要領で実施します。

2 被災受験生の認定

災害救助法（昭和22年法律第118号）による救助が行われた市町村（災害指定地域）に住居又は在学する高等学校等がある者で、次の各号のいずれかに該当する者。又はこれらに準ずる者（地震による被災の事実を証明する公的機関発行の書類を提出できる者）。

ただし、虚偽の申請により合格した場合、入学後であっても合格を取り消します。

※ 災害指定地域の範囲〈平成7年2月1日現在、15市・10町〉

神戸市、尼崎市、西宮市、芦屋市、伊丹市、宝塚市、川西市

明石市、三木市、洲本市、津名郡津名町、津名郡淡路町

津名郡北淡町、津名郡一宮町、津名郡東浦町、津名郡五色町

三原郡西淡町、三原郡三原町、三原郡緑町、三原郡南淡町 (以上、兵庫県)

豊中市、大阪市、池田市、吹田市、箕面市 (以上、大阪府)

〈出願時において、追加があれば災害指定地域に含みます。〉

- (1) 地震により本人の居住する家屋が損壊（全壊、全焼、半壊、半焼、一部損壊）した者
〈罹災証明書又は被災証明書を提出できる者〉
- (2) 地震により同居家族（2親等以内）が死亡した者
〈住民票記載事項証明書を提出できる者〉
- (3) 地震により本人が負傷し、一定期間（2週間以上）の加療を要した者
〈医師の診断書を提出できる者〉
- (4) 地震により一定期間（2週間以上）授業を実施できなかった高等学校等に在学する者
〈高等学校長等の証明書を提出できる者〉

※ 高等学校等とは学校教育法第1条に規定する学校のうち高等学校及び高等学校に準ずる学校並びに文部大臣が指定した大学入学資格が付与されている専修学校高等課程の学科をいう。

3 出願資格

特例入試に出願できる者は、被災受験生の認定要件を満たす者で次の各号のいずれかに該当する者です。

ただし、第1部の各学部については、本学が指定する平成7年度大学入試センター試験の教科・科目(別表)を受験し、平成7年3月23日(木)までに、いずれの国公立大学(本学及び私立産業医科大学を含む。以下同じ)にも合格していない者に限ります。

- (1) 高等学校を卒業した者及び平成7年3月卒業見込みの者
- (2) 通常の課程による12年の学校教育を修了した者及び平成7年3月修了見込みの者
- (3) 外国において、学校教育における12年の課程を修了した者及び平成7年3月修了見込みの者又はこれに準ずる者で文部大臣の指定した者
- (4) 文部大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者及び平成7年3月修了見込みの者
- (5) 文部大臣の指定した者
- (6) 大学入学資格検定規程による資格検定に合格した者及び平成7年3月までに合格見込みの者
- (7) 相当の年齢に達している者で、本学において高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者(できるだけ早く志願する学部教務係へ申し出てください。)

(国公立大学の特例入試は一つの大学・学部・学科に限り出願できます。
国公立大学の特例入試に併願した場合は、全ての出願は無効となります。)

4 募集人員

学部・学科の募集人員は、別表のとおりです。

ただし、各学部共、試験の成績により合格者が募集人員に達しない場合があります。

注1 工学部及び法学部第2部は、①と②に区分して募集します。

(出願時に、区分①又は②を選択してください。)

2 学部・学科で募集する学部は、全て第1志望のみです。

5 出願手続

- (1) 出願期間

平成7年3月24日(金)・25日(土)

10時～12時、13時～15時

- (2) 出願場所

大阪市立大学 杉本学舎 1号館1階 講堂

(JR阪和線「杉本町駅(大阪市立大学前)」下車、南東へ徒歩約10分)

- (3) 出願は本人が出願書類を持参して行ってください。

やむを得ず本人が来学できない場合は、代理人が手続きを行ってください。

(郵送による出願は受理しません。)

6 出願書類等

1	被災を証明する書類 〔被災の事実を証明する書類の提出がない場合は出願を受付ません〕	罹災証明書又は被災証明書(家屋の損壊) 住民票記載事項証明書(家族の死亡) 医師の診断書(負傷) 高等学校長等の証明書(高等学校等の状況等) ※上記証明書において、出願者名の記載がない場合は、関係を証明する書類(健康保険証など)の提示が必要です。
2	入 学 願 書 電 算 処 理 票 写 真 票 受 験 票	本学所定の用紙に必要な事項を記入してください。 学科の志望は全て第1志望のみです。 写真票及び受験票に写真(縦4cm×横3cm付)を所定の欄にそれぞれ貼ってください。
3	大学入試センター試験 受験票及びその写し	第1部の各学部及び法学部第2部(区分①)出願者のみ写しを提出。 大学入試センター試験受験票の提示を求めますので、所持していない場合は大学入試センターへ「再発行申請」を行ってください。
4	調 査 書	文部省所定の様式により、出身学校長が作成し厳封したもの。 ただし、大学入学資格検定合格者は、当該合格証明書及び合格成績証明書(複写可)。
5	入 試 健 康 診 断 書	本学所定の用紙に医師が作成したもの。 (高等学校を平成6年3月に卒業した者及び平成7年3月に卒業見込みの者は、提出の必要はありません。)
6	志 望 動 機 書	第2部の各学部の出願者のみ提出。 本学所定の用紙に被災状況、第2部志望動機及び勉学の目的等を含めて自筆で記入してください(1,200字程度)。

なお、入学検定料については免除します。

7 選抜方法

入学者の選抜は、次のア～オに基づき下記の(1)～(5)項により行います。

- ア 平成7年度大学入試センター試験の成績
- イ 個別学力試験の成績
- ウ 志望動機書
- エ 調査書の内容
- オ 健康診断書の結果

(1) ア、イ、エ、オを総合して判定する学部

第1部：文学部、理学部、医学部、生活科学部

(2) ア、エ、オを総合して判定する学部

第1部：商学部、経済学部、法学部、工学部(区分①及び②)

(3) ウ、エ、オを総合して判定する学部

第2部：商学部、法学部(区分②)

(4) イ、ウ、エ、オを総合して判定する学部

第2部：経済学部、文学部

(5) ア、ウ、エ、オを総合して判定する学部

第2部：法学部(区分①)

なお、詳細な選抜方法は、別表のとおりです。

工学部及び法学部第2部は、①又は②に区分して選抜します。

8 個別学力試験等

(1) 実施日時

平成7年3月29日(水) 10時～ (9時30分迄に集合すること。)

(2) 会場

大阪市立大学 杉本学舎

試験室の配置等詳細は、当日(9時30分)1号館玄関前に掲示します。

(3) 持参するもの

- ・「本学受験票」
- ・「大学入試センター試験受験票」(大学入試センター試験受験者のみ)

(4) 健康診断

提出された調査書又は入試健康診断書により行います。

精密検査の必要を認めた者に対しては、別に本人に通知し、本学の指定する日に精密検査を行います。

9 合格者発表、入学手続等

(1) 合格者発表

平成7年3月31日(金) 13時

大阪市立大学 杉本学舎 1号館玄関前に合格者受験番号を掲示します。

(電話等による可否の照会には応じません。)

(2) 入学手続

平成7年3月31日(金) 13時30分～16時30分

大阪市立大学 杉本学舎 1号館1階 講堂

入学手続は、本人(又は代理人)が上記の日時・場所で行ってください。

(3) 入学手続に持参するもの

- ・「本学受験票」
- ・「大学入試センター試験受験票」(大学入試センター試験受験者のみ)

(4) 入学許可

合格者が所定の入学手続きを完了すると「入学許可書」を交付します。

なお、入学許可書の交付を受けない者は入学辞退者とします。

(5) 入学金及び授業料について

入学金及び授業料については、次により納付してください。ただし、この度の震災等を対象とする減免・分納制度があります。

ア 入学金は、入学手続日(3月31日)に交付する「納入通知書」により、4月4日(火)までに金融機関で納付してください。

イ 入学金の減免を希望する者は、入学手続日に所定の申請書類の交付を受け、該当者は申請書類を提出し、「入学金減免申請証明書」を受領してから必ず各学部受付に提示してください。

ウ 前期授業料は、入学関係書類提出日の4月4日(火)に、郵便局の「普通為替証書」(指定受取人欄及び受領印欄は、記入しないでください。)を持参し、納付してください。

エ 授業料の減免・分納を希望する者は、入学手続日に所定の申請書類の交付を受け、別途指示する日に提出してください。

【問い合わせ先】 学生部学生課学生係 (☎ 06-605-2101)

(資23-5)

(6) 学費 (平成7年4月1日・予定)

		第 1 部	第 2 部
入 学 料	大阪市住民及びその子	200,000円	100,000円
	上記以外の者	320,000円	160,000円
授 業 料	年 間	447,600円	223,800円
	前期分	223,800円	111,900円

注 「大阪市住民及びその子」とは、本人自身又は本人と同一戸籍にある父母のいずれかが、平成6年4月1日以前から引き続き大阪市内に住所を有する者をいい、「入学料納付区分認定」を受ける手続を行う必要があります。

この手続に必要な書類は、入学手続当日に事務局管理課計理係 (杉本学舎1号館) で交付します。

[問い合わせ先] 事務局管理課計理係 (☎06-605-2051)

(7) 入学関係書類の提出日等

平成7年4月4日 (火)

詳細は、入学手続の際にお知らせします。

10 注意事項

- (1) 各学部・学科・選抜区分で指定する「平成7年度大学入試センター試験の教科・科目」(別表)を受験していない者は不合格となりますので、十分確認してから出願してください。
- (2) 出願書類等に不備がある場合は、受理できないことがありますので十分点検してください。なお、出願後は記載内容の変更はできません。
- (3) 入学願書に虚偽の記載をした場合は、入学決定後であっても入学許可を取り消すことがあります。
- (4) 身体に障害のある志願者で、受験上及び修学上特別な配慮を希望する者は、できるだけ早く志望する学部教務係へ申し出てください。
- (5) 「本学受験票」及び「大学入試センター試験受験票」(大学入試センター試験受験者のみ)は、試験当日及び入学手続時にも必要ですので紛失しないでください。
- (6) 長期に療養を必要とする疾患のある者及び身体に障害のある者も、修学可能と判断されれば入学を許可します。
- (7) 入学試験に関する個人情報について、「平成7年度大学入学者選抜大学入試センター試験成績提供要領」に基づいて、大学間コンピュータネットワークを利用した、入試関係情報の送受信を行います。

学部・学科別、募集人員、大学入試センター試験及び個別学力試験の教科・科目、配点

学部・学科名等	募集人員 注1	選 抜 方 法 等							備 考			
		大 学 入 試 セ ン タ ー 試 験					個 別 学 力 試 験 等					
		試験の教科・科目		配 点			配 点 等					
商学部第1部	約9名	・国語 ・数学(注3) ・外国語	国 100	社 -	数 100	理 -	外 100	課さない				
経済学部第1部	約9名	・国語・社会(注2) ・数学(注3)・理科 (注4)・外国語	国 100	社 50	数 100	理 50	外 100	課さない				
法学部第1部	約9名	・国語・社会(注2) ・数学(注3)・理科 (注4)・外国語	国 100	社 50	数 100	理 50	外 100	課さない				
文学部第1部 注5	約7名	・国語・社会(注2) ・数学(注3)・理科 (注4)・外国語	国 100	社 50	数 100	理 50	外 100	面接 総合判定の資料				
理 学 部 ・数 学 ・物 理 学 ・物 質 科 学 ・化 学 ・生 物 学 ・地 球 学	約11名	・数学(注3) ・理科(注4) ・外国語	学 科	数 学	物 理	物 質	化 学	生 物	地 球	数 理 外 100 100 100 100 100 100 200 100 100 300 200 300 100 100 100	面接 総合判定の資料	
工 学 部 注6 ・機 械 工 学 ・電 気 工 学 ・応 用 化 学 ・建 築 学 ・土 木 工 学 ・応 用 物 理 学 ・情 報 工 学 ・生 物 応 用 化 学	[区分①] 約17名	・国語・社会(注2) ・数学(注3) ・理科(注4) ・外国語	国 200	社 100	数 200	理 200	外 200	課さない				
[区分②] 約8名	・理科(物理と化学・ 生物から1科目の計2 科目) ・外国語	国 -	社 -	数 -	理 200	外 200						
医 学 部	若干名	・国語・社会(注2) ・数学(注3)・理科 (注4)・外国語	国 200	社 100	数 200	理 100	外 200	面接 総合判定の資料				
生活科学部 ・食 品 栄 養 科 学 ・生 活 環 境 学 ・人 間 福 祉 学	約10名	・国語 ・社会(注2) ・数学(注3) ・理科(注4) ・外国語	学 科 食 栄 生 環 人 福	国 100	社 100	数 200	理 200	外 200	面接 総合判定の資料			

別表

学部・学科名等	募集人員 注1	選 抜 方 法 等					備 考		
		大 学 入 試 セ ン タ ー 試 験			個 別 学 力 試 験 等				
		試 験 の 教 科 ・ 科 目	配 点		配 点 等				
商学部第2部	約6名	課さない					課さない	志望動機書及び調査書を総合して判定	
経済学部第2部	約6名	課さない			外国語(英語)		配点 100 時間 90分	志望動機書を参考とする	
法学部第2部 注6	[区分①] 約3名	・国語・社会(注2) ・数学(注3) ・理科(注4) ・外国語	国	社	数	理	外	課さない	志望動機書を参考とする
	[区分②] 約3名	課さない					課さない	志望動機書及び調査書を総合して判定	
文学部第2部 注5	約4名	課さない			面接		総合判定の資料	志望動機書、調査書及び面接を総合して判定	

注1 試験の成績により合格者が募集人員に達しない場合があります。

- 2 「倫理・政治・経済」「日本史」「世界史」「地理」「現代社会」から1科目です。ただし、「現代社会」を選択解答できる者は、高等学校の普通科・理数科以外の卒業者(見込み者)に限ります。
- 3 「数学Ⅰ」と「数学Ⅱ、工業数理、簿記会計から1科目」の計2科目です。ただし、「工業数理」「簿記会計」を選択解答できる者は、高等学校において「工業数理」「簿記会計」を履修した者及び文部大臣の指定を受けた専修学校高等課程の修了(見込み)者に限ります。
- 4 「物理」「化学」「生物」「地学」「理科Ⅰ」から1科目です。ただし、「理科Ⅰ」を選択解答できる者は、高等学校の普通科・理数科以外の卒業者(見込み者)に限ります。
- 5 文学部の学科・専攻の決定は、第1年次の12月に行います。(志願者多数の学科・専攻では、選抜を実施する場合があります。そのため希望する学科・専攻に進めないことがあります。)
- 6 工学部及び法学部第2部は、区分①及び②に分けて選抜しますので、出願時に区分①又は②を選択してください。(併願はできません。)

各学部等の連絡先

商 学 部 教 務 係	☎ 0 6 - 6 0 5 - 2 2 0 3
経 济 学 部 教 務 係	☎ 0 6 - 6 0 5 - 2 2 5 3
法 学 部 教 務 係	☎ 0 6 - 6 0 5 - 2 3 0 3
文 学 部 教 務 係	☎ 0 6 - 6 0 5 - 2 3 5 3
理 学 部 教 務 係	☎ 0 6 - 6 0 5 - 2 5 0 4
工 学 部 教 務 係	☎ 0 6 - 6 0 5 - 2 6 5 3
医 学 部 教 務 係	☎ 0 6 - 6 4 5 - 2 7 3 1
生 活 科 学 部 教 務 係	☎ 0 6 - 6 0 5 - 2 8 0 3
第 2 部 事 務 室	☎ 0 6 - 6 0 5 - 2 1 5 1

大阪市立大学 1 号館 教務部

〒558 大阪市住吉区杉本3丁目3番138号

☎ 0 6 - 6 0 5 - 2 1 3 1

平成7年2月発行

(資24)

阪神・淡路大震災における 学生対応事項と結果

- 1 学生の安否、被害状況調査
 - ①新聞広告掲載 1/20発注 1/24朝刊4紙掲載
 - ②安否調査 1/20全学部に照会 1/27最終回答(学生の死傷者0)
 - ③被害状況調査 2/1全学部に照会 2/7最終回答
(家族死亡7、学資負担者負傷7、家屋全壊全焼44、半壊半焼70等)
- 2 授業料、入学料の減免
 - ①授業料の減免 平成7年度分につき現行制度で減免。
ただし、学生数の1割枠の拡大および基準内規の検討を要する。
 - ②入学料の減免 平成7年度新入生につき現行制度で減免。
ただし、入学生数の1割枠の拡大および基準内規の検討を要する。
 - ③平成6年度分納者で被災した者の地震発生以後納期到来分の措置。
さつき会貸付金による貸付。
 - ④新聞広告掲載 2/9読売新聞夕刊にサービス広告掲載。
- 3 奨学金の災害特別募集の周知と申請受付
 - ①日本育英会 2月分2名受付
 - ②あしなが育英会 1名受付
 - ③大阪府育英会 なし
- 4 短期貸付金「さつき会貸付金」の枠の拡大
1/20~被災者に通常時2万円→3万円 現在4名貸付
- 5 特別家賃宿舍下宿等の斡旋
 - ①大阪府住宅供給公社青年向け宿泊施設「ヤングタウン」 3名斡旋
 - ②小野奨学会「上野芝女子寮」の特別募集 1名斡旋
 - ③個人からの善意提供者による住宅の斡旋 供給申出7件 1名斡旋
 - ④学内合宿所提供 これまで7名利用 2/28現在5名利用中(2/28で延べ146泊)
- 6 被災学生のための特別カウンセリング開設
1/27~ 現在相談者0
- 7 受験参考書、問題集等の送付
文部省の通知により大阪大学が取りまとめ、被災地図書館へ送付。
2/6~2/20クラブサークルあて募集。4名から段ボール3箱75kg寄付。
- 8 震災による内定取消状況調査
 - ①2/7全学部に照会、現在0。2/8文部省就職問題懇談会で全公立大学の集計を報告。
 - ②2/22文部省から第2次「内定取消・自宅待機状況調査」、全学部に照会、2/28現在0で報告。
- 9 学生のボランティア活動(学部対応含む)
 - ①生活科学部社会福祉学研究室が関西福祉系大学救援グループの一員として活動。
(1/30~3/1現在のべ601名)。
 - ②第2部自治会による義援金、毛布の募集(1/23~2/3 義援金186,943円)。
 - ③3大学学生討論会による義援金、物資の募集(1/23~2/3 義援金164,459円)。
 - ④法学部法律相談所による被災地での無料法律相談(3/3西宮市17件、3/4神戸市41件)
 - ⑤生活科学部食品栄養科学科による被災地での栄養指導と炊き出し
 - ⑥生活科学部児童家族相談所による被災者カウンセリング
 - ⑦工学部建築学科学生(建築学会として)による家屋損壊状況調査

(1995.3.13 評議会資料)

特例入試出願者・受験者・合格者数一覧

(単位：人)

学 部	募 集 人 員	志 願 者			受 験 者	合 格 者	入 学 手 続 者	入 学 辞 退 者	
		24日	25日	合 計					
商 学 部	9	15	10	25	(25)	9	9	0	
経 済 学 部	9	8	7	15	(15)	9	8	0	
法 学 部	9	14	11	25	(25)	8	7	1	
文 学 部	7	11	11	22	22	8	8	0	
理 学 部	11	25	20	45	43	8	8	0	
工学部	区分①	17	46	35	81	(81)	20	16	0
	区分②	8	7	5	12	(12)	6	6	0
	小 計	25	53	40	93	(93)	26	22	0
医 学 部	(4)	34	34	68	63	3	3	0	
生活科学部	10	12	8	20	19	3	2	0	
第 1 部 計	84	172	141	313	(158) 147	74	67	1	
商学部第2部	6	5	15	20	(20)	5	5	1	
経済学部第2部	6	1	2	3	3	3	3	0	
法学部 第2部	区分①	3	0	2	2	(2)	1	1	0
	区分②	3	2	5	7	(7)	1	1	0
	小 計	6	2	7	9	(9)	2	2	0
文学部第2部	4	3	6	9	9	4	4	0	
第 2 部 計	22	11	30	41	(29) 12	14	14	1	
合 計	106	183	171	354	(187) 159	88	81	2	

注 () 内は、個別学力試験を課さない学部で志願者数を計上。

1995年(平成7年)3月28日

1995.3.29
読売夕刊

大阪市大で特例入試

阪神大震災の被災受験生を救済する大阪市立大の特例入試が二十九日、大阪市住吉区の杉本キャンパスで行われ、受験生たちは最後のチャンスに挑んだ。他の国公立大を受験し、不合格

だつた者にも門戸を開き、被災地に近いところや全学部が定員数を明示したことなどから、昼間八学部、夜間四学部の募集定員百八人のところ全国の特例入試の

中で最多の三百五十四人が出願した。夜間部では、一部を除いて大学入試センター試験を受験していない者や他大学の合格者も応募でき、志望動機書と調査書のみで判定。
神戸市東灘区の自宅が全壊した兵庫県立神戸高三年、佐野知子さん(二八)は前後期とも受験した理学部に三度目のチャレンジ。「やつと新しいマンションに引っ越せましたが、避難所では全く勉強できませんでした」と、直前まで参考書に取り組んでいた。合格発表

全国の国公立大学で きょうから特例入試

阪神大震災特例入試(D日程入試)が二十八日から、全国の国公立大学で順次実施される。文部省は全国で七百人前後が受験するとみている。

文部省によると、二十八日に試験を実施したり、センター試験などの成績を基に選考をしたりする大学は国立二十八校、公立七校。ほとんどの大学が、自校に出願しながら受験できな

った人に限定した「再試験」方式をとつたため、十校では願書を出した受験生が一人もなく、出願者の合計は全体で四十七人とどまっていた。
これに対して、被災地に近く、受験して不合格だった人も出願できる「再募集」形式の大学に人気が集。二十七日後五時現在の文部省の集計では、大阪府立大の三百五十四人をト

1995.3.28 朝日

7年)4月18日 火曜日 享月 日 業斤 辰日

特例入試 347人合格

被災乗り越え1440人受験

文部省発表

文部省は十七日、阪神大震災特例入試(D日程入試)の結果を発表した。全国の九十五の国立大学、四十八の公立大学で志願した受験生は千四百七十九人。うち千四百四十人が実際に試験を受け、合格者は三百四十七人だった。
志願者が多かった大学は、国立大学では神戸大二百四十九人(合格者二十六人)、大阪教育大六十二人(同十人)など。公立大学では、大阪府立大三百五十四人(同八十八人)、姫路工業大九十八人(同二十二)、大阪府立大八十三人(同二十三)などが目立っている。
D日程入試は、災害救助法が適用された自治体に住んでいるか、適用自治体の高校に在学している受験生を対象に、三月二十八日から始まった。最後に試験を行う予定だった東京芸術大(美術学部)の志願者はいなかったため、すべての合格者が確定した。



1995.4.18 朝日

兵庫県南部地震に伴う 市立大学の対応について（集約版）

〔平成7年12月31日現在〕

1 学生支援

○ 定期試験対応、卒業論文の提出

- ・ 全学共通科目の試験は平常どおり実施するが、被災学生については、追試験・レポート提出等の特例措置をとる
- ・ 4年次、修士課程2年次生等卒業予定者については特に配慮する
- ・ 卒論提出期限を延期
- ・ 震災で卒論原稿を紛失した者等については、生原稿で審査するなど特別な配慮を行う

○ 経済支援、宿舍等斡旋

・ 入学料、授業料の減免

☆入学料の減免（震災被災者分）

（市内居住者）申請者 1名 採択者 1名

（市外居住者）申請者 129名 採択者 116名

☆授業料の減免（震災被災者分）

〔前期〕（市内居住者）申請者 2名 採択者 2名

（市外居住者）申請者 311名 採択者 272名

〔後期〕（市内居住者）申請者 0名 採択者 0名

（市外居住者）申請者 14名 採択者 13名

〔合計〕（市内居住者）申請者 2名 採択者 2名

（市外居住者）申請者 325名 採択者 285名

・ 日本育英会奨学金災害特別貸付制度に伴う受給希望者の受付

☆2月分1名採用、3月分3名採用

・ さつき会（短期一時金貸付制度）貸付金の2万円を3万円に増額

・ 家屋損壊の学生に府住宅供給公社「ヤングタウン」（家賃・敷金免除）等の廉価な住居を斡旋

☆3名斡旋

・ 小野奨学会「上野芝寮（女子寮）」の追加募集 ☆3名入寮

・ 緊急避難として、学内の合宿所を提供 ※3月15日で終了

☆7名利用、3月15日まで延べ180泊

・ 下宿提供者を急遽募集し、被災学生に斡旋・紹介

○ 留学生対応

- ・ 被災地居住者9名のうち5名が被災し、仮居住を希望している内4名については、国際交流センターの借り上げ住居や、本学留学生宿舎に入居

- 被災学生のためのカウンセリング
 - ・ 1月27日より学内のカウンセリングルームで「被災学生のためのカウンセリング」を実施

2 受験生

- 入学試験関係
 - ・ 入学試験の願書配付の措置を遠隔地：宅配便の着払い、
被災地：速達郵便で発送（大学負担、後日納付）
☆宅配便120件、速達郵便52件
 - ・ 入学試験の出願手続きを（被災地のみ）直接持込可（1/30～2/1）、調査書の後日提出可、その他電話相談受付
☆持込件数113件
 - 特例入学試験関係
 - ・ 被災した受験生の進学機会の確保を図る目的で、2月25日（土）～26日（日）に実施するA日程・前期日程及び3月12日（日）に実施する後期日程とは別に特例入試を実施した。
 - ・ 受験資格
 - (1) 災害救助法に基づき指定された被災地（15市10町）に居住している者で被災した者又は、在学する高等学校が被災した者又は、これに準じる者（罹災証明書又は高等学校長の証明書の提出を求める。）
 - (2) 平成7年度大学入試センター試験を受験し、平成7年3月23日（木）〔本学の特例入学試験の願書提出日の前日〕までに、いずれの国公立大学にも合格していない者
※ 第2部は、(1)の資格で受験可
 - ・ 選抜方法
 - (1) 第1部
大学入試センター試験の成績及び調査を基本に、学部によって「面接」を加えて選抜する。
 - (2) 第2部
志望動機書及び調査書を基本に、学部によって、大学入試センター試験の成績又は学力試験（英語）を加えて選抜する。
 - ・ 募集人員
全学部（8学部）各若干名
 - ・ 試験日程等
 - (1) 出願期間 3月24日（金）～25日（土）
 - (2) 試験を実施する場合の試験日 3月29日（水）
 - (3) 合格発表 3月31日（金）
- ☆応募者数354名、合格者数88名、入学手続者数81名、入学者数79名

- 大学院入試
 - ・大学院博士課程の出願受付(1/17~1/19)を20日(消印有効)に延長
- 被災地区大学の教員、学生に本学図書館の利用サービスを実施
 - ・図書の閲覧、資料の複写、閲覧室の利用
 - ・利用手続き:学生証、職員証等を提示で可能 ・利用期間:当分の間
☆利用者延べ数608名
- 被災受験生に図書館閲覧室の利用、教室等を自習室に開放
 - ・利用手続き:本人の申し出 ・利用期間:当分の間

3 ボランティア活動

- 生活科学部人間福祉学科社会福祉学研究室を中心としたボランティアの派遣(他の7大学と協同) ※ 生活支援等現場での活動は、3月31日で終了
本部事務局は当分の間継続
 - ・1月30日~ 兵庫県下の社会福祉施設へ 本学延べ731名を派遣
 - ・食品栄養学科の学生・教員による被災地での栄養指導、食品搬送、炊きだし
☆参加学生数 延べ30名
 - ・学生サークル、クラス単位等(三大学学生討論会、生協組織部等)による各種ボランティア活動を展開

4 被災地大学の入試会場として本学施設の利用

- 神戸市外国語大学
 - ・入学試験の学外会場として、本学の旧教養地区の2・3・4号館を2月26日(日)に利用
 - ・本学での受験者数(1,411名)(受験者総数2,053名)
 - ・人的応援も行う(管理職等22名)
- 神戸大学
 - ・神戸大学大学院経営学研究科入試会場として、本学の旧教養地区の2号館を3月1日(水)・2日(木)に利用
 - ・本学での受験者数(約100名)

5 大阪市立大学阪神大震災学術調査団の派遣

- ・理学部長を団長とする理学部、工学部、文学部、生活科学部教員25名からなる学術調査団を結成し、現地調査へ派遣
- ・前兆現象のアンケート調査を実施、全国から1,500件を超える種々の報告を受けて、提供された多くの前兆証言をとりまとめた「阪神・淡路大震災-前兆証言1519!」を9月10日に発刊
- ・工学部門の調査内容の集約を平成8年4月発行の「工学部紀要」に発表予定

6 生活科学部児童・家族相談所で被災者への無料心理相談

- ・被災者に対して、臨床心理学の専門家による無料心理相談を実施
カウンセリングなどを用いて、健康な精神状態を取り戻す
月曜～金曜の10時～16時（電話での申込み）3月1日から当分の間
☆相談件数43件（平成7年12月31日現在）

7 法学部による無料法律相談

- ・被災地で法学部の教員や本学出身の弁護士などによる無料法律相談を実施
3月3日（金）：午後1時～4時（西宮市総合福祉センター） ☆17件
3月4日（土）：午後1時～4時（神戸市東灘区役所） ☆41件

8 附属病院関係

◎ 附属病院内における救急体制とその他の措置

○ 1月17日（火）～18日（水）

- ・兵庫県南部地震に伴う、被災患者の受け入れ体制の確立と人的・物的支援体制の確立

○ 1月18日（水）～

- ・被災患者受け入れベッドを各階病棟に約50床を確保するとともに、緊急対応用ベッドを病院18階第4会議室に20床設営
・被災患者の家族待機場所として、5階講堂を控室とし、寝具20組を設置

○ 被災患者の受入れ

入院患者	59名	（うち市内居住者2名）
外来患者	176名	（うち市内居住者23名）

○ 被災患者家族控室の利用状況

1月18日から2月19日まで、延べ147家族274名方々が利用した。
利用者の住所地……神戸市（東灘区・兵庫区・垂水区）芦屋市など

◎ 救援活動等

○ 職員の派遣

総計（延べ）	940名
内訳	……医師482名、看護婦347名、事務職員71名、薬剤師26名 栄養士14名

- ・大阪市医療救護班（医師・看護婦等）の派遣 ※3月31日で終了
 - 第1次（1月19日） 各回 医師2名、看護婦5名を2泊3日で派遣
 - ↓
 - 第3次（1月23日）
 - 第4次（1月25日） 各回 医師2名、看護婦4名を3泊4日で派遣
 - ↓
 - 第7次（2月 3日）
 - 2月 1日～ 事務職員1名を2泊3日で派遣
 - 2月 3日～ 事務職員1名を3泊4日で派遣（以降継続）
 - 第8次（2月 6日）
 - 2月 6日～3月31日 各回 医師2名、看護婦5名を2泊3日で派遣
 - ※第8次以降、環保2回に対し、市大1回のローテーション派遣（市の派遣人数としては半減）

- 小計（延べ） 医師102名、看護婦231名、事務職員67名、薬剤師26名

- ・大阪市医療救護班として精神科医師の派遣
 - 東灘精神科救護所（東灘保健所）へ派遣
 - 1月25日～5月31日（神経精神科の医師を1～2名派遣）
 - （延べ） 医師107名

- ・大阪市一時休息所へ医師派遣
 - 大阪市一時休息所（大淀コミュニティセンター・福島区民センター）
 - 弁天埠頭船内休息所（関西汽船フェリー「くるしま7」）
 - 毎日、医師1名、看護婦1名を派遣
 - 1月25日～1月27日〔大淀のみ〕
 - 1月28日～2月 2日〔大淀（午前）・福島（午後）〕
 - 2月 3日～2月 4日〔福島のみ〕
 - 2月 5日 〔福島（午前）・弁天埠頭フェリー（午後）〕
 - 2月 6日～2月23日〔弁天埠頭フェリー（午前）・福島（午後）〕
 - 2月24日～3月30日〔弁天埠頭フェリー（午前）・北スポーツセンター（午後）〕
 - 3月31日～4月17日〔弁天埠頭フェリー（午前）〕

- 小計（延べ） 医師70名、看護婦70名
- 患者受け入れ数 延べ835名
- 内訳（大淀104名、福島102名、弁天埠頭フェリー590名、北スポーツセンター39名）

- ・芦屋市立芦屋病院などその他医療機関への医師等の派遣
 - 1月18日～3月31日
 - （延べ） 医師203名、看護婦46名、事務職員4名、栄養士14名

○ 救援物資関係

総計	・救急対応医薬品	78,390点
	・救急対応資器材	14,180点

○ 人工透析患者の海上移送による収容支援

このたびの兵庫県南部地震により、兵庫地区の多くの施設が破壊されたうえ、病院もかなりの損傷を受けており、急性腎不全患者などの対応が現地のみでは困難との判断のもとで、泌尿器科教室を中心に現地病院と連携し、大阪地区などの医療機関へ患者を移送した。

1月20日～1月23日 六甲アイランド～各医療機関

受け入れ患者数 延べ 20名（うち市大病院への入院患者 延べ5名）

相談件数 延べ 47件

9 市民局等の要請による職員派遣関係

◎ 被災地の住宅被害状況調査

1月29日～2月3日 延べ 21名

◎ 大阪市一時休息所へ職員派遣

1月27日～4月20日 延べ 60名

◎ 民生局における電話対応

2月4日～3月21日 延べ 9名

総合教育科目特別講義「都市と震災」の開講について

阪神・淡路大震災をうけて、平成7年度特別講義として「都市と震災」を開講しますので、履修受験を希望する者は3号館教務部内に備え付けの履修受験希望届を下記により提出すること。（前期に履修受験届を提出した集中講義の専門科目と授業日時が重複する場合は「都市と震災」の履修受験希望届は提出できない。）

記

1 履修受験希望届受付日時

7月13日（木）・14日（金）

両日とも午前9時～午前12時

2 履修受験希望届受付場所

3号館教務部

3 履修受験者の決定

履修受験希望者が多い場合には抽選により決定する履修受験者決定については7月19日（水）に3号館教務部の掲示板に掲示にて周知する。

履修受験確定者は、特に履修受験届を提出する必要はない。

後期の単位として認定する。

（学部における総合教育科目の指定区分は、別紙のとおり）

4 その他

授業日時、教室、シラバス等は別紙のとおり

平成7年7月3日

3号館教務部

(資28-2)

「都市と震災」の授業日時・テーマ・担当者

教室：基礎教育実験棟階段教室

月日(曜)時限	テーマ	担当者
9/25(月)1時限	活断層と地震の発生	理学部 中川 康一 教授
〃 2時限	地震動の概要	〃
〃 3時限	都市の地盤と地震災害	〃
〃 4時限	構造物と地盤	工学部 高田 直俊 教授
9/26(火)1時限	ライフラインの被害	〃 東田 淳 助教授
〃 2時限	震災と復興都市計画	〃 土井 幸平 教授
〃 3時限	心のケア(1)ー臨床心理士の立場から	生研部 倉戸ヨシヤ 教授
〃 4時限	心のケア(2)ー被災者の心理	〃
9/27(水)1時限	災害時の心のケア	医学部 古塚 大介 講師
〃 2時限	新しい災害時医療の提言	〃 山上 征二 助教授
〃 3時限	震災で浮き彫りになった“暮らし”(1) ー被災地とコミュニティ	非常勤 三輪 昌子氏 生活評論家
〃 4時限	震災で浮き彫りになった“暮らし”(2) ージェンダー・福祉の建前と現実	〃
9/28(木)1時限	被災地の産業と経済(1) ー震災の衝撃と企業の行動	非常勤 加藤 恵正氏 神戸商科大学経済学部 教授
〃 2時限	被災地の産業と経済(2) ー経済復興の計画、課題	〃
〃 3時限	エビロークー巨大震災と都市の危機管理	経済研新 植田 政孝 教授

大阪市立大学 阪神・淡路大震災 学術調査報告会

大阪市立大学「阪神大震災」学術調査団
银杏祭実行委員会

と き：平成7年11月22日(水) 13:00~17:00

ところ：大阪市立大学杉本キャンパス4号館410室

プログラム

経過報告	中川 康一 (理学部地球学科)
ライフラインには光も含まれる	土井 正 (生活科学部生活環境学科)
地中構造物・ライフライン	東田 淳 (工学部土木工学科)
都市地盤と震災	三田村 宗樹 (理学部地球学科)
G I Sを用いた震災データベースの作成	升本 眞二 (理学部地球学科)
阪神大震災による都市構造物の系統的変位と断層の活動	平野 昌繁 (文学部地理学科)
直下型地震による建物破壊の特徴	那谷 晴一郎 (工学部建築学科)
直下型地震と地下水の動き	熊井 久雄・高村 陽子 (理学部地球学科)
阪神・淡路大震災避難所における食生活と健康状態	奥田 豊子 (生活科学部食品栄養科学科)
震災と学生ボランティア活動	山縣 文治 (生活科学部人間福祉学科)
災害医療総論—災害対策に求められるもの—	山上 征二 (医学部付属病院人工腎部)
阪神大震災の救護活動をとおして看護婦の役割を考える	八木 スエノ (医学部付属病院看護部)
その他の報告	
今後の調査の方向性について (全体討論)	



大阪市立大学
文化交流センター

平成7年

12月講座

—文化交流センター特別企画—

《都市防災—阪神・淡路大震災に学ぶ—》

あの大震災から1年が経過しようとする今、復興支援と被害調査に関わった本学各学部教員がこれまでの取組みの成果を報告し、その教訓を都市防災に生かし安全な社会生活の方途を探ります。

テーマ

- 4日(月) 「前兆証言1519.7」からみた地震予知の可能性…………… 理学部教授 弘原海 清
- 5日(火) 阪神大震災と活断層…………… 文学部教授 平野 昌繁
- 6日(水) 木造住宅の被害…………… 生活科学部助教授 宮野 道雄
- 7日(木) 都市の地盤と大震災…………… 理学部教授 中川 康一
- 11日(月) 阪神大震災と私法上の諸問題…………… 法学部教授 生熊 長幸
- 12日(火) 復興都市計画…………… 工学部講師 濱田 学昭
- 13日(水) 災害医療…………… 医学部助教授 山上 征二
- 18日(月) 震災後の小売業の復興…………… 商学部教授 石原 武政
- 20日(水) 心のケア…………… 生活科学部教授 倉戸ヨシヤ
- 21日(木) 暮らしと安全性…………… 経済学部教授 惣宇利紀男

- 対象** 各コースとも 18歳以上の方
- 定員** 100名 多数の場合は抽選
- 受講料** 無料 (テキスト代は実費)
- 会場** 大阪市立大学文化交流センター
(大阪駅前第3ビル・16階)
- 時間** 午後6時10分～8時

お申込み方法

往復ハガキ1枚につき、希望のテーマ1つと、その実施日・住所・氏名・年齢・電話番号を明記のうえ、下記へお申込み下さい。 11月24日(金) 必着。

大阪市立大学文化交流センター
〒530 大阪市北区梅田1-1-3-1700
☎(06) 344-5425

パネル・ディスカッション

阪神大震災 と人権

大阪市立大学人権週間記念企画

日 時 1995年12月8日(金)

昼の部・午後3:00~5:30

夜の部・午後6:00~8:00

場 所 大阪市立大学 法学部棟11階 大会議室

—— 主催 大阪市立大学 ——

プログラム

(1) ビデオ上映:「阪神大震災と被差別部落——神戸番町からの報告——」(部落解放同盟兵庫県連合会編集)

(2) 基調講演:『震災における共死と共生』

講 師: 金 守 良 氏 (神戸朝日病院 院長)

講演要旨: 近年、日本人と在日外国人とが共に豊かな生を営むことのできる「共生社会」の創造が訴えられてきた。阪神大震災は、外国人であると日本人であることを問わず、被災者に対し言わば「共死」を強要した。しかし「共死」は必ずしも、権利の平等を意味したわけではなく、被災と復旧の過程において、日本人と在日外国人とのあいだに日頃から存在していた権利の格差がいつそう拡大されて露になった。と同時に、医療をはじめとする震災救援活動においては、国籍を越えた協力関係が形づくられたことも事実である。私達は、震災を通じて露になった権利の格差と新しい協力関係をとともに視野に入れながら、「共生社会」のあり方を摸索しなければならない。

(3) パネル・ディスカッション

司会 桂 正孝 (大阪市立大学文学部 教授)

一色 玄 (大阪市立大学医学部 教授)

パネリスト① 被差別部落民と大震災

城 間 哲 雄 氏 (兵庫部落解放研究所 研究部長)

パネリスト② 障害者と大震災

定 藤 文 弘 氏 (大阪府立大学社会福祉学部 教授)

パネリスト③ 女性と大震災

服 部 良 子 氏 (大阪市立大学生活科学部 助手)

*なお、夜の部ではビデオ上映と基調講演のみが行われ、パネル・ディスカッションは行われません。

大阪市立大学阪神大震災学術調査団名簿

(結成後半年～1年頃 *は結成時の団員)

文学部(地理学科) : 平野昌繁* 月原敏博*

理学部(地球学科) : 弘原海清* 中川康一* 三田村宗樹* 塩野清治*

升本眞二* 熊井久雄* 吉川周作* 古山勝彦* 前島涉

藤田和夫 佐野正人 松山紀香 領木邦浩

工学部(建築学科) : 川村純夫* 土井幸平* 多胡進 那谷晴一郎

(土木工学科) : 園田恵一郎* 小林治俊* 高田直俊* 東田淳*

大島昭彦* 山田優* 真嶋光保* 小田一紀*

角野昇八* 中井博* 中西克佳* 西村昂 日野泰雄

生活科学部(生活環境学科) : 宮野道雄* 土井正*

(食品栄養科学科) : 平井和子 奥田豊子

阪神大震災に関する大阪市立大学の 活動資料収集のためのスタッフ会議

1 スタッフ会議の設置

1995年中に、学長から大学史資料室長に対して阪神・淡路大震災に関する本学の活動資料収集の提起がなされた。これを受け、資料室長は関係部局等と協議し、資料室運営委員会での議論をふまえて、1996(平成8)年5月20日の評議会に「阪神大震災に関する本学の活動資料収集のためのスタッフ」を置くことを提案し、承認された。スタッフは、大学史資料室運営委員及び、関係部局等のそれにふさわしい教員及び職員で構成し、責任者を大学史資料室長とし、任務を資料収集及びリストの作成とした。資料収集の範囲は、① 本学及び本学関係者(以下「本学等」という)の被害状況、② 本学等による救援・支援活動、③ 本学等の学術的調査・研究活動とし、活動の期間は当面1年を目処とするとした。

2 スタッフ会議の経過

○第1回スタッフ会議 1996(平成8)年5月28日

学長の挨拶のあと、スタッフの任務、各部局等の実状などを議論し、今後の予定を決めた。

○第2回スタッフ会議 1997(平成9)年1月14日

資料収集が183点、合計3168頁となったことが報告された。しかし、部局間で開きが大きく、未提出部局や依頼漏れがあることから、資料収集を継続することを決めた。また、収集資料については、資料室に原本を保存して、検索カードを常置すること、公開資料リストを作成することなどを決めた。

○第3回スタッフ会議 1997年3月25日

収集資料は378点、合計6773頁に達した。資料室長から、学長が震災直後の大学の具体的対応がよくわかるように資料収集を行い、刊行物でも配慮してほしいと要望していることが紹介され、審議の結果、しばらく資料収集を継続することになった。また、資料の公開の方法などを決定した。

○第4回スタッフ会議 1997年7月22日

収集資料は468点、合計8470頁に達した。資料室長から『阪神・淡路大震災に関する大阪市立大学の活動の資料リスト』(仮称)の内容・体裁等の案が提案され、審議の結果、了承された。スタッフ会議として「今後の課題と活動に関する提言」を行うことになった。また、スタッフ会議は『リスト』の刊行をもって任務を完了することを確認した。

[今後の課題と活動に関する提言]

- (1) 本学の阪神・淡路大震災に関する活動は、全学的な積極的対応もなされたが、各部局等により活動に大きな差があったことも明らかである。したがって、その集約については部局等の単位で行うことが適切である。すでにその集約がなされたところ、計画中のところもあるが、必要に応じて他の部局等においても集約を検討されたい。
- (2) 本学全体の震災に関する活動の本格的な分析・総括は有意義であるが、そのためには新たな調査も必要であり、スタッフ会議の任務を越えるものである。今回収集された資料及び「リスト」

はその基礎をなすものと位置づけられる。今後、新たな分析・総括がなされる場合は、大学史資料室は収集資料をそのために提供する。

- (3) 収集資料の利用については、神戸大学の震災文庫との提携など震災資料のネットワークづくりに参加することが可能である。また、資料をCD-ROMに入れることなども考えられるが、それは今後の利用頻度をみて判断することが妥当と思われる。

3 スタッフ名簿

所 属	氏 名	在 任 期 間	備 考
室 長(文 学 部)	広 川 禎 秀	1996.5～現在	
商 学 部	富 澤 修 身	1996.5～1997.3	
商 学 部	佐々木 建	1997.4～現在	
経 済 学 部	中 村 健 吾	1996.5～1997.3	
経 済 学 部	白 銀 久 紀	1997.4～現在	
経 済 学 部	山 岡 茂 樹	1996.5～現在	
法 学 部	安 竹 貴 彦	1996.5～現在	
法 学 部	藤 田 勝 利	1996.5～現在	
文 学 部	塚 田 孝	1996.5～現在	
文 学 部	平 野 昌 繁	1996.5～現在	
理 学 部	金 信 泰 造	1996.5～1997.3	
理 学 部	住 岡 武	1997.4～現在	
理 学 部	中 川 康 一	1996.5～現在	
工 学 部	青 木 修 三	1996.5～1997.3	
工 学 部	小 槻 勉	1997.4～現在	
工 学 部	谷 池 義 人	1996.5～現在	
工 学 部	高 田 直 俊	1996.5～現在	
医 学 部	山 上 征 二	1996.5～1997.3	
医 学 部	前 田 均	1997.4～現在	
医 学 部	森 井 浩 世	1996.5～現在	
生 活 科 学 部	堀 智 晴	1996.5～現在	
生 活 科 学 部	山 縣 文 治	1996.5～現在	
保 健 体 育 科 研 究 室	荻 田 亮	1996.5～1997.3	
保 健 体 育 科 研 究 室	松 永 智	1997.4～現在	
経 済 研 究 所	川 端 望	1996.5～1997.3	
経 済 研 究 所	植 田 浩 史	1997.4～現在	
経 済 研 究 所	小 玉 徹	1996.5～現在	
同和問題研究室(生活科学部)	白 澤 政 和	1996.5～現在	
附 属 図 書 館(商学部)	稲 村 毅	1996.5～1997.3	1996.10～学術情報総合センターに改組
学術情報総合センター(商学部)	岡 野 浩	1997.4～現在	
事 務 局 庶 務 課 長	高 橋 睦 明	1996.5～1997.3	
事 務 局 庶 務 課 長	岡 田 文 秀	1997.4～現在	
学 生 部 学 生 課 長	前 藤 勝	1996.5～現在	
教 務 部 教 務 課 長	秋 山 俊 和	1996.5～現在	
医 学 部 庶 務 課 長	小 山 裕 稔	1996.5～現在	
事 務 局 企 画 主 幹	藪 谷 俊 明	1996.5～1997.3	
事 務 局 企 画 主 幹	尾 松 克 治	1997.4～現在	

資料リストの概要

社会学部

社会学部教授 中川 康一

II 阪神・淡路大震災に関する 大阪市立大学の活動資料リスト

社会学部教授 高田 真博

資料リストの概要

(理学部)

理学部教授 中 川 康 一

震災直後、地球学科は教室を挙げて、震災の実態、特に地質構造或いは地盤構造と被害の関係についての調査を開始した。この中には応用地質学会関西支部（事務局、地球学教室）を中心とした被害調査グループが結成され、多くの地質技術者がボランティアとして調査に加わった。特に芦屋以東の地域の詳細な調査はこのグループが担当し、芦屋断層及び甲陽断層などの活断層上の被害と地盤の亀裂状態に関する精密調査は当学科のスタッフと院生・学生および卒業生が当たった。

大阪の地盤被害はそれほど甚大ではなかったが、都市の地域防災計画の策定では、液状化などの地盤変状の基礎資料が大変重要となるため、これらの調査も同時に開始した。さらに深部地下構造を把握するための重力探査や地下水の変動調査などが開始された。地震発生後6日目（1月23日）に当教室が事務局となって、「大阪市立大学阪神大震災学術調査団」が結成され、評議会で承認された。この調査団が周辺学会に呼びかけを行い、3月13日に「阪神大震災緊急合同報告会」を開催した。全国各地からつめかけた参加者は500名を越え、会場の田中記念館から一部の人が溢れる事態となった。一方、調査団長だった弘原海理学部長は地震の前兆現象に関する資料の収集を開始した。以上が理学部で行った調査活動の概要である。

これらの調査資料はそれぞれの学術雑誌や学会・シンポジウムなどで発表されてきたが、特に『阪神・淡路大震災一大阪市消防活動記録（大阪市消防局）』、『阪神・淡路大震災一直下型地震と地質環境特性（東海大学出版）』、『阪神・淡路大震災調査報告書一解説編および資料編（地盤工学会）』、『前兆証言1519（東京出版）』などの単行本にまとめて掲載されている。尚、当調査団の報告書は目下編集中でまもなく刊行される予定である。

(工学部)

工学部教授 高 田 直 俊

工学部関連の資料105点（1997年12月末現在）のほとんどは建築学科と土木工学科から提供されている。これらは建築学会、土木学会、地盤工学会および機械学会の本部・支部の機関誌、論文集、年次学術講演会発表概要集、震災・耐震関連シンポジウム・会議などに発表したもの、各種協会誌へ掲載された解説文、震災関連の各種研究会で発表された資料などである。資料の主な内容は、

- 橋梁・建物などの鋼・コンクリート構造物の被災状況と耐震課題
- 宅地・河川堤防などの土構造物と地盤の被災状況と耐震課題
- 下水管・地下トンネルなど地中埋設物の被災状況と耐震課題
- 直下型地震特有の衝撃地震動と構造物被災
- 被災家屋の分布・震災とまちづくりなどの都市計画関連

○震災後の交通問題

であるが、このほかに震災後の下水処理問題を扱った資料もある。

震災後の被災学生対応から始まる工学部の動き、教職員・学生の被災地救援活動、さらに教員の専門分野を通じての調査・研究活動と復旧に対する技術支援など、記録に残しておくべきことが多い。これら工学部およびその構成員の震災後の活動の記録を保存する目的と、調査・研究結果をまとめておく目的で発刊した工学部紀要『阪神・淡路大震災特別号』も上記資料に含まれている。その内容は次の通りである。

- ① 平成7年1月17日から7年度の学年歴が軌道に乗る頃までの工学部の活動記録
- ② 工学部教職員および学生の応急・復旧・復興の活動記録
- ③ 専門分野における調査・研究報告
- ④ 専門分野における調査・研究発表論文・報告リスト

(医学部)

医学部教授 森 井 浩 世

震災時の医学部の対応として、医療チームの派遣と患者の受け入れが主要な活動であった。震災にともなう外傷、疾患は時期的に三つの段階に大別された。

1. 急性の疾患：出血、挫傷、骨折、火傷、この時期に生じた急性疾患で診察が受けられない状態（医2）
2. 亜急性の段階：挫滅症候群（医28、30）、慢性透析患者、高血圧・心疾患（医23、24）その他の疾患で定期的診察が受けられなくなった状態、冬期であったことによる呼吸器疾患・慢性関節リウマチなどの悪化
3. 数週・数カ月の後に問題となる疾患：心因性反応（医10）、慢性ストレスにともなう諸疾患の悪化・発症、粉塵が舞い上がることによる呼吸器疾患、栄養摂取不足による栄養障害（医3）。

したがってそれぞれの段階で必要とされる医療スタッフの専門領域が異なっていた。すなわち初期には外科医、整形外科医（医6）、脳神経外科医、耳鼻咽喉科医、眼科医、内科医、小児科医（医4、5、11）、皮膚科医、次の段階では内科医、透析医（医7、9、19、20、21）、リウマチ医らが役割を与えられた。長い経過で生ずる疾患に対しては精神科医（医18）、内科医、小児科医がそれぞれの役割を与えられた。看護婦、薬剤師、栄養士（医3）、検査技師、事務職員もそれぞれの役割を果たした（医12、16）。精神科医は職員・学生の心理状態も分析した（医17）。

医療チームは国内各地から（医31）、また外国からも派遣されたが、わが大阪市立大学医学部附属病院としては陸路医療チーム派遣が困難であったのに、天保山から海路派遣が可能であった。この点大阪市の総合力が発揮されたといって良い（医13、14）。診療所は避難所として設置された小学校に置かれ、避難者を中心に診療が行われるとともに、必要な場合には患者は適当な病院に搬送された。搬送の方法としては海路天保山まで運ばれるとその後、消防局の救急車が病院まで急行する場合、またヘリコプターが直接搬送する場合もあった（医1）。透析が必要な患者については市立大学病院と六甲アイランド病院の間で直接搬送が行われた（医7、9、19、20）。

患者の受け入れ後集中治療部がまず対応し、それぞれの専門診療部に送られた（医8、22）。このよ

うな医療活動は救急医学会、透析医学会などで報告されるとともに新たな災害の可能性に対応するためのマニュアル作成のきっかけをあたえることになった。

後方支援病院のあり方についても検討が行われている(医26、27、29)。その他医学部構成員の被災状況に関する調査も行った(医15)。派遣医療スタッフの体験記も記録した。

(生活科学部)

生活科学部助教授 堀 智 晴

生活科学部に関する震災資料は現在のところ122点である(1997年12月末現在)。

その内容は次の3種類に大別される。

1. 住宅、建築に関する資料

1) 被災・被害状況に関する資料

建築学会での研究報告を中心として、住宅内部被害状況、インテリア被害状況などの調査報告とその分析を内容とした資料である。

2) 復興に関する資料

復興過程、復興住宅ニーズ、復興の課題に関する資料である。

2. 震災被災者の生活に関する資料

1) 避難行動、住み方に関する資料

避難行動や住み方の変化、高齢者の実態に関する調査とその分析を内容とした資料である。

2) 食生活、健康に関する資料

被災所における食生活や被災者の健康に関する実態調査とその分析を内容とした資料である。

3) 被災者の心のケア、教育、人権に関する資料

被災者の心のケア、危機管理と教育、人権に関する資料である。

3. 救援活動、震災ボランティアに関する資料

救援活動、震災ボランティアに関する調査報告とその分析を内容とした資料である。特にボランティアについては学生ボランティア活動に関する資料が集められている。

生活科学部は食品栄養科学科、生活環境学科、人間福祉学科の3学科よりなっている。ここに集められた資料は本学部の教員の専門領域に関連する資料を中心に収集されている。

資料リスト

凡 例

1 資料リストの配列、記載方法等について

- (1) 資料リストは、①商学部以下の各学部、同和問題研究室、図書館・学術情報総合センター、事務局、学生部、教務部、教職員組合以下の本学関係諸団体の順に配列し、②学部等の中の配列順は、各学部など部局・諸団体等が提供した順序に従った。ただし、資料作成者・執筆者が同一の場合はまとめて配列した。
- (2) 資料リストのみ報告され、現物（コピーを含む）が提供されていない資料は、備考欄に「カードのみ」と記している。また、コピーが提供されたが、発行所等が不明のものがある。
- (3) 同一の資料が、複数の部局等から提出されている場合は、適当な部局等に整理したが、整理できない場合はそのまま記載した。
- (4) 資料作成者・執筆者の所属・肩書きは、原則として資料作成時のものである。一部調査時点のもの、不明なものが含まれる。

2 資料の利用について

- (1) このリストに掲載されている資料は、「カードのみ」とある資料を除いて、大学史資料室が保管している。(2)の資料を除き、所定の手続きによって、資料室で閲覧することができる。
- (2) 提供者が公開に条件をつけている資料については、その旨を備考欄に記している。その場合、資料は提供者の許可がなければ閲覧できない。

震災関係資料公開基準

- (1) 資料執筆者、資料提供者、または資料収集者が非公開を指定している資料は、非公開とする。非公開資料は、資料リストに資料名などを記載しない。
- (2) 資料執筆者、資料提供者、または資料収集者が、公開に際しての条件を付している資料については、大学史資料室長がその条件を尊重しつつ、大学史資料室利用規則に則って公開・非公開をそのつど判断する。資料リストと検索カードには、資料名などを記載し、「取扱注意」の語を付す。
- (3) 特定しうる個人の情報が詳しく記載されている資料は、上記規則に則り、資料閲覧請求があるごとに、室長が公開・非公開の是非、ならびに公開の仕方を判断する。資料リストと検索カードには、資料名などを記載し、「取扱注意」の語を付す。
- (4) 大学史資料室委員が行ったアンケートへの回答文書は、公開することを回答者に周知したうえで行われた調査ではないので、上記(3)と同じ取扱をする。
- (5) 大学の公文書に該当する資料についても、上記(3)と同じ取扱をする。

資料リスト

①資料名 (文書名・論文名・書名等)	②資料作成者・執筆者及び その所属(学内・部局等 学外・卒業生)	③資料の掲載誌紙等 (巻号、頁等)	④発行年月日 ⑤発行所	⑥備考
-----------------------	-------------------------------------	----------------------	----------------	-----

商学部

「阪神・淡路大震災と外国人問題」	佐々木 建 商学部教授	『経営研究』第46巻第3号 p.105～114	1995.11 有斐閣	商-1
「阪神大震災の記録」	岩下 涉 商学部1995年卒	『CORE－研究・教育共同体をめ ざして－阪神淡路大震災特別号』 p.1～4	1995.8.31 大阪市立大学経営学 会	商-2
「阪神大震災で感じたこと」	二宮麻里 商学部学生(経営学研究科)	同上 p.5～9	同上	同上
「阪神大震災の記録」	河野佐木子 商学部学生	同上 p.9～12	同上	同上
「大地震、その時」	新見相子 商学部学生	同上 p.12～15	同上	同上
「1月17日、その日から」	古財和佳 商学部学生	同上 p.15～26	同上	同上
「阪神大震災 震災記録」	梅田卓哉 商学部1995年卒	同上 p.27～42	同上	同上
「阪神大震災被災レポート」	原木あや 商学部学生	同上 p.43～48	同上	同上
「IT AIN'T OVER.」	安達 慎 商学部学生(経営学研究科)	同上 p.48～56	同上	同上
「私にとっての阪神大震災」	藤岡里圭 商学部学生(経営学研究科)	同上 p.57～60	同上	同上
「阪神大震災で感じたことをその ままだに」	黒野泰代 商学部学生	同上 p.61～64	同上	同上
「変わりはてたわが青春の町」	石原武政 商学部教授	同上 p.64～80	同上	同上
「機能の復興とかたちの整備－被災地小売業の復興によせて－」	石原武政 商学部教授	『流通科学』第9号 p.3～10	1995.9.10 流通科学大学 流通科学研究所	商-3
「小売業の不確実性と復興手順」	石原武政 商学部教授	『日本商業学会年報』1995年度 p.231～236	1996.1 日本商業学会	商-4
「大震災を機に考えたこと」	石原武政 商学部教授	『OCU流通組織論集』1994年度 版 p.109～124	1995.3.20 石原武政	商-5
「商業活動への正しい理解を」	石原武政 商学部教授	『商工金融』第45巻第9号 p.1～2	1995.9 商工総合研究所	商-6
「大震災と流通問題」	石原武政 商学部教授	『流通情報』第310号 p.4～11	1995.3	商-7
(新聞切り抜き)「阪神大震災／商店街の記録 ① 悩める商業主、時間必要」	石原武政 商学部教授	『日経流通新聞』 1枚	1995.7.13	商-8
「被災地小売業復興の課題」	石原武政 商学部教授	他 “BUSINESS INSIGHT” 10号 p.32～41	1995.夏	共同執筆・石井淳蔵 商-9
「阪神・淡路大震災対応等記録」	商学部事務室	計29頁	1996.9.30	商-10
「阪神大震災と神戸港」	柴田悦子 商学部名誉教授	『1995年度日本港湾経済学会年 報』第34号(抜刷) p.69～82	1996.3.31 日本港湾経済学会	商-11
「阪神・淡路大震災と輸送体系」	柴田悦子 商学部名誉教授	『海員』1995年4月号 第47巻第 4号 p.70～71	1995.4.1 全日本海員組合	商-12
「大震災と阪神間物流」	柴田悦子 商学部名誉教授	交通理論研究会報告要旨 1枚	1995.10	商-13
「第34回日本港湾経済学会開催の 辞退について」(連絡文書)	柴田悦子 商学部名誉教授・日本港湾経済 学会副会長	1枚	1995.3.30	商-14

資料リスト

①資料名 (文書名・論文名・書名等)	②資料作成者・執筆者及び その所属(学内・部局等学外・卒業年)	③資料の掲載誌紙等 (巻号、頁等)	④発行年月日 ⑤発行所	⑥備考
「ちょっと待った！ 高架高速道路『阪神高速神戸線』の『復旧』(案内文書・緊急シンポジウムのよびかけ)」	柴田悦子 商学部名誉教授(パネラーとして参加)	p.1~3	1995.4.14	商-15
「阪神大震災に関する本学の活動の資料収集等」に関するアンケート回答(石原教授の震災関係著作目録・活動記録等)	石原武政 商学部教授	1枚		商-21

経済学部

「社会・経済システム学会第15回大会シンポジウム報告資料集—システムの異常とは何か—」	塩沢由典 経済学部教授(シンポジウムの座長)	「シンポジウムのプログラム・レジュメ・報告要旨集」等 計92頁	1996.10.20	経-1
「社会・経済システム学会関西支部主催連続シンポジウム報告資料集—阪神大震災と社会・経済システム」	塩沢由典 経済学部教授(シンポジウムの司会)	「シンポジウム第1,2,4,5,6回の資料」 計60頁	1995.4.6,12, 1996.3.6	経-2
「現物経済の発想からの転換を—阪神大震災から考える—」	塩沢由典 経済学部教授	『RIRI流通産業』 第27巻第5号(通巻247号) p.1	1995.5	経-3
「経済システムの遊びと緊張」	塩沢由典 経済学部教授	『第3回関西情報関連学会連合大会講演論文集』 計4頁	1996.7.12	経-4
「経済と共生—シンポジウム・阪神大震災と戦後日本」	惣宇利紀男 経済学部教授	『震災の思想』 p.60~68	1995.6 藤原書店	経-5
「阪神大震災—安全への反省」	惣宇利紀男 経済学部教授	『消費者情報』No.263 p.14~19	1995.7 関西消費者協会	経-6
「阪神・淡路大震災後の消費行動の変化についての調査報告書」	惣宇利紀男 経済学部教授 大川 勉 経済学部教授	「阪神・淡路大震災後の消費行動の変化についての調査報告書」 p.1~104	1996.3 大阪市	経-7
「阪神大震災社会問題調査機構による収集資料(新聞と書籍)」	大川 勉 経済学部名誉教授 星野 中 経済学部教授			阪神大震災社会問題調査機構は、本学教員の有志による研究会(経済学部事務室が事務局として手伝った)。資料の内容は1995年の『毎日新聞』『朝日新聞』と震災関係書籍105冊 経-8

法学部

「大阪市立大学無料法律相談所関連資料」	法学部事務室	計25頁	1995.2.22~3.4	法-1
「建物賃貸借契約終了時における敷金・保証金・権利金の取扱い—阪神地方における敷引特約を伴う敷金制度を中心に—」	生熊長幸 法学部教授	『広中俊雄先生古稀祝賀論集—民事法秩序の生成と展開』(抜刷) p.305~344	1996	法-2
「不動産担保と大震災」	生熊長幸 法学部教授	『ジュリスト』No.1070 p.168~172	1995.6.20. 有斐閣	法-3
「阪神大震災に寄せて」	生熊長幸 法学部教授	『知法会誌』第32号 p.21~22	1995.7 法学部内無料法律相談所	法-4
「巡回無料法律相談」	生熊長幸 法学部教授	『市大広報』第30号 p.6	1996.7 大阪市立大学	法-5

資料リスト

①資料名 (文書名・論文名・書名等)	②資料作成者・執筆者及び その所属(学内・部局等 学外・卒業年)	③資料の掲載誌紙等 (巻号、頁等)	④発行年月日 ⑤発行所	⑥備考
「六甲山地東南部の断層の活動と変位地形」	平野昌繁 文学部教授(地理学)	『阪神大震災緊急合同報告会資料』 p.24～27	1995.3.13 阪神大震災緊急合同報告会世話人会	波田重熙と共著 カードのみ 文-8
「兵庫県南部地震で活動した断層と市街地焼失域」(1)	平野昌繁 文学部教授(地理学)	『大阪消防』1996年2月号 p.42～45	1996.2.5 大阪消防編集部	文-9
「兵庫県南部地震で活動した断層と市街地焼失域」(2)	平野昌繁 文学部教授(地理学)	『大阪消防』1996年3月号 p.40～43	1996.3.5 大阪消防編集部	文-10
「兵庫県南部地震と断層の活動」	平野昌繁 文学部教授(地理学)	『兵庫地理』第41号抜刷 p.73～78	1996 兵庫地理学会	文-11
「兵庫県南部地震によって淡路島北淡町に現われた断層変位に伴う微地形」	平野昌繁 文学部教授(地理学)	『地理学評論』第69巻第3号(抜刷) p.184～196	1996.3.1 日本地理学会	石井孝行・藤田崇と共著 文-12
「1995年阪神大震災に伴う地盤災害—とくに断層に沿う変位地形について—」	平野昌繁 文学部教授(地理学)	『地球科学』第49巻第2号(抜刷) p.77～84	1995.3 地学団体研究会	藤田崇と共著 文-13
「重野陽二郎 卒業論文埋没関係資料」	広川禎秀 文学部教授	計33頁		重野陽二郎は文学部学生 文-14
「学生の被災・安否状況調査等」(文学部)	文学部事務室教務係	計38頁		「取扱注意」 文-15
「教員の被害状況調べ等」(文学部)	文学部事務室	計18頁		「取扱注意」 文-16
(新聞切り抜き)「町から村から東奔西走」	白石健二 文学部1989年卒・尼崎市立地域研究史料館	『奈良新聞』 1枚	1995.7.17 奈良新聞社	文-17
「尼崎市立地域研究史料館における阪神・淡路大震災関係史料の収集」	白石健二 文学部1989年卒・尼崎市立地域研究史料館	「震災記録実務研修会出席時の報告資料」 計4頁	1995.7.17	文-18
「失われた風景」	白石健二 文学部1989年卒・尼崎市立地域研究史料館	『へぐり民放』No.219～220、 No.232～239 (①～⑩までシリーズで掲載 ③～⑬は欠) 計4枚	1995.1.26～1996.9.26 へぐり民放社	文-19
「阪神・淡路大震災の記録とその保存『忘れてはならない震災の光景』によせて」	白石健二 文学部1989年卒・尼崎市立地域研究史料館	『文書管理通信』No.26 5-6月 p.2～13	1996.5.1 文書管理通信編集室	文-21
「阪神・淡路大震災関連資料リスト—パンフレット・ちらし類」	兵庫県立図書館	計28頁	1996.3.15 兵庫県立図書館	白石氏の収集資料 文-22
「忘れてはならない大震災の記録を後世に伝えよう」	白石健二 文学部1989年卒・尼崎市立地域研究史料館	『全国歴史資料保存利用機関連絡協議会会報』No.35 p.14～17	1996.2.15 埼玉県立文書館	文-23
「阪神・淡路大震災関連資料リスト—図書」	兵庫県立図書館	p.1～60	1996.7.16 兵庫県立図書館	白石氏の収集資料 文-24
「景観を記録する—居住地と阪神大震災・実践と課題—」	白石健二 文学部1989年卒・尼崎市立地域研究史料館	『八潮市史研究』第18号 p.175～189	1996.3.31 八潮市立資料館	文-25
「忘れてはならない震災の光景」	白石健二 文学部1989年卒・尼崎市立地域研究史料館	(自主発行のピラ)創刊号～5号、臨時号～臨時5号 計10枚	1995.4.1～6.26	文-26
(書簡)震災の見舞いに対する礼状	添田晴雄 文学部助教授	計3頁	1995.2.25	「取扱注意」 文-27
「はじめに」	添田晴雄 文学部助教授	『阪神・淡路大震災その時留学生は—神戸が好きになりました—』 p.i～v	1996.8.15 川島書店	文-28
「被災歴史資料救出・保全活動への大阪市立大学文学部日本史関係者の参加状況」	佐賀 朝 文学研究科学生 D3	『被災歴史資料救出・保全活動への参加状況報告』 計4頁		文-29

資料リスト

①資料名 (文書名・論文名・書名等)	②資料作成者・執筆者及び その所属(学内・部局等 学外・卒業年)	③資料の掲載誌紙等 (巻号、頁等)	④発行年月日 ⑤発行所	⑥備考
「問題化される地域の系譜－寄せ場研究の諸相」	水内俊雄 文学部助教授	『寄せ場』第9号 p.118～134	1996.5.31 日本寄せ場学会	文-30
(新聞切り抜き)「新しい地理学をもとめて」(上)	水内俊雄 文学部助教授	『朝日新聞』夕刊 1枚	1996.5.12 朝日新聞社	文-31
「震災のこと」	前田志寿代 文学部1968年卒	『大阪市立大学文学部心理学教室同窓会会報』第9号 p.11	1996.6.17 大阪市立大学文学部心理学教室同窓会	文-32
「地震災害と空中写真」	月原敏博 文学部助手	『大阪消防』Vol.47, No.3 p.44～47	1996.3 勲大阪市消防振興協会	文-33
「都市ライフラインの復旧作業－もうひとつの支援活動」(報告概要と資料)	八木 正 文学部教授	第47回関西社会学会大会シンポジウム資料「阪神・淡路大震災－社会学者の見た実像」 計12頁	1996.5.25	吉備国際大学・倉敷芸術科学大学で開催 文-34
「シンポジウム出席者の感想から」	廣田浩治 文学研究科学生 D3	『阪神・淡路大震災－歴史と文化をいかす街づくりシンポジウム記録集』 p.61	1996.5.25 阪神大震災対策歴史学会連絡会 歴史資料保全情報ネットワーク	1995.5.6(土) 尼崎市総合文化センター・アルカイックホールで開催 文-35
「シンポジウム参加者の感想(抜粋)」	島田克彦 文学研究科学生 大村拓生 文学研究科学生 廣田浩治 文学研究科学生 D3	『阪神・淡路大震災歴史文化をいかす街づくりシンポジウム記録集(第2回)』 p.43,45,46	1996.4.25 阪神大震災対策歴史学会連絡会 歴史資料保全情報ネットワーク	1996.1.28(金) 神戸市立博物館講堂で開催 文-36
5月6日「阪神・淡路大震災－歴史と文化をいかす街づくりシンポジウム」の記録	大村拓生 文学研究科学生 D3	『尼崎市立地域研究史料館紀要』第25巻第1号 p.27～31	1995.9.30 尼崎市立地域研究史料館	文-37
「大地の抵抗」	渡邊耕一 文学部1990年卒・宝塚市役所高年福祉課	『大阪市立大学文学部心理学教室同窓会会報』第9号 p.11～12	1996.6.17 大阪市立大学文学部心理学教室同窓会	文-38
「解題」	八木 滋 文学研究科学生	『和田正宣氏文書目録－宝塚市編集資料目録別冊』 p.1～8	1997 宝塚市教育委員会	文-39
「阪神・淡路大震災と被災歴史資料救出活動の展開」	佐賀 朝 文学研究科学生	『大阪春秋』通巻82号 p.72～77	1996.3 大阪春秋社	文-40
「“なぜ史料ネットの活動が可能になったか”を考えるべきでは？」	塚田 孝 文学部助教授(史学)	『史料ネット NEWS LETTER』第8号 p.6～7	1997.3.19 歴史資料ネットワーク	文-41
「伊丹市における歴史資料救出活動について」	高岡裕之 文学部大学院修了・相愛大学講師	『尼崎市立地域研究史料館紀要』第25巻第1号 p.32～37	1995.9 尼崎市立地域研究史料館	文-42
「史料ネットの宝塚地域パトロール活動について」	佐賀 朝 文学研究科学生	『尼崎市立地域研究史料館紀要』第25巻第1号 p.38～43	1995.9 尼崎市立地域研究史料館	文-43
「準備報告：被災史料救出活動と歴史学－大阪歴史協の活動を中心に」	佐賀 朝 文学研究科学生	『歴史科学』150号準備報告会 p.1～3	1997.3.15	文-44
「阪神淡路大震災に関する文学部におけるアンケート(回答)」	後藤純子 文学部助教授 美濃 正 文学部助教授 八木 正 文学部教授 石田佐恵子 文学部講師 天ヶ瀬正博 文学部助手	1頁(以下同じ)		「取扱注意」

資料リスト

①資料名 (文書名・論文名・書名等)	②資料作成者・執筆者及び その所属(学内・部局等 学外・卒業年)	③資料の掲載誌紙等 (巻号、頁等)	④発行年月日 ⑤発行所	⑥備考
「阪神淡路大震災に関する文学部 におけるアンケート(回答)」	桂 正孝 文学部教授 細井克彦 文学部教授 弘田洋二 文学部助教授 添田晴雄 文学部助教授 飯田収治 文学部教授 広川禎秀 文学部教授 塚田 孝 文学部助教授 富田和昭 文学部教授 大場茂明 文学部助教授 月原敏博 文学部助手 坂口弘之 文学部教授 毛利正守 文学部教授 三浦国雄 文学部教授 岩本真理 文学部助教授 押谷善一郎 文学部教授 芝原宏治 文学部教授 荒木映子 文学部助教授 杉井正史 文学部助教授 古賀哲男 文学部助教授 椿 鐵夫 文学部教授 岡越良平 文学部教授 松村國隆 文学部教授 広瀬千一 文学部教授 大澤慶子 文学部教授 寺井俊正 文学部助教授 三上雅子 文学部助教授 神竹道士 文学部助教授 木野光司 文学部助教授 田畑雅英 文学部助教授 成田 節 文学部助教授 山口裕之 文学部講師	1頁(以下同じ)		「取扱注意」

資料リスト

①資料名 (文書名・論文名・書名等)	②資料作成者・執筆者及び その所属(学内・部局等 学外・卒業年)	③資料の掲載誌紙等 (巻号、頁等)	④発行年月日 ⑤発行所	⑥備考
「阪神淡路大震災に関する文学部 におけるアンケート(回答)」	藤井康生 文学部教授 津川廣行 文学部助教授 左近 毅 文学部教授 宮崎裕之 文学部職員 浅井正次 文学部職員	1頁(以下同じ)		「取扱注意」 文-45
「兵庫県南部地震に伴う地表の変位・変状」	平野昌繁 文学部教授(地理学)	『兵庫県南部地震に関する総合研究』平成8年度報告書(文部省科学研究費特別研究) p.25~30	1997.3 神戸大学	波田重熙、後藤博弥と共著 文-46
「地震断層と地殻変動4.4神戸地域」	平野昌繁 文学部教授(地理学)	『兵庫県南部地震-地質・地盤と災害-報告書』 p.116~159 口絵12~18	日本応用地質学会阪神・淡路大震災調査委員会	波田重熙と共著 カードのみ 文-47
「兵庫県南部地震によって淡路島北淡町に現われた断層および変地形」	平野昌繁 文学部教授(地理学)	『日本地文学連合会春季研究発表会資料』	1995.5	石井孝行・藤田崇と共同発表 カードのみ 文-48
「地形構造と震災」	平野昌繁 文学部教授(地理学)	『日本地文学連合会特別例会資料』	1995.3.18 京都大学防災研究所	カードのみ 文-49
「六甲山地東部の崩壊の特徴」	平野昌繁 文学部教授(地理学)	『兵庫県南部地震にともなう土砂被害に関する緊急報告会資料』 p.15~16	1995.3 砂防学会	石井孝行と共同で現地調査・データ解析 カードのみ 文-50
「六甲山地の構造特性と兵庫県南部地震による共役断層系の活動」	平野昌繁 文学部教授(地理学)	『兵庫県南部地震の地震断層と基盤災害-構造地質学からの検討-講演要旨集』 p.28~30	1995.8.1 構造地質研究会	波田重熙と共著 カードのみ 文-51
「兵庫県南部地震による六甲山地東南部における断層の活動と変位量」	平野昌繁 文学部教授(地理学)	『兵庫県南部地震の地震断層と基盤災害-構造地質学からの検討-講演要旨集』 p.31~33	1995.8.1 構造地質研究会	波田重熙と共著 カードのみ 文-52
Tectonic deformation along faults in Southern part of Rokko Range associated with the 1995 Southern-Hyogo Prefecture Earthquake	平野昌繁 文学部教授(地理学)	“International Symposium on Geology and Environment” p.7~10	1996.1.31~2.2	波田重熙と共同発表 カードのみ 文-53
Fault moved in Kobe by the 1995 Hyogoken Nanbu Earthquake	平野昌繁 文学部教授(地理学)	“Geological Association of Canada and Mineralogical Association of Canada”	1996.1.27~29	波田重熙と共同発表 カードのみ 文-54
「六甲山系の地質条件-地形災害の背景として」	平野昌繁 文学部教授(地理学)	『日本地文学連合会1996年春季大会神戸大会シンポジウム資料』	1996.4.1	カードのみ 文-55
Distribution characteristics of slope failures by 1995 Kobe earthquake and their sequential change by rainstorms.	平野昌繁 文学部教授(地理学)	『中日地形聯合大会論文集』 p.41~44	1996.8.20	石井孝行と共同発表 文-56
「兵庫県南部地震による六甲山地尾根付近でみられる変位・変状」	平野昌繁 文学部教授(地理学)	『中日地形聯合大会論文集』 p.45~46	1996.8.20	石井孝行・波田重熙と共同発表 文-57
「兵庫県南部地震にともなう海岸の変化」	平野昌繁 文学部教授(地理学)	『IGCP 特別シンポジウム講演要旨-最近地質時代の地球環境』 p.29~32	1997.2.15	カードのみ 文-58
「兵庫県南部地震による断層の活動と斜面崩壊」	平野昌繁 文学部教授(地理学)	『阪神・淡路大震災のそこが知りたい-斜面崩壊の分布とその特徴-』 p.17~22	1995.11.28 地盤工学会	石井孝行と共著 カードのみ 文-59
「神戸地域の活断層にともなう地盤の変状災害」	平野昌繁 文学部教授(地理学)	『阪神・淡路大震災調査報告書(解説編)』 p.72~80	1996.3.12 地盤工学会阪神大震災調査委員会	藤田崇・波田重熙と共著 カードのみ 文-60

資料リスト

①資料名 (文書名・論文名・書名等)	②資料作成者・執筆者及び その所属(学内・部局等 学外・卒業年)	③資料の掲載誌紙等 (巻号、頁等)	④発行年月日 ⑤発行所	⑥備考
「活断層の活動実態の解明」	平野昌繁 文学部教授(地理学)	文部省科学研究費特別研究『兵庫県南部地震に関する総合研究平成7年度報告書』 p.19～22	1996.3 神戸大学	波田重熙・後藤博弥 と共著 カードのみ 文-61
「兵庫県南部地震による地質・地形災害とその教訓—地表変動の解析・解釈を中心に」	平野昌繁 文学部教授(地理学)	『災害危険箇所抽出のための地質学・地形学手法研究報告書』 p.43～44	1997.3	カードのみ 文-62

理学部

「兵庫県南部地震と自然保護」	熊井久雄 理学部教授(地球学科)	『KONC』第17巻第2号 p.83～84	1995.12 関西自然保護機構	理-1
「前兆証言1519にみる阪神大震災の前兆異常」	弘原海清 理学部教授(地球学科)	『KONC』第17巻第2号 p.85～92	1995.12 関西自然保護機構	理-2
「阪神大震災と緑の機能」	森本幸裕 大阪府立大学農学部	『KONC』第17巻第2号 p.93～102	1995.12 関西自然保護機構	理-3
「阪神・淡路大震災と大阪盆地の地下構造の概要」	中川康一 理学部教授(地球学科)	『KONC』第17巻第2号 p.103～117	1995.12 関西自然保護機構	理-4
「都市における自然」	小川房人 理学部名誉教授	『KONC』第17巻第2号 p.119～124	1995.12 関西自然保護機構	理-5
「淡路島の地震災害と地質・地下水の見学会に参加して」	野村 譲 理学部生物1961年卒・大阪府立 牧野高校	『KONC』第17巻第2号 p.153～155	1995.12 関西自然保護機構	理-6
「阪神・淡路大震災—地震の概要—」	中川康一 理学部教授(地球学科)	『阪神・淡路大震災—大阪市消防 活動記録』 p.155～162	1996.1 ㈱大阪市消防振興協 会	理-8
「大阪市周辺の地震被害と地震動の地域性」	塩野清治 理学部助教授(地球学科)	『阪神・淡路大震災—大阪市消防 活動記録』 p.163～166	1996.1 ㈱大阪市消防振興協 会	理-9
「兵庫県南部地震による液状化被害と地形の人工改変」	三田村宗樹 理学部講師(地球学科)	『阪神・淡路大震災—大阪市消防 活動記録』 p.167～172	1996.1 ㈱大阪市消防振興協 会	理-10
「兵庫県南部地震による盛土造成地の被害」	升本真二 理学部助教授(地球学科)	『阪神・淡路大震災—大阪市消防 活動記録』 p.173～175	1996.1 ㈱大阪市消防振興協 会	理-11
「大阪の地盤構造と地震防災」	中川康一 理学部教授(地球学科)	大阪市西消防署主催「防災講演会 資料」 計20頁	1996.3.5 大阪市西消防署	理-12
「大阪盆地の地下構造特性の概要と阪神・淡路大震災」	中川康一 理学部教授(地球学科)	「第2回大阪市土木・建築構造物震 災対策技術検討会資料」 計18頁	1995.11.20 大阪役所	理-14
「兵庫県南部地震—地質・地盤と災害」	中川康一 理学部教授(地球学科)	『日本応用地質学会阪神・淡路大 震災調査委員会報告書』 計18頁	1995.12 日本応用地質学会	理-15
「大阪盆地の地下構造と地盤特性」	中川康一 理学部教授(地球学科) 佐野正人 サンコーコンサルタント(株)	『阪神・淡路大震災調査報告書解 説編』 計15頁	地盤工学会	理-16
「大阪地盤の震害軽減に関連した地下水対策」	中川康一 理学部教授(地球学科)	『地下水技術』第37巻第12号 p.43～50	1995 ㈱地下水技術協会	理-17
「震害と地盤構造」	中川康一 理学部教授(地球学科)	『シンポジウム—阪神・淡路大震 災と地質環境論文集』 p.233～238	1995.6 日本地質学会	理-18
Geological setting and geotechnical problems in Osaka Basin in connection with Hanshin Great Earthquake	中川康一 理学部教授(地球学科)	“International Association for Mathematical Geology” p.279～282	1995.10	理-19

資料リスト

①資料名 (文書名・論文名・書名等)	②資料作成者・執筆者及び その所属(学内・部局等 学外・卒業年)	③資料の掲載誌紙等 (巻号、頁等)	④発行年月日 ⑤発行所	⑥備考
Geological Characteristics and problems in and around Osaka Basin as a basis for assessment of seismic hazards	中川康一 理学部教授(地球学科) 他(備考欄参照)	Special Issue of Soils and Foundations 計48頁	1996.1 Japanese Geotechnical Society	塩野清治、井上直人 理-20
「兵庫県南部地震の温泉を含む地下水への影響」	熊井久雄 理学部教授(地球学科) 他(備考欄参照)	『大地震—そのとき地質家は何をしたか』(別刷) p.133~147	1996 東海大学出版会	大阪市立大学阪神・淡路大震災学術調査団地下水班 長橋良隆、Shrestha .DS、高村陽子、山本裕雄 理-22
「兵庫県南部地震に対する大阪平野の地下水の反応—地震動と地下水の動き—」	熊井久雄 理学部教授(地球学科) 他(備考欄参照)	『地下水技術』第38巻第11号(抜刷) p.39~49	1996 財団法人地下水理化学研究所	高村陽子、内山高 理-23
「芦屋川流域の市街地における地震災害—液状化災害の防災に関する提言」	熊井久雄 理学部教授(地球学科)	『大地震—そのとき地質家は何をしたか』別刷 p.43~68	1996 東海大学出版会	理-24
「深部地下構造と被害」	中川康一 理学部教授(地球学科)	『阪神・淡路大震災』 p.257~269	1996.7 東海大学出版会	理-25
「旧河川およびため池の例」	三田村宗樹 理学部講師(地球学科)	『阪神・淡路大震災』 p.281~290	1996.7 東海大学出版会	理-26
「盛土造成地の例」	升本眞二 理学部助教授(地球学科)	『阪神・淡路大震災』 p.291~299	1996.7 東海大学出版会	理-27
Focusing of Seismic Waves along the Uemachi Fault : Damage in the Osaka Area Caused by the 1995 Hyogo-ken Nanbu Earthquake and a Subsurface Geologic Structure	塩野清治 理学部助教授(地球学科) 他(備考欄参照)	“J. phys. Earth” Vol.44 No.5 (抜刷) p.591~599	1996	中川康一、三田村宗樹、升本眞二 理-28
「大阪盆地構造と震害特性」	中川康一 理学部教授(地球学科) 他(備考欄参照)	『物理探査学会第94回学術講演会論文集』 p.16~21	1996.5 物理探査学会	塩野清治、井上直人、千田智志 理-29
「大阪盆地の基盤構造」	中川康一 理学部教授(地球学科) 他(備考欄参照)	『都市耐震センター研究報告』別冊18号(抜刷) p.11~25	1996.3 京都大学防災研究所	井上直人 理-30
「地盤の動的非線形性と地震動応答」	中川康一 理学部教授(地球学科)	“Proceedings of the 6th Symposium on Geo-Environments and Geo-technics” p.75~80	1996.11	理-31
「大阪における震害と都市地盤特性」	中川康一 理学部教授(地球学科)	『月刊用地』'97-1, Vol.30, No.352 p.33~49	1997.1	理-32
「特集・兵庫県南部地震—応用地質学からの視点」	中川康一(分担執筆) 理学部教授(地球学科)	『応用地質』第37巻第4号(抜刷) p.5~45	1996.10 日本応用地質学会	理-33
「兵庫県南部地震における芦屋・西宮地域の谷埋め盛土宅地被害とその要因に関する統計解析」	三田村宗樹 理学部助教授(地球学科)	『日本応用地質学会関西支部平成9年度研究発表会概要集』 p.7~10	1997.6 日本応用地質学会関西支部	理-34
「表層付近の地震動非線形問題」	中川康一 理学部教授(地球学科)	『日本応用地質学会関西支部平成9年度研究発表会概要集』 p.23~26	1997.6 日本応用地質学会関西支部	理-35
「アンケート調査による兵庫県南部地震の震度分布」	中川康一 理学部教授(地球学科) 他(備考欄参照)	『日本応用地質学会関西支部平成9年度研究発表会概要集』 p.3~6	1997.6 日本応用地質学会関西支部	井上直人、岡本健太郎、千田智志、三田村宗樹、升本眞二 理-36
「大阪の地盤と文化財」	中川康一 理学部教授(地球学科)	“Preservation of the Cultural Heritages in Osaka and Athens” p.1~21	1996 Osaka City University International Symposium	理-37

資料リスト

①資料名 (文書名・論文名・書名等)	②資料作成者・執筆者及び その所属(学内・部局等 学外・卒業年)	③資料の掲載誌紙等 (巻号、頁等)	④発行年月日 ⑤発行所	⑥備考
Geotechnical reconnaissance of the effects of the January 17, 1995, Hyogoken-Nambu earthquake, Japan	中川康一 理学部教授(地球学科)	Earthquake Engineering Research Center p.151	1995.7 University of California at Berkeley	I. M. IDRIS 他19名 理-38
「大阪周辺域での震害と地盤構造」	中川康一 理学部教授(地球学科)	『阪神大震災緊急合同報告会資料集』 p.92～108	1995.3	大阪市立大学阪神大震災学術調査団 理-39
「阪神・淡路大震災－地震の概要－」	中川康一 理学部教授(地球学科)	『大阪消防』1995年5月号 p.56～59	1995.5 財大阪市消防振興協会	理-40
「阪神・淡路大震災－地震の概要－2」	中川康一 理学部教授(地球学科)	『大阪消防』1995年6月号 p.42～45	1995.6 財大阪市消防振興協会	理-41
「兵庫県南部地震による液状化被害と地形の人工改変 (I)」	三田村宗樹 理学部講師(地球学科)	『大阪消防』1995年6月号 p.46～49	1995.6 財大阪市消防振興協会	理-42
「兵庫県南部地震による液状化被害と地形の人工改変 (II)」	三田村宗樹 理学部講師(地球学科)	『大阪消防』1995年7月号 p.44～47	1995.7 財大阪市消防振興協会	理-43
「大阪堆積盆地の上部更新統と六甲変動」	吉川周作 理学部助教授(地球学科) 三田村宗樹 理学部講師(地球学科)	『都市耐震センター研究報告』別冊第18号、(別刷) p.1～9	1996.3 京都大学防災研究所	理-44
「1995年兵庫県南部地震による西宮・大阪地域の震害と地盤構造」	三田村宗樹 理学部講師(地球学科) 他(備考欄参照)	『第四紀研究』(抜刷) p.179～188	1996.7 日本第四紀学会	中川康一、升本眞二、塩野清治、吉川周作、古山勝彦、井上直人、内山高、小西省吾、宮川ちひろ、野口和晃、Shrestha Suresh、谷保孝、山口貴行、山本裕雄 理-45
「1995年兵庫県南部地震による液状化被害と地形の人工改変」	三田村宗樹 理学部講師(地球学科)	『関西自然保護機構会報』第17号(抜刷) p.43～48	1995 関西自然保護機構	理-46
「兵庫県南部地震時の液状化現象に関連する被害状況の事例写真」	三田村宗樹 理学部講師(地球学科)			理-47
「兵庫県南部地震による埋立地盤の沈下量の簡易的評価」	三田村宗樹 理学部助教授(地球学科)	『地盤工学会平成8年度研究発表会講演論文集』 計2頁	1997.7 財地盤工学会	理-48
「人工改変地盤(盛土、埋立地盤、旧溜池)」	三田村宗樹 理学部講師(地球学科)	『阪神・淡路大震災調査報告書(解説編)』 p.80～82	1996.3 財地盤工学会	理-49
「1995年兵庫県南部地震における土木構造物被害と阪神大震災地域の地盤構造のいくつかの問題点」	三田村宗樹 理学部講師(地球学科)	『阪神大震災中間報告会予稿集－人工改変と地盤災害－』 p.105～111	1995.5.23 日本応用地質学会阪神大震災調査委員会	理-50
「国際地球情報シンポジウム報告書及び添付資料(プログラム等)」	弘原海清 理学部教授(地球学科)	計12頁	1995.10.29～11.2開催 国際地球情報シンポジウム組織委員会	弘原海清は同組織委員長 理-51
「地震災害の自然要因と社会要因－阪神大震災を例として－」	弘原海清 理学部教授(地球学科)	“IAMG” 1995年講演予稿集 p.17～18	1995.10.29 国際地球情報シンポジウム組織委員会	理-52
「重力から見た大阪盆地の基盤構造」	中川康一 理学部教授(地球学科) 他(備考欄参照)	“IAMG” 1995年講演予稿集(セッションVI) p.7～9	1995.10.29 国際地球情報シンポジウム組織委員会	井上直人、千田智志 理-53
「阪神大震災の被害写真データベース」	升本眞二 理学部助教授(地球学科) 他(備考欄参照)	“IAMG” 1995年講演予稿集(セッションVI) p.29～30	1995.10.29 国際地球情報シンポジウム組織委員会	三田村宗樹、大阪市立大学阪神大震災学術調査団 理-54

資料リスト

①資料名 (文書名・論文名・書名等)	②資料作成者・執筆者及び その所属(学内・部局等 学外・卒業年)	③資料の掲載誌紙等 (巻号、頁等)	④発行年月日 ⑤発行所	⑥備考
「1995年兵庫県南部地震による地盤被害と地形の人工改変」	三田村宗樹 理学部講師(地球学科)	“IAMG” 1995年講演予稿集 (セッションVI) p.31～34	1995.10.29 国際地球情報シンポジウム組織委員会	理-55
「阪神大震災に関連した大阪盆地の地質特性と地盤問題」	中川康一 理学部教授(地球学科)	“IAMG” 1995年講演予稿集 (セッションVI) p.41～44	1995.10.29 国際地球情報シンポジウム組織委員会	理-56
Image Database of the Hanshin Great Earthquake Disaster	升本真二 理学部助教授(地球学科) 三田村宗樹 理学部講師(地球学科)	“IAMG” '95 Abstracts for Technical Programs p.267～272	1995.10.29 国際地球情報シンポジウム組織委員会	理-57
Geological setting and geotechnical problems in Osaka Basin in connection with Hanshin Great Earthquake	中川康一 理学部教授(地球学科)	“IAMG” '95 Abstracts for Technical Programs p.279～282	1995.10.29 国際地球情報シンポジウム組織委員会	理-58
Influence of ground characteristics on shaking and liquefaction resistance in major Cities in Japan	中川康一 理学部教授(地球学科) 三田村宗樹 理学部講師(地球学科)	“Proceed, 4th Japan/US, US/Japan Workshop, Urban Earthquake Hazard Reduction” p.259～262	1995.1.17～19	理-59
『阪神淡路大震災 前兆証言1519』	弘原海清 理学部教授(地球学科)	『阪神淡路大震災 前兆証言1519』 計265頁	1995.10.20 東京出版㈱	理-60
『前兆証言1519！普及版』	弘原海清 理学部名誉教授	『前兆証言1519！普及版』 計419頁	1996.6.10 東京出版㈱	特別対談・小松左京 VS 弘原海清 理-61
(新聞切り抜き)「阪神大震災「絶壁」沿いに被害集中／大阪市大教授ら岩盤の立体構造再現」	中川康一 理学部教授(地球学科)	『毎日新聞』	1996.3.3 毎日新聞社	理-62
(新聞切り抜き)「厳戒 激震 大阪直下／豊中～堺の上町断層／震波増幅地表を直撃」	中川康一 理学部教授(地球学科)	『夕刊 フジ』	1996.1.18	理-63
(新聞切り抜き)「詳細な地質調査を／県内での断層の存在指摘」	中川康一 理学部教授(地球学科)	『朝日新聞』	1995.12.7 朝日新聞社	理-64
(新聞切り抜き)「地震・最前線／揺れ方を具体的に聞く－震度調査－」	中川康一 理学部教授(地球学科)	『毎日新聞』 (みんなの科学 カレッシング)	1995.11.15 毎日新聞社	理-65
(新聞切り抜き)「地震最前線／人工的に震動を発生－地中での反射を調査－」	中川康一 理学部教授(地球学科)	『毎日新聞』(夕刊)	1995.5.31 毎日新聞社	理-66
(新聞切り抜き)「大震災／地下で何が－検証・断層と地盤／新なぎさ現象」	中川康一 理学部教授(地球学科)	『神戸新聞』	1995.4.23 神戸新聞社	理-67
(新聞切り抜き)「大震災／地下で何が－検証・断層と地盤／山の神話」	中川康一 理学部教授(地球学科)	『神戸新聞』	1995.4.26 神戸新聞社	理-68
(新聞切り抜き)「活断層に公共施設集中／行政にも危険認識なく」	三田村宗樹 理学部講師(地球学科) 中川康一 理学部教授(地球学科)	『毎日新聞』 (みんなの科学 カレッシング)	1995.4.19 毎日新聞社	理-69
(新聞切り抜き)「活断層を読む／見えない脅威を探查」	中川康一 理学部教授(地球学科)	『朝日新聞』	1995.4.17 朝日新聞社	理-70
(新聞切り抜き)「阪神大震災／研究者の提言／震災と都市型地盤特性」	中川康一 理学部教授(地球学科)	『東京新聞』(夕刊)	1995.4.11 東京新聞社	理-71
(新聞切り抜き)「特集－阪神大震災2ヶ月／地震波屈折エネルギー集中」	中川康一 理学部教授(地球学科)	『毎日新聞』	1995.3.16 毎日新聞社	理-72

資料リスト

①資料名 (文書名・論文名・書名等)	②資料作成者・執筆者及び その所属(学内・部局等 学外・卒業年)	③資料の掲載誌紙等 (巻号、頁等)	④発行年月日 ⑤発行所	⑥備考
(新聞切り抜き)「上町断層西沿いに被害顕著/地震波集中-堆積層がレンズ役-大阪市大調査」	中川康一 理学部教授(地球学科)	『読売新聞』(夕刊)	1995.3.4 読売新聞社	理-73
(新聞切り抜き)「阪神大震災/人工島7.3メートル膨張」	中川康一 理学部教授(地球学科)	『神戸新聞』	1995.1.30 神戸新聞社	理-74
(新聞切り抜き)「直下型地震/専門家に聞く」	塩野清治 理学部助教授(地球学科) 中川康一 理学部教授(地球学科)	『朝日新聞』	1995.1.20 朝日新聞社	理-75
(新聞切り抜き)「活断層上に大被害集中」	中川康一 理学部教授(地球学科)	『朝日新聞』	1995.1.20 朝日新聞社	理-76

工学部

「兵庫県南部地震における土木構造物の地震衝撃破壊について」	園田恵一郎 工学部教授(土木工学科) 小林治俊 工学部助教授(土木工学科)	『土木学会構造工学委員会衝撃問題研究小委員会資料』 p.1~13	1995.4.4 (委員会資料)	工-1
On the Impulsive Failure of Bridge Piers by Hanshin-Awaji Earthquake	園田恵一郎 工学部教授(土木工学科) 小林治俊 工学部助教授(土木工学科)	“Joint Meeting of the Impact Problem Committee of Japan Society of Civil Engineering and SRI-International” p.1~9	1995.6.25 (委員会資料)	工-2
「阪神・淡路地震-初期振動の証言について」	園田恵一郎 工学部教授(土木工学科) 小林治俊 工学部助教授(土木工学科)	『構造物の衝撃的破壊に関する学協会合同研究協議会第3回研究会資料』 p.1~20	1995.8.5 (委員会資料)	工-3
「地震によるRC柱の衝撃破壊についての一考察」	園田恵一郎 工学部教授(土木工学科) 小林治俊 工学部助教授(土木工学科)	『土木会報第50回年次学術講演会講演概要集』 p.1118~1119	1995.9 土木学会	工-4
「高架橋等の破壊の主因は縦揺れか、横揺れか、あるいは衝撃力か？」	園田恵一郎 工学部教授(土木工学科)	『大阪消防』第46巻11号 p.38~41	1995.11 (大阪府消防振興協会)	工-5
On the Impulsive Failure of Bridge Piers by Hyogo-ken Nanbu Earthquake Kobe 1995	園田恵一郎 工学部教授(土木工学科) 小林治俊 工学部助教授(土木工学科)	“Memoirs of the Faculty of Engineering” p.21~32	1995.12 大阪市立大学工学部	工-6
「上下動における地盤と構造物の相互作用について」	園田恵一郎 工学部教授(土木工学科)	『土木学会誌-震災フォーラム』第81巻第3号 p.47	1996.3 土木学会	工-7
「阪神大震災における土木構造物の衝撃的破壊について-地盤と構造物の相互作用の応力波伝播解析による検討」	園田恵一郎 工学部教授(土木工学科) 小林治俊 工学部助教授(土木工学科)	『地震とPC建築』(1995年度関東支部研究発表会シンポジウム) p.21~33	1996.3.6 日本建築学会関東支部PC構造分会	工-8
「阪神大震災における土木構造物の衝撃的破壊について-地盤と構造物の弾性応力波伝播解析からの検討」	園田恵一郎 工学部教授(土木工学科) 小林治俊 工学部助教授(土木工学科)	『日本機械学会講演論文集』No.964-1 p.178~179	1996.3 日本機械学会	工-9
「兵庫県南部地震における土木構造物の衝撃的破壊の事例」	園田恵一郎 工学部教授(土木工学科) 小林治俊 工学部助教授(土木工学科)	『土木学会-第3回落石等による衝撃問題に関するシンポジウム講演論文集』 p.115~120	1996.5 土木学会	工-10
「阪神大震災における土木構造物の衝撃的破壊について-地盤と構造物の相互作用の応力波伝播解析による検討」	園田恵一郎 工学部教授(土木工学科)	『土木学会-第3回落石等による衝撃問題に関するシンポジウム講演論文集』 p.327~336	1996.5 土木学会	工-11

資料リスト

①資料名 (文書名・論文名・書名等)	②資料作成者・執筆者及び その所属(学内・部局等 学外・卒業年)	③資料の掲載誌紙等 (巻号、頁等)	④発行年月日 ⑤発行所	⑥備考
「兵庫県南部地震－初期鉛直動の証言について」	園田恵一郎 工学部教授(土木工学科) 小林治俊 工学部助教授(土木工学科) 他	『土木学会第51回年次学術講演会講演概要集』第1部門B p.188～189	1996.9 土木学会	工-12
「兵庫県南部地震におけるRC高架橋の衝撃的破壊についての数値解析による検討」	園田恵一郎 工学部教授(土木工学科) 小林治俊 工学部助教授(土木工学科) 他	『土木学会第51回年次学術講演会講演概要集』第1部門B p.320～321	1996.9 土木学会	工-13
「兵庫県南部地震における地下鉄駅舎の衝撃的破壊についての数値解析による検討」	中島大使 工学部土木工学研究科学生 小林治俊 工学部助教授(土木工学科) 園田恵一郎 工学部教授(土木工学科)	『土木学会第51回年次学術講演会講演概要集』第1部門B p.322～323	1996.9 土木学会	工-14
「地震波動による構造物と地盤の相互作用に対する数値解析の検討」	園田恵一郎 工学部教授(土木工学科) 小林治俊 工学部助教授(土木工学科)	『衝撃的地震動と構造物の被害に関するコロキウム資料集』 p.59～67	1996.9.20 大阪市立大学工学部 構造工学研究室	工-15
「大阪市内およびその周辺での橋脚の被害と地震波形について」	園田恵一郎 工学部教授(土木工学科) 小林治俊 工学部助教授(土木工学科)	『衝撃的地震動と構造物の被害に関するコロキウム』 p.68～73	1996.9.20 大阪市立大学工学部 構造工学研究室	工-16
On Impact-like Failure of Reinforced Concrete Structures by Hyogo-ken Nanbu Earthquake (Kobe, 1995)	園田恵一郎 工学部教授(土木工学科) 小林治俊 工学部助教授(土木工学科)	“Proceedings of First International Conference on Earthquake Resistant Engineering Structures” p.693～704	1996.10 Computational Mechanics Publications	工-17
On Impact-like Failure of Reinforced Concrete Structures by Hyogo-ken Nanbu Earthquake (Kobe, 1995)	園田恵一郎 工学部教授(土木工学科) 小林治俊 工学部助教授(土木工学科)	“Memoirs of the Faculty of Engineering” p.1～10	1996.12 大阪市立大学工学部	工-18
Investigatin on Cracking in Buried Pipelines in Centrifuge	東田 淳 工学部助教授(土木工学科)	“The Kansai Branch of Japanese Geotechnical Society” p.357～366	1997.1 土木学会関西支部	工-19
「兵庫県南部地震における地中埋設管被害の概要と分布」	東田 淳 工学部助教授(土木工学科) 米谷彰司 井上裕司	『土木学会第51回年次学術講演会概要集』第1部門B p.218～219	1996.9 土木学会	工-20
「遠心模型による井桁組擁壁の地震時変形挙動の観測」	東田 淳 工学部助教授(土木工学科) 他	『土木学会第51回年次学術講演会概要集』第3部門B p.96～97	1996.9 土木学会	工-21
「大口径埋設管の地震時変形挙動に関する遠心実験」	東田 淳 工学部助教授(土木工学科) 他	『土木学会第51回年次学術講演会概要集』第3部門B p.390～391	1996.9 土木学会	工-22
「遠心模型による埋設管路の地震時ひずみ測定」	東田 淳 工学部助教授(土木工学科) 他	『地震工学会第31回研究発表会講演集』 p.2317～2318	1996.7 地震工学会	工-23
「シールドトンネルの二次覆工は被害を拡大させたのだろうか」	東田 淳 工学部助教授(土木工学科)	『土木学会誌－震災フォーラム』 Vol.81-3 p.43～44	1996.3 土木学会	工-24
「阪神・淡路大震災調査報告書解説編－8・3. 下水道施設」	東田 淳 工学部助教授(土木工学科)	『阪神・淡路大震災報告書(解説編)』 p.365～374	1996.3 地盤工学会	工-25
Characteristic features of damage to the public sewerage system in the Hanshin area	東田 淳 工学部助教授(土木工学科) 他	“Soils and Foundations, Special Issue” p.335～347	1996.3 地盤工学会	工-26
「検証、阪神・淡路大震災－地中埋設管の被害と原因」	東田 淳 工学部助教授(土木工学科)	『大阪消防』第47巻第2号 p.46～49	1996.2 財大阪市消防振興協会	工-27
「ライフライン被害の特徴と原因(特集・阪神淡路大震災と防災)」	東田 淳 工学部助教授(土木工学科)	『科学』Vol.66 No.2 p.126～131	1996.2 岩波書店	工-28

資料リスト

①資料名 (文書名・論文名・書名等)	②資料作成者・執筆者及び その所属(学内・部局等 学外・卒業年)	③資料の掲載誌等 (巻号、頁等)	④発行年月日 ⑤発行所	⑥備考
Measurement of Strain Distributions along a Buried Pipeline under Seismic Loading in Centrifuge Models	東田 淳 工学部助教授(土木工学科)	"1st Inter. Conf. on Earthquake Geotechnical Engineering" p.785~790	1995.11 土木学会	工-29
Preliminary Investigation of a Buried Pipe Excited by an Earthquake	東田 淳 工学部助教授(土木工学科)	"3rd Inter. Conf. on Recent Advances in Geotechnical Earthquake Engineering and Soil Dynamics" p.155~158	1995.5 Univ. of Missouri-Rolla	工-30
「FEM解析を用いた高盛土斜面の地震時安定性評価方法」	望月秋利 工学部助教授(土木工学科) 他	『降雨と地震から危険斜面を守る地盤工学に関するシンポジウム』 p.121~126	1996.4 地盤工学会	工-31
「地盤の液状化現象の基本的視点」	望月秋利 工学部助教授(土木工学科)	『土木学会誌-震災フォーラム』 Vol.81-4 p.56	1996.4 土木学会	工-32
「緩い盛土と地盤調査法」	高田直俊 工学部教授(土木工学科)	『土木学会誌-震災フォーラム』 Vol.81-4 p.43	1996.4 土木学会	工-33
「阪神・淡路大震災調査報告書(解説編)」第7章土構物	高田直俊 工学部教授(土木工学科) 大島昭彦 工学部助手(土木工学科) 共著	『阪神大震災調査報告書(解説編)』 p.285~326	1996.3 地盤工学会	工-34
Damage to River Levees and Revetments	高田直俊 工学部教授(土木工学科) 他	"Soils and Foundations Special Issue" p.241~254	1996.1 地盤工学会	工-35
「突き上げるような上下動」はどこへいった」	高田直俊 工学部教授(土木工学科) 他	『土と基礎』Vol.44-3 p.13~15	1996.3 地盤工学会	工-36
「阪神・淡路大震災における豊中市の被害と地盤」	高田直俊 工学部教授(土木工学科) 他	『土と基礎』Vol.44-2 p.45~48	1996.2 地盤工学会	工-37
「壊れたもの、壊れなかったもの」	高田直俊 工学部教授(土木工学科) 他	『土と基礎』Vol.44-2 p.31~34	1996.2 地盤工学会	工-38
「河川の被災」	高田直俊 工学部教授(土木工学科)	『大阪消防』第46巻第12号 p.40~43	1995.12 財大阪市消防振興協会	工-39
「阪神大震災の特徴と安全な都市づくりの課題」	土井幸平 工学部教授(建築学科)	『大阪府災害に強い都市基盤施設整備検討委員会資料集』 計7頁	1995.11 (講演資料)	工-40
「阪神・淡路大震災と福島区におけるまちづくりの課題」	土井幸平 工学部教授(建築学科)	『市政研究』No.114 p.60~69	1997.1 大阪市市政調査会	カードのみ 工-41
(対談)「阪神・淡路大震災-神戸・大阪は車の両輪、救援・復興に関西の底力を示そう」	土井幸平 工学部教授(建築学科) 他	『大阪人』Vol.49-3 p.6~10	1995.3 財大阪都市協会	大阪大学工学部鳴海教授との対談 工-42
「阪神・淡路大震災による大阪市内の建物被害について(1)~(2)」	土井幸平 工学部教授(建築学科)	『大阪消防』第46巻第9号 p.38~41 『同』第46巻第10号 p.54~57	1995.9~10 財大阪市消防振興協会	工-43
「神戸-震災からの復活、都市再生の鍵となるプロジェクトは何か」	土井幸平 工学部教授(建築学科)	『ニュートン』Vol.16-1 p.116~123	1996.1 教育社	工-44
「阪神大震災復興計画の概要と都市・建築の課題」	土井幸平 工学部教授(建築学科)	『中華民国工程師学会1996年会中日技術検討会講演資料』 p.1~7	1995.11 (講演資料)	工-45
「震災復興1年の実態からみた復興都市計画の今後の課題」	土井幸平 工学部教授(建築学科)	『都市問題研究』Vol.49-1 p.75~85	1997.1 都市問題研究会	工-46
「都市直下型地震による建造物崩壊メカニズム」	那谷晴一郎 工学部助手(建築学科)	『大阪市立大学工作技術センターレポートファブリカ』第7号 p.2~15	1995 大阪市立大学	工-47
「直下型地震と建造物崩壊との関わり(1)」	那谷晴一郎 工学部助手(建築学科)	『大阪消防』第46巻第8号 p.40~43	1995.8 財大阪市消防振興協会	工-48
「直下型地震と建造物崩壊との関わり(2)」	那谷晴一郎 工学部助手(建築学科)	『大阪消防』第46巻第9号 p.42~45	1995.9 財大阪市消防振興協会	工-49

資料リスト

①資料名 (文書名・論文名・書名等)	②資料作成者・執筆者及び その所属(学内・部局等 学外・卒業年)	③資料の掲載誌紙等 (巻号、頁等)	④発行年月日 ⑤発行所	⑥備考
「木造家屋等の被害状況」	那谷晴一郎 工学部助手(建築学科)	『1995年兵庫県南部地震災害調査速報』第3章1節 p.66～67	1995.3 日本建築学会編、丸善発行	工-50
「震災の帯にみる建造物の衝撃的破壊の特徴」	那谷晴一郎 工学部助手(建築学科)	『京都大学防災研究所－都市耐震センター研究報告』 p.185～211	1996.3 京都大学防災研究所	工-51
Shock Compression Collapses of Structures in Hanshin-Awaji Earthquake (Kobe 1995)	那谷晴一郎 工学部助手(建築学科)	“Asia-pacific Conference on Shock & Impact Loads on Structures” p.339～346	1996.1 CI-Premier	工-52
「阪神大震災にみる建造物の中間等任意階の層崩壊発生機構の解明について－上下動に対する衝撃応力波伝播層インピーダンスの提案－」	那谷晴一郎 工学部助手(建築学科)	『平成7年度日本建築学会大会学術講演梗概集』 p.61～62	1995.8 日本建築学会	工-53
「地盤上下動と建造物破壊の関連性について」	那谷晴一郎 工学部助手(建築学科)	『シンポジウム阪神・淡路大震災と地質環境論文集』 p.193～198	1995.6 日本地質学会	工-54
「阪神大震災にみる建造物の中間等任意階の層崩壊発生機構の解明－上下動に対する衝撃応力伝播層インピーダンスの提案－」	那谷晴一郎 工学部助手(建築学科)	『日本建築学会近畿支部平成7年度研究報告集』 p.245～248	1995.6 日本建築学会	工-55
「大空間構造の被害」	坂 壽二 工学部教授(建築学科)	『建築雑誌』Vol.110 No.1372 p.36～37	1995.5 日本建築学会	工-56
Preliminary Report on Hanshin Earthquake	坂 壽二 工学部教授(建築学科) 他	“Proc. of the IASS International Symposium Vol.2 p.1059～1066	1995.6 SGEDITORIALI	工-57
「阪神大震災と空間構造の被害－スペースフレームの被害」	坂 壽二 工学部教授(建築学科) 谷口与史也 工学部助手(建築学科)	『第5回シェル・空間構造セミナー資料』 p.8～15	1996.11.1 日本建築学会	工-58
「震災復興と設計技術」	多胡 進 工学部教授(建築学科) 杉山茂一 工学部助教授(建築学科)外14名	『阪神・淡路大震災と建築計画研究』 p.122～133	1995.8 日本建築学会建築計画委員会	工-59
「建築・都市等の計画に関する考え方の動向」	杉山茂一 工学部助教授(建築学科) 他	『兵庫県南部地震に関する日本建築学会近畿支部所属会員アンケート調査第1次集計結果』 p.51～55	1995.7.17 日本建築学会近畿支部	工-60
「都市・地域・建築の計画に対する意見ならびに変化傾向とその要因」	杉山茂一 工学部助教授(建築学科) 他	『兵庫県南部地震に関する日本建築学会近畿支部所属会員アンケート調査第2次集計結果』 p.109～128	1996.8.17 日本建築学会近畿支部	工-61
「マンションの被災実態と建築計画上の問題」	杉山茂一 工学部助教授(建築学科) 他	『1996年日本建築学会大会建築計画部門研究協議会資料－建築計画における耐震化』 p.17～29	1996.9 日本建築学会建築計画委員会	工-62
「非構造部材の被害からみた設計技術上の問題」	多胡 進 工学部教授(建築学科) 杉山茂一 工学部助教授(建築学科)	『1996年度日本建築学会建築計画部門研究協議会資料－建築計画における耐震化－』 p.49～62	1996.9 日本建築学会建築計画委員会	工-63
「震災を踏まえた建築学会員の都市・地域・建築計画への考え方」	杉山茂一 工学部助教授(建築学科) 他	『建築雑誌1996増刊号－日本建築学会技術報告集』第3号 Vol.111, No.1399 p.283～288	1996.12.20 日本建築学会	工-64
「震災復興と設計技術－建築の非構造部材における諸問題－」	多胡 進 工学部教授(建築学科) 杉山茂一 工学部助教授(建築学科) 他	『震災復興と設計技術－建築の非構造部材における諸問題－』 p.1～190	1997.1 (株)日本建築学会近畿支部	工-65

資料リスト

①資料名 (文書名・論文名・書名等)	②資料作成者・執筆者及び その所属(学内・部局等 学外・卒業年)	③資料の掲載誌紙等 (巻号、頁等)	④発行年月日 ⑤発行所	⑥備考
「震災後の神戸・阪神地区における交通事故の分析」	日野泰雄 工学部講師(土木工学科) 増田勝茂 工学部学生(土木工学科)	『土木学会関西支部年次学術講演会講演概要』IV-75 p.1~2	1996.6 土木学会	工-66
「インフラ施設被害と復旧状況」	日野泰雄 工学部講師(土木工学科) 他	『平成8年度講習会テキスト-阪神・淡路大震災調査研究委員会中間報告会講演集』 p.215~224	1996.9 土木学会関西支部	工-67
「阪神淡路大震災後の交通事故実態分析と災害時交通運用の考え方」	日野泰雄 工学部講師(土木工学科) 増田勝茂 工学部卒業生 吉田長裕 工学部学生(土木工学研究科)	『第16回交通工学研究発表会論文報告集』 p.85~88	1996.11 交通工学研究会	工-68
「震災時における自動車利用ニーズに関する分析」	日野泰雄 工学部講師(土木工学科) 吉田長裕 工学部学生(土木工学研究科) 鈴木孝治 工学部学生(土木工学科)	『土木計画学研究講演集』No.19-2 p.323~326	1996.11 土木学会	工-69
「震災時における自動車利用ニーズと交通運用の考え方」	日野泰雄 工学部講師(土木工学科) 他	『第2回阪神・淡路大震災に関する学術講演会論文集』 p.505~512	1997.1 土木学会	工-70
「震災体験からみたいいくつかの問題点と今後に向けた課題」	日野泰雄 工学部講師(土木工学科)	『交通工学』Vol.30 増刊号 p.14~17	1995.10 交通工学研究会	工-71
「阪神大震災におけるヘリコプタの利用とその課題」	西村 昂 工学部教授(土木工学科)	『交通科学』Vol.25 No.1~2合併号 p.47~52	1996 大阪交通科学研究会	工-72
「阪神大震災と道路交通問題」	西村 昂 工学部教授(土木工学科)	『交通科学』Vol.25 No.1~2合併号 p.1~10	1996 大阪交通科学研究会	工-73
「道路交通面における被害と課題」	西村 昂 工学部教授(土木工学科)	『文化交流センター講座資料』 p.1~7	1996.9.11 大阪市立大学	工-74
「阪神・淡路大震災における支承・伸縮継手・桁間連結装置の被害と今後の設計のあり方」	北田俊行 工学部助教授(土木工学科)	『阪神・淡路大震災に関する学術講演会論文集』 p.359~366	1996.1 土木学会構造工学委員会	工-75
Schäden an Stahlbrücken von Schnellstraßen durch das große Hanshin Ebeben	北田俊行 工学部助教授(土木工学科)	“Proceedings of 2nd Japanese-German Colloquium for Steel and Composite Bridges” 計21頁	1996.4.22~23 Ernst & Sohn	工-76
「検証阪神淡路大震災-直下型地震による橋梁構造物の被害に想うこと」	中井 博 工学部教授(土木工学科)	『大阪消防』Vol.46 p.48~52	1995.10 財大阪市消防振興協会	工-77
Reconstruction and Repair of Steel Highway Bridges Damaged by the Great Hanshin Earthquake	北田俊行 工学部助教授(土木工学科) 他	“Bridge Management 3” p.8~16	1996.4 E&FN SPON	工-78
「大震災により損傷を受けたアーチ橋の損傷原因のシュミレーション解析」	中井 博 工学部教授(土木工学科) 北田俊行 工学部助教授(土木工学科) 興地正浩 工学部学生(土木工学科) 他	『平成8年度年次学術講演会概要集』 p.1~2	1996.5 土木学会関西支部	工-79
「JCI近畿支部土木コンクリート構造物の震災対策に関する研究委員会中間報告書」	工学部	『土木コンクリート構造物の震災対策に関する研究委員会中間報告書』 p.22~39、86~124	1995.12.25 財日本コンクリート工学協会近畿支部	工-80
「震害を受けたRC橋脚の損傷分析と特徴」	真嶋光保 工学部助教授(土木工学科) 他	『コンクリート工学年次論文報告集』Vol.18 No.2 p.47~52	1996.6 財日本コンクリート工学協会	工-81

資料リスト

①資料名 (文書名・論文名・書名等)	②資料作成者・執筆者及び その所属(学内・部局等・学外・卒業年)	③資料の掲載誌等 (巻号、頁等)	④発行年月日 ⑤発行所	⑥備考
「被災パターンと要因分析」	眞嶋光保 工学部助教授(土木工学科)	『阪神淡路大震災調査研究委員会 中間報告会講演集平成8年度報告 会テキスト』 p.120～125	1996.9 (社)土木学会関西支部	工-82
「阪神淡路大震災における下・排水処理システムへの影響」	貫上佳則 工学部助手(土木工学科) 他	『水環境学会誌』Vol.19 No.5 p.20～24	1996 水環境学会	工-83
On the Impulsive Failure of Bridge Piers by Hanshin-Awaji Earthquake (Kobe1995)	岡田恵一郎 工学部教授(土木工学科) 小林治俊 工学部助教授(土木工学科)	“Asia-Pacific Conference on Shock & Impact Loads on Structures” p.429～436	1996.1.23～24 CI-Premier	工-84
工学部紀要「阪神・淡路大震災特別号」によせて	多胡 進 工学部教授(建築学科)	『大阪市立大学工学部紀要特別号-阪神・淡路大震災の調査報告』 p. i～ii	1997.1 大阪市立大学工学部	工-85
「工学部における震災対応の記録」	工学部	『工学部紀要・震災特別号』 p.1～35	1997.1 大阪市立大学工学部	工-86
「教職員・学生の活動記録」	工学部	『工学部紀要・震災特別号』 p.37～39	1997.1 大阪市立大学工学部	工-87
「集中と分散-市町村LANの相互結合による大阪府大都市圏分散型ネットワークの構築-」	志水英二 工学部教授(電気工学科)	『工学部紀要・震災特別号』 p.41～43	1997.1 大阪市立大学工学部	工-88
「平成7年兵庫県南部地震建物被災緊急調査報告(大阪市主要被災地)」	成瀬哲生 工学部教授(建築学科)	『工学部紀要・震災特別号』 p.45～52	1997.1 大阪市立大学工学部	成瀬は工学部建築科 阪神大震災調査委員会・委員長 工-89
「建築物の被害について-鉄筋コンクリート系構造物の被害」	坂 壽二 工学部教授(建築学科) 谷口与史也 工学部助手(建築学科)	『工学部紀要・震災特別号』 p.53～56	1997.1 大阪市立大学工学部	工-90
「建築物の被害について-シェル・空間構造の被害」	坂 壽二 工学部教授(建築学科) 谷口与史也 工学部助手(建築学科)	『工学部紀要・震災特別号』 p.57～66	1997.1 大阪市立大学工学部	工-91
「直下型地震による建造物の衝撃的破壊の特徴について」	那谷晴一郎 工学部助手(建築学科)	『工学部紀要・震災特別号』 p.67～81	1997.1 大阪市立大学工学部	工-92
「震災を踏まえた建築関係者の都市・地域・建築計画への考え方-日本建築学会近畿支部所属会員アンケート調査報告」	杉山茂一 工学部助教授(建築学科) 他	『工学部紀要・震災特別号』 p.83～91	1997.1 大阪市立大学	小野英道と共著 工-93
「阪神地域の都市復興デザインにおける基礎的研究」	酒井沢栄 工学部大学院生(建築学科) 土井幸平 工学部教授(建築学科)	『工学部紀要・震災特別号』 p.93～96	1997.1 大阪市立大学工学部	工-94
「阪神大震災におけるヘリコプタの離着陸施設の利用と今後の課題」	伊藤靖彦 工学部4回生(土木工学科) 西村 昂 工学部教授(土木工学科)	『工学部紀要・震災特別号』 p.93～96	1997.1 大阪市立大学工学部	工-95
「阪神大震災による交通事故および自動車利用動向の実態とその課題」	日野康雄 工学部講師(土木工学科) 増田勝茂 工学部4回生(土木工学科)	『工学部紀要・震災特別号』 p.105～114	1997.1 大阪市立大学工学部	工-96
「ライフラインの被害について」	東田 淳 工学部助教授(土木工学科)	『工学部紀要・震災特別号』 p.115～130	1997.1 大阪市立大学工学部	工-97
「ハイブリッド実験システムを用いた鋼製・合成柱の耐荷性および耐震性に関する研究」	中井 博 工学部教授(土木工学科) 北田俊行 工学部助教授(土木工学科) 中西克佳 工学部助手(土木工学科)	『工学部紀要・震災特別号』 p.131～148	1997.1 大阪市立大学工学部	工-98

資料リスト

①資料名 (文書名・論文名・書名等)	②資料作者・執筆者及び その所属(学内・部局等 学外・卒業年)	③資料の掲載誌紙等 (巻号、頁等)	④発行年月日 ⑤発行所	⑥備考
「コンクリート構造物の被災の実態と特徴」	真島光保 工学部助教授(土木工学科)	『工学部紀要・震災特別号』 p.149～156	1997.1 大阪市立大学工学部	工-99
「衝撃的上下動による構造物被災」	高田直俊 工学部教授(土木工学科)	『工学部紀要・震災特別号』 p.157～162	1997.1 大阪市立大学工学部	工-100
「兵庫県南部地震における土木構造物の衝撃的破壊の事例」	園田恵一郎 工学部教授(土木工学科) 小林治俊 工学部助教授(土木工学科)	『工学部紀要・震災特別号』 p.163～167	1997.1 大阪市立大学工学部	工-101
「兵庫県南部地震における土木構造物の衝撃的破壊について—地盤と構造物の相互作用の応力波伝播解析による検討」	園田恵一郎 工学部教授(土木工学科) 小林治俊 工学部助教授(土木工学科) 福井敦史 工学部大学院生(土木工学科)	『工学部紀要・震災特別号』 p.169～180	1997.1 大阪市立大学工学部	工-102
「地下鉄駅舎RC柱の衝撃的破壊についての一考察」	園田恵一郎 工学部教授(土木工学科) 小林治俊 工学部助教授(土木工学科) 福井敦史 工学部大学院生(土木工学科)	『工学部紀要・震災特別号』 p.169～180	1997.1 大阪市立大学工学部	工-103
「兵庫県南部地震—初期上下動の証言について」	園田恵一郎 工学部教授(土木工学科) 小林治俊 工学部助教授(土木工学科) 永野 圭 工学部4回生(土木工学科)	『工学部紀要・震災特別号』 p.187～270	1997.1 大阪市立大学工学部	工-104
「関連発表論文リスト」	工学部	『工学部紀要・震災特別号』 p.271～278	1997.1 大阪市立大学工学部	工-105

医学部

「阪神・淡路大震災における活動記録」	医学部事務室			医学部作成の資料集 p.1～19 医-1
「阪神大震災後の被災地医療の状況」	吉川純一 医学部教授(第1内科)	『毎日新聞』に掲載	1995.2. 毎日新聞社	医学部作成の資料集 p.20～25 医-2
「災害時における病院の食事を考える—周辺病院の立場から—」	森井浩世 医学部附属病院長 藤原政嘉 医学部附属病院栄養部	“New Diet Therapy”第12巻 第1号	1996.6.10 日本臨床栄養協会	医学部作成の資料集 p.26～27 医-3
「周産期医療施設の防災救護対策マニュアル—大阪市立大学医学部附属病院小児科は」	一色 玄 医学部教授(小児科)	『周産期医学』第26巻第2号	1996.2 東京医学社	医学部作成の資料集 p.28～31 医-4
「災害時における慢性疾患患児への対応」	一色 玄 医学部教授(小児科)	『小児科の進歩』16	1996.4.20 榊診断と治療社	医学部作成の資料集 p.32～35 医-5
「阪神・淡路大震災—災害医療における整形外科医の役割—Crush syndromeとCompartment syndrome」	山野慶樹 医学部教授(整形外科)	『臨床整形外科』第30巻第11号	1995.11.25 医学書院	医学部作成の資料集 p.36～44 医-6
「災害救急医療からみた行動と課題」	山上征二 医学部助教授(泌尿器科)	『臨床透析』第11巻第9号	1995 日本メディカルセンター	医学部作成の資料集 p.45～50 医-7
「大阪市大病院における救急医療」	行岡秀和 医学部助教授(附属病院救急部)			医学部作成の資料集 p.51～52 医-8

資料リスト

①資料名 (文書名・論文名・書名等)	②資料作成者・執筆者及び その所属(学内・部局等 学外・卒業年)	③資料の掲載誌紙等 (巻号、頁等)	④発行年月日 ⑤発行所	⑥備考
「阪神大震災は何をもたらしたかー透析患者の移送から見た七日間」	山上征二 医学部助教授(泌尿器科)	『月刊ばんぼう』4月号	1995.4 日本医療企画	医学部作成の資料集 p.53~58 医-9
「阪神・淡路大震災ー心のケアについて考える」	古塚大介 医学部講師(神経精神科) 山上 榮 医学部教授(神経精神科)			医学部作成の資料集 p.59~61 医-10
「阪神大震災における小児糖尿病患者の対応と今後の課題」	稲田 浩 医学部助手(小児科) 他10名	『小児保健研究』第55巻第4号	1996.7	医学部作成の資料集 p.62~66 医-11
「阪神・淡路大震災における救護活動参加者の心情変化」	小池達也 医学部助手(整形外科)	「日本国際保健医療学会ー地方会のシンポジウムで発表」	1995.春	医学部作成の資料集 p.67~71 医-12
「阪神・淡路大震災に思う」	森井浩世 医学部附属病院院長			医学部作成の資料集 p.72 医-13
「神戸市被災地の大阪市立大学医療団の活動状況についての視察」	森井浩世 医学部附属病院院長			医学部作成の資料集 p.73 医-14
「医学部構成員の被害状況の概要等」	医学部事務室			医学部作成の資料集 p.74~76 医-15
「阪神・淡路大震災における活動記録関係資料」	医学部事務室			医学部作成の資料集 p.77~115 医-16
「阪神・淡路大震災1ヶ月後における学生及び職員の精神面への影響について」	溝渕春代 神戸商船大学保健管理センター 井上幸紀 医学部助手(神経精神科) 他5名	「第33回全国大学保健管理研究会報告書」 p.424~429	1996.4	1995.10.4~5 秋田市文化会館で開催 医-17
「神戸市東灘保健所における大阪市精神科救護班の精神保健活動」	古塚大介 医学部講師(神経精神科)	『生活衛生』第39巻第2号 p.91	1995.3.30 (社)大阪生活衛生協会	医-18
「患者救出の7日間」	山上征二 医学部助教授(泌尿器科)	『市大広報』第26号 p.2	1995.4 大阪市立大学事務局	医-19
「地震による被害と対策ー患者移送と受け入れの問題点」	山上征二 医学部助教授(泌尿器科)	『腎と透析』第39巻第4号 p.511~515	1995.10	医-20
「災害時透析医療ーシステム総論」	山上征二 医学部助教授(泌尿器科)	『透析会誌』第28巻第7号 p.1041~1046	1995. 日本透析医学会	医-21
「大阪市立大学集中治療部での受け入れの状況」	行岡秀和 医学部助教授(附属病院救急部)	『ICUとCCU』第19巻第6号 p.499~504	1995.6	医-22
「阪神大震災と心疾患の救急」	吉川純一 医学部教授(第1内科)	“Journal of Cardiology” 第25巻第4号 p.213~216	1995.3.9 日本心臓病学会	医-23
「震災時の救急医療への提言」	吉川純一 医学部教授(第1内科)	“Journal of Cardiology” 第25巻第6号 p.337~339	1995.5.6 日本心臓病学会	医-24
「後方支援医療のあり方」	藤森 貢 医学部名誉教授	『大震災における救急災害医療、阪神・淡路大震災から何を学ぶかー日本学術会議シンポジウムからー』 p.110~117	へるす出版	医-26
「後方支援病院としての対応」	藤森 貢 医学部教授(麻酔・集中治療医学)	『外科治療・特集・阪神大震災に学ぶ災害時救急医療』Vol.73 No.5 (抜刷) p.569~573	1995.11 永井書店	医-27
「クラッシュ症候群」	新藤光郎 医学部助手(附属病院救急部) 藤森 貢 医学部教授(麻酔・集中治療医学)	『臨床麻酔』Vol.19 No.7 (別刷) p.961~967	1995.7 真興交易医書出版部	医-28

資料リスト

①資料名 (文書名・論文名・書名等)	②資料作成者・執筆者及び その所属(学内・部局等 学外・卒業年)	③資料の掲載誌紙等 (巻号、頁等)	④発行年月日 ⑤発行所	⑥備考
「救急・災害医療に対する病院設備」	藤森 貢 医学部教授(麻酔・集中治療医学)	『医学のあゆみ』Vol.176 No.7 (抜刷) p.427~429	1996.2.17	医-29
「阪神大震災によるクラッシュ症候群症例の長期機能予後の検討」	小田 裕 医学部助手(麻酔・集中治療医学) 栗田 聡 医学部助手(麻酔・集中治療医学) 新藤光郎 医学部助手(附属病院救急部) 西 信一 医学部講師(附属病院集中治療部) 行岡秀和 医学部助教授(附属病院救急部) 藤森 貢 医学部教授(麻酔・集中治療医学) 浅田 章 医学部助教授(麻酔・集中治療医学)	『日本集中治療医学会雑誌』第4巻 第1号(抜刷) p.49~52	1997.1	医-30
「阪神・淡路大震災における他都市支援活動の概況」	医学部事務室	計2頁		医-31
「被災死者への対応(検案)ー法医学教室からの参加」	前田 均 医学部教授(法医学)	『日本法医学会ニュース』No.3、 No.6 計7頁		医-32

生活科学部

「阪神大震災特別研究ー住宅内部被害調査第2報・中間報告」	北浦かほる(代表) 生活科学部教授(生活環境学科) 他	資料名と同じ p.1~75	1995.7. 阪神大震災住宅内部被害調査研究会	生-1
「阪神淡路大震災インテリア被害に関する関西インテリアプランナー協会会員のアンケート調査報告書」	北浦かほる 生活科学部教授(生活環境学科) 他(備考欄参照)	資料名と同じ p.1~72	1996.1.17 関西インテリアプランナー協会	大江孝、伏尾真三広、 松山恭子、谷本伊佐子、加藤精一 生-2
「阪神淡路大震災インテリア被害における集合住宅の住棟形態と居住階数による影響」	北浦かほる 生活科学部教授(生活環境学科) 山崎かおる 生活科学部大学院生	『日本建築学会近畿支部研究報告集』 p.341~344	1996.7 日本建築学会	生-3
「阪神淡路大震災住宅内部被害に関する研究(その1)各部屋の被害の分析」	北浦かほる 生活科学部教授(生活環境学科) 他(備考欄参照)	『日本建築学会近畿支部研究報告集』 p.345~348	1996.7 日本建築学会	静木美絵、延与祐三子、岡田奈美枝、谷みや子 生-4
「阪神淡路大震災住宅内部被害に関する研究(その2)家電機器と家具の被害の分析」	北浦かほる 生活科学部教授(生活環境学科) 他(備考欄参照)	『日本建築学会近畿支部研究報告集』 p.349~352	1996.7 日本建築学会	静木美絵、延与祐三子、岡田奈美枝、谷みや子 生-5
「阪神淡路大震災住宅内部被害に関する研究(その3)怪我及び避難時障害要因の分析」	北浦かほる 生活科学部教授(生活環境学科) 他(備考欄参照)	『日本建築学会近畿支部研究報告集』 p.353~356	1996.7 日本建築学会	静木美絵、延与祐三子、岡田奈美枝、谷みや子 生-6
「阪神淡路大震災住宅内部被害の総合的分析(その1)家具のプロポーション」	北浦かほる 生活科学部教授(生活環境学科) 他(備考欄参照)	『日本建築学会近畿支部研究報告集』 p.357~360	1996.7 日本建築学会	谷みや子、岡田奈美枝、静木美枝、延与祐三子 生-7
「阪神淡路大震災住宅内部被害の総合的分析(その2)住宅内部被害平面図」	北浦かほる 生活科学部教授(生活環境学科) 他(備考欄参照)	『日本建築学会近畿支部研究報告集』 p.361~364	1996.7 日本建築学会	谷みや子、岡田奈美枝、静木美枝、延与祐三子 生-8
「阪神淡路大震災住宅内部被害に関する研究(その1)各部屋の被害の分析」	北浦かほる 生活科学部教授(生活環境学科) 他(備考欄参照)	『日本建築学会大会学術講演梗概集』 p.107~108	1996.9 日本建築学会	静木美絵、延与祐三子、岡田奈美枝、谷みや子 生-9

資料リスト

①資料名 (文書名・論文名・書名等)	②資料作成者・執筆者及び その所属(学内・部局等 学外・卒業年)	③資料の掲載誌等 (巻号、頁等)	④発行年月日 ⑤発行所	⑥備考
「阪神淡路大震災住宅内部被害に関する研究(その2)家電機器と家具の被害の分析」	北浦かほる 生活科学部教授(生活環境学科) 他(備考欄参照)	『日本建築学会大会学術講演梗概集』 p.109～110	1996.9 日本建築学会	静木美絵、延与祐三子、岡田奈美枝、谷みや子 生-10
「阪神淡路大震災インテリア被害における集合住宅の住棟形態と居住階数による影響」	北浦かほる 生活科学部教授(生活環境学科) 山崎かおる 生活科学部大学院生	『日本建築学会大会学術講演梗概集』 p.105～106	1996.9 日本建築学会	生-11
「阪神淡路大震災住宅内部被害に関する研究(その3)怪我及び避難時障害要因の分析」	北浦かほる 生活科学部教授(生活環境学科) 他(備考欄参照)	『日本建築学会大会学術講演梗概集』 p.111～112	1996.9 日本建築学会	静木美絵、延与祐三子、岡田奈美枝、谷みや子 生-12
「阪神淡路大震災住宅内部被害の総合的分析(その1)家具のプロポーション」	北浦かほる 生活科学部教授(生活環境学科) 他(備考欄参照)	『日本建築学会大会学術講演梗概集』 p.113～114	1996.9 日本建築学会	谷みや子、岡田奈美枝、静木美枝、延与祐三子 生-13
「阪神淡路大震災住宅内部被害の総合的分析(その2)住宅内部被害平面図」	北浦かほる 生活科学部教授(生活環境学科) 他(備考欄参照)	『日本建築学会大会学術講演梗概集』 p.115～116	1996.9 日本建築学会	谷みや子、岡田奈美枝、静木美枝、延与祐三子 生-14
『阪神淡路大震災住宅内部被害調査報告書』	北浦かほる 生活科学部教授(生活環境学科)	資料名と同じ p.1～273	1996.9 日本建築学会建築計画委員会、兵庫県南部地震調査研究部会、建築内部空間における被害WG	生-15
『震災時の避難行動と住み方の変化等に関するアンケート調査報告書(一次集計)』	北浦研究室 生活科学部生活環境学科	資料名と同じ p.1～64	1996.4 生活科学部北浦研究室	協力・住宅都市整備公団関西支社 生-16
『震災時の避難行動と住み方の変化等に関するアンケート調査自由回答集』	北浦かほる 生活科学部教授(生活環境学科)	資料名と同じ p.1～81	1996.4 生活科学部北浦研究室	生-17
「阪神・淡路大震災によるインテリアの安全性への対応」	北浦かほる 生活科学部教授(生活環境学科)	『日本インテリア学会大会学術講演梗概集』 計2頁	1996.10.27 日本インテリア学会	生-18
『阪神・淡路大震災一長田区要援護者実態調査結果報告書(中間報告)』	白澤政和 生活科学部教授(人間福祉学科) 他	資料名と同じ p.1～45	1996.5.20 ながた支援ネットワーク	生-19
『阪神・淡路大震災一被災要介護高齢者調査結果報告書』	白澤政和 生活科学部教授(人間福祉学科) 他	資料名と同じ p.1～64	1996.1.17 高齢者ケアセンターながた	生-20
『阪神・淡路大震災一被災要介護高齢者事例調査結果報告書』	白澤政和 生活科学部教授(人間福祉学科) 他	資料名と同じ p.1～94	1996.5. 高齢者ケアセンターながた	生-21
文部省緊急プロジェクト『兵庫県南部地震をふまえた大都市災害に対する総合防災対策の研究報告書』	秋山智久 生活科学部教授(人間福祉学科) 他	資料名と同じ p.1～37	1995.3 京都大学防災研究所	生-22
「震災ボランティアを検証する」	秋山智久 生活科学部教授(人間福祉学科)	『新たなる出発ー神戸』 p.112～114	1996.1.25 読売新聞社	生-23
「阪神大震災とボランティア」	秋山智久 生活科学部教授(人間福祉学科)	『社会福祉研究』第65号 p.67～74	1996.4.1 財団法人弘済会社会福祉部	生-24
『阪神大震災救援報告』	秋山智久 生活科学部教授(人間福祉学科)	『社会福祉士ー阪神大震災救援報告』 p.1～139	1996.5.10 日本社会福祉士会	生-25
「阪神大震災…その時福祉教育は」	秋山智久 生活科学部教授(人間福祉学科) 他(備考欄参照)	『社会福祉教育年報』第16集1995年度版 p.41～49	1996.7.12 日本社会事業学校連盟	寺岡聡美、若林美也子 生-26
「震災ボランティアの実態と問題点」	秋山智久 生活科学部教授(人間福祉学科) 他	『日本社会福祉学会第43回大会資料』 p.606～607	1995.10 日本社会福祉学会	生-27

資料リスト

①資料名 (文書名・論文名・書名等)	②資料作成者・執筆者及び その所属(学内・部局等 学外・卒業年)	③資料の掲載誌紙等 (巻号、頁等)	④発行年月日 ⑤発行所	⑥備考
「阪神淡路大震災と学生ボランティア活動」	山縣文治 生活科学部助教授(人間福祉学 科) 外(備考欄参照)	「日本社会福祉学会第44回大会資 料」 p.1~2	1996.10 日本社会福祉学会	岩間伸之、吉原雅昭 生-28
「福祉系学生はどう動いたかー阪 神大震災活動報告」	秋山智久 生活科学部教授(人間福祉学 科) 他(備考欄参照)	資料名と同じ p.1~221	1996.9.29 日本社会事業学校連 盟	山縣文治、岩間伸之 生-29
「避難所における食生活の実態」	平井和子 生活科学部助教授(食品栄養科 学) 奥田豊子 生活科学部助教授(食品栄養科 学)	“JJPEN” Vol.18 No.2 p.127~135	1996 メディカル・コア	 生-30
「阪神・淡路大震災被災者におけ る味覚障害の訴えについて」	河合志穂 生活科学部助教授(食品栄養科 学) 奥田豊子 生活科学部助教授(食品栄養科 学)	大阪市立大学『生活科学部紀要』 第43巻 p.1~7	1995 大阪市立大学生活科 学部	 生-31
「阪神・淡路大震災調査、救援活動 報告ー食品栄養科学科における活 動ー」	山口英昌 生活科学部教授(食品栄養科 学) 他(備考欄参照)	大阪市立大学『生活科学部紀要』 第43巻 p.9~11	1995 大阪市立大学生活科 学部	平井和子、奥田豊子、 増田俊哉、續田康治、 小西洋太郎、大谷貴 美子、 生-32
「阪神・淡路大震災避難所におけ る被災者の食生活に関する実態調 査」	平井和子 生活科学部助教授(食品栄養科 学) 他(備考欄参照)	大阪市立大学『生活科学部紀要』 第43巻 p.13~18	1995 大阪市立大学生活科 学部	奥田豊子、増田俊哉、 山口英昌、續田康治 生-33
「阪神・淡路大震災避難所におけ る被災者の健康に関する実態調 査」	奥田豊子 生活科学部助教授(食品栄養科 学) 他(備考欄参照)	大阪市立大学『生活科学部紀要』 第43巻 p.19~23	1995 大阪市立大学生活科 学部	平井和子、増田俊哉、 山口英昌、續田康治 生-34
DIET AND HEALTH AMONG VICTIMS OF THE GREAT HANSIN - AWAJI EARTH- QUAKE LIVING IN EVACUA- TION CENTERS.INTAKE OF GREEN VEGETABLES AND OF FISH AS RELATED TO PHYSICAL AND PSYCHO- LOGICAL COMPLAINTS	奥田豊子 生活科学部助教授(食品栄養科 学) 平井和子 生活科学部助教授(食品栄養科 学)	“Third International Congress on physiological Anthropology” p.2		 生-35
「震災・福祉・人権」	山縣文治 生活科学部助教授(人間福祉学 科)	『人権問題 NEWS』 No.21 p.1~2	1995.12 大阪市立大学	 生-36
「震災と人権」	倉戸ヨシヤ 生活科学部教授(人間福祉学 科)	『人権問題 NEWS』 No.21 p.3~8	1995.12 大阪市立大学	 生-37
「ボランティアが直面した心の問 題」	倉戸ヨシヤ 生活科学部教授(人間福祉学 科)	岡堂哲雄編『現代のエスプリ』別 冊「被災者の心のケア」 p.173~182	1996	 生-38
「毎日の挨拶が心の不安を減らし てくれる」	倉戸ヨシヤ 生活科学部教授(人間福祉学 科)	河合隼雄編『心を蘇らせる』 p.245~256	1995	 生-39
「まえがき」 「危機体験と教育」 「今後の課題(座談会)」	堀 智晴 生活科学部助教授(人間福祉学 科) 他	『阪神大震災を教育に生かす』 p.3~4、183~208、210~221	1996.1.17 黎明書房	 生-40
「阪神・淡路大震災による分譲マ ンションの復旧過程と管理組合の 対応」	梶浦恒男 生活科学部教授(生活環境学 科)	資料名と同じ p.1~115	1996.3 阪神大震災マンショ ン復興問題特別委員 会	 生-41
「1995年兵庫県南部地震による人 的被害-その2-神戸市灘区におけ る聞き取り調査」	宮野道雄 生活科学部助教授(生活環境学 科) 他	『日本建築学会近畿支部研究報告 集』 p.325~328	1996 日本建築学会	 生-42

資料リスト

①資料名 (文書名・論文名・書名等)	②資料作成者・執筆者及び その所属(学内・部局等学外・卒業年)	③資料の掲載誌等 (巻号、頁等)	④発行年月日 ⑤発行所	⑥備考
「1995年兵庫県南部地震による人的被害—その5 神戸市東灘区における人命救助活動に関する聞き取り調査」	宮野道雄 生活科学部助教授(生活環境学科) 他	『日本建築学会大会学術講演梗概集』 p.9~10	1996.9 日本建築学会	生-43
「避難所の生活と運営」	宮野道雄 生活科学部助教授(生活環境学科)	『自然災害科学』特集号 p.24~30	1995	生-44
「兵庫県南部地震による木造家屋被害に対する蟻害・腐朽の影響」	宮野道雄 生活科学部助教授(生活環境学科) 土井 正 生活科学部講師(生活環境学科)	『家屋害虫』Vol.17 No.11(別刷) p.70~78	1995.7	生-45
「木造家屋被害に対する構造部材の蟻害・腐朽による劣化の影響」	宮野道雄 生活科学部助教授(生活環境学科) 他	『日本建築学会近畿支部報告会』(別刷) p.125~143	1995.9.9開催 木構造住宅研究所	生-46
「阪神・淡路大震災から学ぶこと—避難所の運営・医療」	宮野道雄 生活科学部助教授(生活環境学科) 他	『大規模災害と医療—第1回災害医療セミナー報告書—』 p.36~42	1996.9.20 (株)セントメド	生-47
『震災とボランティア—阪神・淡路大震災ボランティア調査報告書』	秋山智久 生活科学部教授(人間福祉学科) 他(備考欄参照)	資料名と同じ p.1~115	1995.12.2 大阪府社会福祉協議会	岩間伸之、岡田直人、 岡田忠克、寺岡聡美 生-48
『阪神・淡路大震災による住宅被災の実態並びに住宅復興問題調査報告』	住田昌二 生活科学部教授(人間福祉学科) 他(備考欄参照)	資料名と同じ p.1~207	1996.2 財団法人住宅総合研究財団	松谷美恵子、梶浦恒男 生-49
「震災後の『心のケア』とは」	倉戸ヨシヤ 生活科学部教授(人間福祉学科) 他(備考欄参照)	『世界』 p.65~75	1995.5 岩波書店	野田正彰、金香百合、 卜部文磨 生-50
「阪神大震災の現場より—1.17大震災」	倉戸ヨシヤ 生活科学部教授(人間福祉学科)	『人間性心理研究』第13巻第1号 p.13~14	1995	生-51
The effect of the disaster caused by the great Hanshin earthquake on people with intellectual disability	小澤 温 生活科学部助教授(人間福祉学科) 他(備考欄参照)	“Journal of Intellectual Disability Research” Vol.41(2) p.193~196	1997.4	高橋彰彦、渡辺勲持、 大島正彦、島田博祐 生-52
「震災後ストレスと心のケア」	倉戸ヨシヤ 生活科学部教授(人間福祉学科)	『こころの健康』第11巻第1号 (別刷) p.27~31	1996.6. 日本精神衛生学会	生-53
「現地活動支援事務局の活動—臨床心理士の緊急活動(現場からの報告)」	倉戸ヨシヤ 生活科学部教授(人間福祉学科)	『日本臨床心理士会会報』 p.34	1996	生-54
「兵庫県南部地震が青年に与えた心理的影響 (協力)」	永村一雄 生活科学部講師(生活環境学科)	『日本建築学会大会梗概集(環境工学)』	1996.9 日本建築学会	カードのみ 生-55
「被災地の青年の居住環境と行動並びに心の状態」	永村一雄 生活科学部講師(生活環境学科)	『日本建築学会大会環境工学部門協議会資料』	1996.9 日本建築学会	カードのみ 生-56
「栄養士からみた阪神・淡路大震災—アンケート調査からの一考察—」	大谷貴美子 生活科学部講師(食品栄養科学科) 小西洋太郎 生活科学部講師(食品栄養科学科) 他(備考欄参照)	『大阪市立大学生生活科学部紀要』第43巻(別刷) p.25~31	1996.3.31 大阪市立大学生生活科学部	枇杷木ひとみ、春木敏 生-57
「栄養士からみた阪神・淡路大震災」	大谷貴美子 生活科学部講師(食品栄養科学科) 小西洋太郎 生活科学部助教授(食品栄養科学科) 他(備考欄参照)	『第42回日本栄養改善学会講演集』 p.231	1995.10.26~27 日本栄養改善学会	枇杷木ひとみ、春木敏 生-58

資料リスト

①資料名 (文書名・論文名・書名等)	②資料作成者・執筆者及び その所属(学内・部局等 学外・卒業年)	③資料の掲載誌紙等 (巻号、頁等)	④発行年月日 ⑤発行所	⑥備考
「阪神・淡路大震災と食環境」	大谷貴美子 生活科学部助教授(食品栄養科学科) 小西洋太郎 生活科学部助教授(食品栄養科学科) 他(備考欄参照)	『日本栄養・食糧学会第34回近畿支部大会講演要旨集』 p.24	1995.10.22 日本栄養・食糧学会 近畿支部	枇杷木ひとみ、春木敏 生-59
「阪神・淡路大震災に関わる連盟加盟校学校調査報告書」	秋山智久 生活科学部教授(人間福祉学科) 山縣文治 生活科学部助教授(人間福祉学科) 岩間伸之 生活科学部助手(人間福祉学科)	『社会福祉教育年報』第16集 p.50～58	1996.3 日本社会事業学校連盟	生-60
「兵庫県南部地震に関する日本建築学会近畿支部所属会員アンケート調査(第1次集計結果)」	北浦かほる 生活科学部教授(生活環境学科) 他(備考欄参照)	『兵庫県南部地震に関する日本建築学会近畿支部所属会員アンケート調査』 計56頁	1995.7.17 日本建築学会近畿支部	多胡進、杉山茂一 生-61
「阪神・淡路大震災と建築計画研究」(1995年建築学会研究協議会資料)	北浦かほる 生活科学部教授(生活環境学科) 他	『1995年度日本建築学会大会建築計画部門研究協議会資料』	1995.8 日本建築学会建築計画委員会	カードのみ 生-62
「兵庫県南部地震に関する日本建築学会近畿支部所属会員アンケート調査」(第2次集計結果)	北浦かほる 生活科学部教授(生活環境学科) 他(備考欄参照)	『兵庫県南部地震に関する日本建築学会近畿支部所属会員アンケート調査』 計133頁	1996.8.17 日本建築学会近畿支部	多胡進、杉山茂一 生-63
「建築計画における耐震化」(1996年建築学会研究協議会資料)	北浦かほる 生活科学部教授(生活環境学科) 杉山茂一 工学部助教授(建築学科)	『1996年度日本建築学会大会建築計画部門研究協議会資料』 p.17～29,88～91	1996.9.15 日本建築学会	生-64
「分譲マンションの被害と復興の課題」	梶浦恒男 生活科学部教授(生活環境学科)	『大震災における住宅被害の構造と復興の課題』 p.19～33	1995.8 日本建築学会	生-65
「住宅災害と高齢者の生活問題」	白澤政和 生活科学部教授(人間福祉学科)	『大震災における住宅被害の構造と復興の課題』 p.31～34	1995.8 日本建築学会	生-66
「阪神・淡路大震災による分譲マンションの被害実態と復旧上の問題」	梶浦恒男 生活科学部教授(生活環境学科) 他	『日本建築学会技術報告集』第1号1(抜刷) p.281～284	1995.12.20 日本建築学会	生-67
「マンション建替え」	梶浦恒男 生活科学部教授(生活環境学科)	『建築雑誌』Vol.111 No.1382 p.58	1996.1.20 日本建築学会	生-68
「マンション復興の現状と課題」	梶浦恒男 生活科学部教授(生活環境学科)	『大震災一年・住宅復興の課題』 p.21～32	1996.3 日本建築学会	生-69
「阪神・淡路大震災による分譲マンションの被害実態と復旧の課題」	梶浦恒男 生活科学部教授(生活環境学科) 他	『マンション学』第4号 p.13～24	1996.4.20 日本マンション学会	生-70
「阪神大震災による分譲マンションの被害実態及び復旧課題の研究(その1):被害の全般的状況」	梶浦恒男 生活科学部教授(生活環境学科) 他	『日本マンション学会第5回大会(京都)研究報告集』 p.159～160	1996.4.20 日本マンション学会	生-71
「阪神大震災による分譲マンションの被害実態及び復興過程の研究(その2):復興過程の諸問題」	梶浦恒男 生活科学部教授(生活環境学科) 他	『日本マンション学会第5回大会(京都)研究報告集』 p.161～162	1996.4.20 日本マンション学会	生-72
「マンションの復興過程の諸問題-阪神・淡路大震災による分譲マンション被害実態と復興過程の研究」	梶浦恒男 生活科学部教授(生活環境学科) 他	『日本建築学会近畿支部研究報告集』第36号 p.1117～1120	1996.7.3 日本建築学会近畿支部	生-73
「阪神大震災による被災マンション居住者の復興住宅ニーズについて」	梶浦恒男 生活科学部教授(生活環境学科) 他	『日本建築学会近畿支部研究報告集』第36号 p.1121～1124	1996.7.3 日本建築学会近畿支部	生-74
「阪神大震災による分譲マンションの被災実態と復興過程に関する研究」	梶浦恒男 生活科学部教授(生活環境学科)	『日本建築学会近畿支部研究報告集』第36号 p.1113～1116	1996.7.3 日本建築学会近畿支部	生-75

資料リスト

①資料名 (文書名・論文名・書名等)	②資料作成者・執筆者及び その所属(学内・部局等 学外・卒業年)	③資料の掲載誌紙等 (巻号、頁等)	④発行年月日 ⑤発行所	⑥備考
「被災マンションの復旧状況と復旧方針の決定—阪神・淡路大震災による分譲マンションの被害実態と復興過程の研究 その1」	梶浦恒男 生活科学部教授(生活環境学科) 他	『1996年度大会(近畿)日本建築学会学術講演梗概集』 p.1245~1246	1996.7.30 日本建築学会	生-76
「阪神大震災による被災マンション居住者の復興住宅ニーズに関する研究 NO.2—住み替え意向と再建のための課題について—」	梶浦恒男 生活科学部教授(生活環境学科) 他	『1996年度大会(近畿)日本建築学会学術講演梗概集』	1996.7.30 日本建築学会	カードのみ 生-77
「阪神大震災による被災マンション居住者の復興住宅ニーズに関する研究 NO.1—避難場所の移動状況と自宅への復帰傾向について—」	梶浦恒男 生活科学部教授(生活環境学科) 他	『日本建築学会学術講演梗概集』 p.1181~1184	1996.7.30 日本建築学会	生-78
「分譲マンションにおける復興過程の諸問題—阪神・淡路大震災による分譲マンションの被害実態と復興過程の研究その2」	梶浦恒男 生活科学部教授(生活環境学科) 他	『日本建築学会学術講演梗概集』 p.1247~1248	1996.7.30 日本建築学会	生-79
「阪神大震災・被災マンションの建替えをめぐる諸問題」	梶浦恒男 生活科学部教授(生活環境学科)	『都市住宅学』第12号 p.18~22	1995.12.31 日本不動産学会・都市住宅学会・日本計画行政学会	生-80
「阪神・淡路大震災による分譲マンションの被害実態と復興過程」	梶浦恒男 生活科学部教授(生活環境学科)	「阪神・淡路大震災による分譲マンションの被害実態と復興過程」 計129頁	1996.3 阪神大震災マンション復興問題特別委員会	生-81
「阪神大震災による分譲マンションの被害状況」	梶浦恒男 生活科学部教授(生活環境学科) 他	『日本建築学会近畿支部研究報告集』第35号 p.965~968	1995.6. 日本建築学会近畿支部	生-82
「阪神大震災による分譲マンションの被害状況と復興過程における問題」	梶浦恒男 生活科学部教授(生活環境学科) 他	『日本建築学会大会学術講演梗概集』 p.1115~1116	1995.8. 日本建築学会	生-83
「阪神大震災による分譲マンションの被害状況」	梶浦恒男 生活科学部教授(生活環境学科) 他	『日本建築学会大会学術講演梗概集』 p.1117~1118	1995.8. 日本建築学会	生-84
「阪神・淡路大震災に学ぶ—私の意見—大震災とマンションの管理組合」	梶浦恒男 生活科学部教授(生活環境学科) 他	『住宅金融月報』1995 No.519 p.20~23	1995.4.1 住宅金融公庫	生-85
「マンション復興と容積率緩和の問題」	梶浦恒男 生活科学部教授(生活環境学科)	『建築とまちづくり』219号 p.24~26	1995.6.1 新建築家技術者集団	生-86
「阪神大震災による分譲マンションの被害実態と復興過程の研究(その1)震災2年後の復興状況」	梶浦恒男 生活科学部教授(生活環境学科) 他	『日本建築学会近畿支部研究報告集』 p.613~616	1997 日本建築学会	生-87
「阪神大震災による分譲マンションの被害実態と復興過程の研究(その2)マンション復興過程の諸問題」	梶浦恒男 生活科学部教授(生活環境学科) 他	『日本建築学会近畿支部研究報告集』 p.617~620	1997 日本建築学会	生-88
「阪神大震災による分譲マンションの被害実態と復興過程の研究(その3)再建過程の問題点と再建マンションの計画」	梶浦恒男 生活科学部教授(生活環境学科) 他	『日本建築学会近畿支部研究報告集』 p.621~624	1997 日本建築学会	生-89
「阪神大震災による分譲マンションの被害実態と復興過程の研究(その4)地域別被害状況と管理組合の対応補修を中心にして」	梶浦恒男 生活科学部教授(生活環境学科) 他	『日本建築学会近畿支部研究報告集』 p.625~628	1997 日本建築学会	生-90

資料リスト

①資料名 (文書名・論文名・書名等)	②資料作成者・執筆者及び その所属(学内・部局等 学外・卒業生)	③資料の掲載誌紙等 (巻号、頁等)	④発行年月日 ⑤発行所	⑥備考
「マンションの被災と復興」	梶浦恒男 生活科学部教授(生活環境学科)	『阪神・淡路大震災住宅復興に関する調査研究報告書』 p.43～58	1997.1 都市住宅学会阪神・淡路大震災住宅復興問題研究部会	生-91
「被害と復興の現況—合意形成抜きに進まぬ復興—震災1年半で明らか分かれる」	梶浦恒男 生活科学部教授(生活環境学科)	『甦る11棟のマンション—阪神大震災・再生への苦闘の記録』 p.12～19	1997.1.17 日経BP社	生-92
「分譲マンションの復興の現状と課題」	梶浦恒男 生活科学部教授(生活環境学科)	『大震災1年半・住宅復興の課題』 p.25～36	1996.9 日本建築学会	生-93
「阪神大震災と住宅復興政策」	住田昌二 生活科学部名誉教授	『大震災1年半・住宅復興の課題』 p.87～103	1996.9 日本建築学会	生-94
「FAX受信書・NO.1」(グループの連絡、ボランティアの活動依頼、地図、震災経過報告等)	生活科学部人間福祉学科 社会福祉学研究室	計153枚	1995.1.23～2.14	「取扱注意」 生-95
「FAX受信書・NO.2」(グループの連絡、ボランティアの活動依頼、名簿等)	生活科学部人間福祉学科 社会福祉学研究室	計45枚	1995.2.15～3.24	「取扱注意」 生-96
「FAX受信書・NO.3」(グループの連絡、ボランティアの活動依頼、名簿等)	生活科学部人間福祉学科 社会福祉学研究室	計109枚	1995.2.13～4.10	「取扱注意」 生-97
「FAX受信書・NO.4」	生活科学部人間福祉学科 社会福祉学研究室	計71枚	1995.3.20～5.22	生-98
「FAX送信文書綴り」(グループ間の業務連絡、ボランティア保険の加入、連絡会議、求人情報、電話連絡のメモ等)	生活科学部人間福祉学科 社会福祉学研究室	計245枚	1995.1.23～3.20	「取扱注意」 生-99
「第8回学生代表者会議資料」(会議記録、会場案内等)	生活科学部人間福祉学科 社会福祉学研究室	計93枚	1995.10.7	生-100
「大阪市立大学学生ボランティアへのアンケート集計結果」(アンケートの回答)	生活科学部人間福祉学科 社会福祉学研究室	計1枚	1995.3	生-101
「関西福祉系大学救援グループ電話番担当ソフト表」	生活科学部人間福祉学科 社会福祉学研究室	計12枚	1995.1.24～4.7	生-102
「関西福祉系大学救援グループ各大学ボランティア活動調査報告」(仏教大3/30、愛知県立大4/5、龍谷大4/7、同志社大4/24)	生活科学部人間福祉学科 社会福祉学研究室	計24枚	1995.3.30～4.24	生-103
「大阪市立大学学生によるボランティア活動状況等」	生活科学部人間福祉学科 社会福祉学研究室	計21頁	1995.1.30～4.9	生-104
「関西福祉系大学救援グループ連絡会議資料」(阪神大震災救援活動教員・学生代表者合同会議名簿等)	生活科学部人間福祉学科 社会福祉学研究室	計86枚	1995.2.11～5.11	「取扱注意」 生-105
「阪神大震災シンポジウム用領収書」	生活科学部人間福祉学科 社会福祉学研究室	計6頁	1995.6.17	生-106
「兵庫県災害対策ボランティア参加予定一覧表・名簿等」	生活科学部人間福祉学科 社会福祉学研究室	計22頁	1995.1.30～2.31	生-107
「第9回学生代表者会議資料」(各大学からの報告書等—同志社大学で開催)	生活科学部人間福祉学科 社会福祉学研究室	計53頁	1995.11.18	生-108
「関西福祉系大学救援グループ活動名簿、連絡網等」	生活科学部人間福祉学科	計43頁		「取扱注意」 生-109
「大阪市立大学ボランティアに対するアンケート及び集計」	大阪市立大学 ver 事務局 生活科学部人間福祉学科	計8頁		生-110
「関西福祉系大学救援グループ名簿及び市大連絡網」	生活科学部人間福祉学科	計7頁		「取扱注意」 生-111

資料リスト

①資料名 (文書名・論文名・書名等)	②資料作成者・執筆者及び その所属(学内・部局等 学外・卒業年)	③資料の掲載誌紙等 (巻号、頁等)	④発行年月日 ⑤発行所	⑥備考
「記録室通信」	関西福祉系大学救援グループ 生活科学部人間福祉学科	計72頁	1995.6.9～10.15 (FAX 通信日)	生-112
「ボラ先資料」(ボランティア先の 地図、作業内容、参加する学生名 等)	関西福祉系大学救援グループ 生活科学部人間福祉学科	計29頁	1995.1.25～4.5 (FAX 通信日)	生-113
「神戸市民福祉交流センター仕分 け人数」(市大、府大、同志社大、 立命館大外)	関西福祉系大学救援グループ 生活科学部人間福祉学科	計26頁	1995.1.30～3.2	生-114
「関西福祉系大学救援グループ FAX 送信文書」	関西福祉系大学救援グループ 生活科学部人間福祉学科	計15頁	1995.4.6～4.27	生-115
「ボランティア活動レジメ」	関西福祉系大学救援グループ 生活科学部人間福祉学科	計143頁	1995.1.22～	生-116
「震災・活動記録室-中間報告」	阪神大震災地元 NGO 救援連絡会 議震災・活動記録室 生活科学部人間福祉学科	計112頁	1995.8.1～ 阪神大震災地元NGO 救援連絡会議震災・ 活動記録室	「取扱注意」 生-117
「ファックス市民情報-阪神大震 災救援版-」	震災被災者を支える東京連絡会 生活科学部人間福祉学科	計16頁	1995.6.24～9.20 市民活動 FAX 情報 ネット	生-118
「活動連絡綴 NO.1」(各大学の活 動報告書)	生活科学部人間福祉学科	計187頁	1995.1.24～3.13	「取扱注意」 生-119
「感謝状(写真)」(阪神淡路大震 災に際し人的、物的支援を行った ことに対する厚生大臣の感謝状)	生活科学部人間福祉学科	1枚	1996.8.23	生-120
「阪神大震災シンポジウムファイ ル」		計278頁	1995.5.30～7.28	「取扱注意」 生-121
「被災者の栄養と健康」	奥田豊子 生活科学部元教員・大阪教育大 大学教授	『繊消誌』Vol.38, No.8 p.410～415	1997	生-122

経済研究所

「経済学文献四季報-阪神・淡路 大震災関連文献特集-1995」	経済研究所	『季刊経済研究』Vol.18 No.4 p.54～55	1996.3.10 大阪市立大学経済研 究会	経研-1
「阪神・淡路震災復興戦略ビジョ ン-ひょうごフェニックス計画に 向けて-」	植田政孝 経済研究所教授	『阪神・淡路震災復興戦略ビジョ ン-ひょうごフェニックス計画に 向けて-』 p.1～27	1995.3.18 都市再生戦略策定懇 話会	経研-2
「兵庫県南部地震(阪神大震災)被 害、影響と復興対策について-産 業復興の視点から-」	植田政孝 経済研究所教授	『兵庫県南部地震(阪神大震災)被 害、影響と復興対策について-産 業復興の視点から-』 p.1～61	1995.2 (財)関西産業活性化セ ンター	経研-3
「都市住宅政策とコミュニティ」	小玉 徹 経済研究所助教授	『大阪市立大学経済研究所所報45 集-大都市の社会基盤整備-』 p.117～137	1996.10 東京大学出版会	経研-4
「阪神・淡路大震災当日の状況と 教訓」	経済研究所 文責・福田義孝(震災 時の経済研究所長)	計2頁		経研-5

同和問題研究室

「阪神大震災に関する本学の活動 報告書」	同和問題研究室	1頁		研究室としては独自 の活動をしていない ので個人レベルの活 動報告書 同和-1
-------------------------	---------	----	--	--

資料リスト

①資料名 (文書名・論文名・書名等)	②資料作成者・執筆者及び その所属(学内・部局等 学外・卒業生)	③資料の掲載誌紙等 (巻号、頁等)	④発行年月日 ⑤発行所	⑥備考
-----------------------	-------------------------------------	----------------------	----------------	-----

学術情報総合センター

「兵庫県南部地震災害に伴う追試験特別措置による受験者の図書館利用についてー春休み中の休館及び特別帯出について」	附属図書館	計8頁	1995.1.26	学情-1
「兵庫県南部地震被災地域の大学に対する図書館利用について」	附属図書館	計6頁	1995.1.30	学情-2
(案内ちらし)「兵庫県南部地震被災地域の大学に対する図書館利用について」	附属図書館	1枚	1995.1.30	学情-3
「兵庫県南部地震で被災した受験生に対する自習室の提供について」	附属図書館	計6頁	1995.2.7	学情-4
「阪神・淡路大震災に伴う図書館資料の賠償の免除について」	附属図書館	計2頁	1995.3.10	学情-5
「震災関係資料データ収集結果報告書綴」	附属図書館	計204頁	1995.2.1	神戸市ほか震災地域の関係機関より震災資料のデータを収集してほしいとの依頼を受けて行ったもの 学情-6

事務局

「兵庫県南部地震に伴う市立大学の対応について(集約版)」	事務局	p.1～619	95.12.31	事務-1
「震災・福祉・人権」	山縣文治 生活科学部助教授(人間福祉学科)	『人権問題 NEWS』 No.21 p.1～2	1995.12 大阪市立大学	生活科学部の項目にもあり 事務-2
「震災と人権」	倉戸ヨシヤ 生活科学部教授(人間福祉学科)	『人権問題 NEWS』 No.21 p.3～8	1995.12 大阪市立大学	生活科学部の項目にもあり 事務-3
(ちらし)「パネルディスカッション・阪神大震災と人権」		1枚	大阪市立大学人権週間記念企画	事務-4
「阪神・淡路大震災の被災者の皆様方へ」	山本研二郎 学長	『市大広報』第26号 p.1	1995.4 大阪市立大学事務局	事務-5
「患者救出の7日間」	山上征二 医学部助教授(泌尿器科学)	『市大広報』第26号 p.2	1995.4 大阪市立大学事務局	医学部の項目にもあり 事務-6
「大震災調査報告1.地盤の液状化と震災」	高田直俊 工学部教授(土木工学科)	『市大広報』第27号 p.1	1995.7 大阪市立大学事務局	事務-7
「大震災調査報告2.全員が力あわせて！ー救出ボランティアと調査活動」	山口英昌 生活科学部教授(食品栄養科学科)	『市大広報』第27号 p.2	1995.7 大阪市立大学事務局	事務-8
「大震災調査報告3.地震被害調査および避難生活調査」	宮野道雄 生活科学部助教授(生活環境学科)	『市大広報』第27号 p.3	1995.7 大阪市立大学事務局	事務-9
(座談会)「都市災害にどのように備えるか？ー阪神・淡路大震災からの教訓」	山本研二郎 学長 他(備考欄参照)	『市大広報』第30号 p.1～4	1995.7 大阪市立大学事務局	広川禎秀、平野昌繁、中川康一、土井幸平、高田直俊、森井浩世 事務-10
「解説」	平野昌繁 文学部教授	『市大広報』第30号 p.4～5	1995.7 大阪市立大学事務局	事務-11
「社会・経済システム学会の研究活動ー震災と社会・経済システムー」	塩澤由典 経済学部教授	『市大広報』第30号 p.5～6	1996.7 大阪市立大学事務局	事務-12

資料リスト

①資料名 (文書名・論文名・書名等)	②資料作成者・執筆者及び その所属(学内・部局等 学外・卒業生)	③資料の掲載誌紙等 (巻号、頁等)	④発行年月日 ⑤発行所	⑥備考
「巡回無料法律相談」	生熊長幸 法学部教授	『市大広報』第30号 p.6	1996.7 大阪市立大学事務局	法学部の項目にもあり 事務-13
(座談会)「都市災害にどのように備えるかII-阪神・淡路大震災からの教訓」	山本研二郎 学長 他(備考欄参照)	『市大広報』第31号 p.3~6	1996.11 大阪市立大学事務局	広川禎秀、平野昌繁、 中川康一、土井幸平、 高田直俊、森井浩世 事務-14
(座談会)「瓦礫の街で診療活動-医学部附属病院看護婦さんたちの震災地診療体験談」	中谷喜美子 医学部附属病院看護婦 他(備考欄参照)	『市大広報』第31号 p.6~7	1996.11 大阪市立大学事務局	李由美子、伊藤正子 事務-15
「臨時部局長会記録(1995.1.23)より-地震対策について-」	事務局庶務課	計1頁	1995.1.23	事務-16
「臨時部局長会記録(1995.2.3)より-阪神大震災被災受験生に対する特別入試措置について-」他(添付資料あり)	事務局庶務課	計15頁	1995.2.3	事務-17
「部局長会記録(1995.2.6)より-阪神大震災被災学生の対応状況について報告」	事務局庶務課	計1頁	1995.2.6	事務-18
「評議会記録(1995.1.23)より-兵庫県南部地震に対する諸対応について関係者から報告」(添付資料あり)	事務局庶務課	計6頁	1995.1.23	事務-19
「評議会記録(1995.1.30)より-阪神大震災被災受験生に対する特別入試措置について」他(添付資料あり)	事務局庶務課	計9頁	1995.1.30	事務-20
「評議会記録(1995.2.9)より-阪神大震災被災受験生に対する特例入試の実施について」(添付資料あり)	事務局庶務課	計20頁	1995.2.9	事務-21
「臨時評議会記録(1995.2.13)より-特例入試の実施について」(添付資料あり)	事務局庶務課	計5頁	1995.3.13	事務-22
「評議会記録(1995.3.13)より-阪神・淡路大震災に伴う特例入試学生募集要項について」他(添付資料あり)	事務局庶務課	計17頁	1995.3.13	事務-23
パネル・ディスカッション「阪神大震災と人権」から	一色 玄 医学部教授(小児科)	『人権問題 NEWS』No.22 p.12~13	1996.4 大阪市立大学	事務-24
「座談会・阪神大震災-ボランティア活動の経験を語る」	山本研二郎 学長 吉川吉衛 学生部長 学生8名 生活科学部学生 (備考欄参照)	『市大かわら版』第15号 p.1~4	1995.4 大阪市立大学	堺豊史、日高由貴、 信治佐和、西田律子、 田中路子、澤谷真紀子、 山崎英恵、荒木恵美 事務-25
「頑張る大阪市立大学-震災特集パートII-」(大学の震災活動の紹介記事)		『市大かわら版』第15号 p.4	1995.4 大阪市立大学	事務-26
「特集-阪神・淡路大震災、その時市大は-被災現場からのメッセージ」	宮野道雄 生活科学部助教授 弘原海清 理学部教授 岩瀬充卓 法学部3回生(無料法律相談)	『大阪市立大学'96』 p.9	1995.7 大阪市立大学事務局	事務-27

資料リスト

①資料名 (文書名・論文名・書名等)	②資料作成者・執筆者及び その所属(学内・部局等 学外・卒業年)	③資料の掲載誌紙等 (巻号、頁等)	④発行年月日 ⑤発行所	⑥備考
-----------------------	-------------------------------------	----------------------	----------------	-----

学生部

「兵庫県南部地震被災学生に対する安否照会新聞広告の掲載並びに同経費の支出について」	学生部	計6頁		「取扱注意」 学生-1
「兵庫県南部地震によるお見舞いの掲示について」	学生部	計8頁		「取扱注意」 学生-2
「兵庫県南部地震による学生の被災状況調査について(調査資料)」	学生部	計12頁		「取扱注意」 学生-3
「優良サークル表彰金の精算について(報告)」	学生部	計3頁		「取扱注意」 学生-4

教務部

「全学共通科目の授業・試験について(関係資料)」	教務部	計20頁		教務-1
「大学院・学部の入試出願関係資料(特例入試を除く)」	教務部	計2頁		教務-2
「特例入試関係資料」	教務部	計40頁		教務-3
「外国人留学生関係資料」	教務部	計16頁		教務-4
「全学共通科目の授業・試験について」関係資料(追加分)	教務部	計8頁		教務-5
「大学院・学部の入試出願」関係資料(特例入試を除く)	教務部	計6頁		教務-6
「特例入試」関係資料(スナップ写真共)	教務部	写真計17枚 文書計62頁		教務-7

教職員組合

「兵庫県南部地震一救援カンパのお願い」	教職員組合	『大阪市大教職組情宣ニュース』 No.40 1枚	1995.1.25 教職員組合	教職組-1
「阪神大震災救援カンパに対し、多数の組合員の皆さんからのご協力ありがとうございました」	教職員組合	『大阪市大教職組情宣ニュース』 No.44 1枚	1995.2.16 教職員組合	教職組-2
「他人事ではない自然災害『国民的保障制度』実現に向けた署名活動にご協力を」	教職員組合	『大阪市大教職組情宣ニュース』 No.34と署名活動に対する(街)大阪労働者福祉協議会の報告と御礼状 計3枚	1996.12.11 教職員組合	教職組-3
「震災復興支援一神戸ワインのあっせんご案内」	教職員組合	『大阪市大教職組情宣ニュース』 No.36 1枚	1997.2.4 教職員組合	教職組-4

生活協同組合

「お礼とご報告」	寺嶋英介 神戸大学生協	p.14~15	1995.1.19	生協-1
「被災写真・西宮北口周辺、甲南大学、大手前女子大学」	大学生協大阪事業連合	掲示物 計3頁	1995.1.19	現物はカラー写真 生協-2
「義援金カンパを呼びかける学内用チラシ」	大阪市大生協理事会 大阪市大生協	計2頁	1995.1.24	生協-3
「大学生協大阪事業連合による阪神大震災支援活動の経過」	大学生協大阪事業連合	『大学生協大阪事業連合理事会議案書』 p.32~38	1995.1.27	生協-4
「兵庫県南部地震への府下生協の救援、支援活動状況」	大阪府生協連合会	p.1~15	1995.2.17	生協-5
「阪神・淡路大震災の救援について一義援金報告」	大阪市大生協理事会 大阪市大生協	『大阪市大生協1994年度第12回理事会議案書』 計2頁	1995.3.1	生協-6

資料リスト

①資料名 (文書名・論文名・書名等)	②資料作成者・執筆者及び その所属(学内・部局等 学外・卒業年)	③資料の掲載誌紙等 (巻号、頁等)	④発行年月日 ⑤発行所	⑥備考
「御礼」	筏 英之 神戸大学生協	計3頁	1995.3.9	生協-7
「全国大学生協連合会による震災復興支援活動報告」	小林正美 全国大学生協連合会	p.22～27	1995.7.28	生協-8

有恒会

「有恒会会員への被災問い合わせ(原簿)(震災直後、有恒会事務局員が手分けして会員の安否を電話等で問い合わせたもの)」	有恒会事務局	計29頁	1995.1.18～	有恒会-1
「有恒会事務局に宛てた会員からの状況報告」(一部は『有恒会報』へ掲載)	有恒会会員	計15頁	1995.1～	有恒会-2
「震災関係新聞切り抜きなど」	有恒会事務局	計9頁	1995.2～	有恒会-3
「阪神大震災-そのとき」	有恒会事務局	『有恒会報』第143号 p.3～10	1995.3.24 有恒会	有恒会-4
「阪神大震災統報」	有恒会事務局	『有恒会報』第144号 p.10～16	1995.8.1 有恒会	有恒会-5

工学部土木同窓会

「阪神大震災から市大理工学部時代への回想」	藤田和夫 理学部名誉教授	『土木会報』No.18 p.11	1995.12 大阪市立大学土木会	工学部土木会-1
「地震は予知出来るか-前兆証言1519の検証」	弘原海清 理学部教授(地球学科)	『土木会報』No.18 p.12～13	1995.12 大阪市立大学土木会	工学部土木会-2
「阪神大震災に思う」	三笠正人 工学部名誉教授	『土木会報』No.18 p.13～14	1995.12 大阪市立大学土木会	工学部土木会-3
「阪神・淡路大震災におけるポートアイランドの液化化被害について」	三笠正人 工学部名誉教授	『土木会報』No.18 p.14～17	1995.12 大阪市立大学土木会	工学部土木会-4
「上、下動は何処へ行った-地震力は地盤の加速度によるのか?-」	園田恵一郎 工学部教授・工学部1961年卒	『土木会報』No.18 p.17～18	1995.12 大阪市立大学土木会	工学部土木会-5
「大震災に思う」	高尾宏直 工学部1968年卒	『土木会報』No.18 p.19～20	1995.12 大阪市立大学土木会	工学部土木会-6
「都市高速道路に思うこと」	杉山 功 工学部1965年卒	『土木会報』No.18 p.20～21	1995.12 大阪市立大学土木会	工学部土木会-7
「阪神・淡路大震災に遭遇して」	稲垣紘史 工学部1965年卒	『土木会報』No.18 p.21～22	1995.12 大阪市立大学土木会	工学部土木会-8
「阪神・淡路大震災を機に社会を見つめ直す(震災後、思うこと)」	若松謙一 工学部1991年卒	『土木会報』No.18 p.23	1995.12 大阪市立大学土木会	工学部土木会-9
「阪神・淡路大震災に直面して」	高井真広 工学部1970年卒	『土木会報』No.18 p.24～25	1995.12 大阪市立大学土木会	工学部土木会-10
「阪神・淡路大震災による災害復旧事業について」	大坪崇彦 工学部1966年卒	『土木会報』No.18 p.25～26	1995.12 大阪市立大学土木会	工学部土木会-11
「阪神・淡路大震災の道路復旧支援作業に従事して」	吉野 勝 工学部1972年卒	『土木会報』No.18 p.26～27	1995.12 大阪市立大学土木会	工学部土木会-12
「阪神淡路大震災に直面して-1日も早く、地震に耐える鉄道-」	柿木浩一 工学部1971年卒	『土木会報』No.18 p.27～28	1995.12 大阪市立大学土木会	工学部土木会-13
「震災発生時に海外にいた不安な日々と電気通信設備の復旧業務に従事して」	中川裕司 工学部1986年卒	『土木会報』No.18 p.29	1995.12 大阪市立大学土木会	工学部土木会-14
「地震の真っ只中において」	三田村武 工学部1961年卒	『土木会報』No.18 p.30～31	1995.12 大阪市立大学土木会	工学部土木会-15

資料リスト

①資料名 (文書名・論文名・書名等)	②資料作成者・執筆者及び その所属(学内・部局等 学外・卒業年)	③資料の掲載誌紙等 (巻号、頁等)	④発行年月日 ⑤発行所	⑥備考
「-大震災の混乱の中で-」	井上 洋 工学部1968年卒	『土木会報』No.18 p.31	1995.12 大阪市立大学土木会	工学部土木会-16
「“空前絶後”」	久保田隆三郎 工学部1963年卒	『土木会報』No.18 p.32	1995.12 大阪市立大学土木会	工学部土木会-17
「阪神・淡路大震災調査緊急報告 会を経て」	金岡俊文 工学部1951年卒	『土木会報』No.18 p.33~34	1995.12 大阪市立大学土木会	工学部土木会-18

医学部同窓会

(座談会)『集団災害にどう対処する か? -阪神大震災・O-157食中毒の 経験から、情報はどう流れた か-』	浅田 章 医学部教授(集中治療医学) 他(備考欄参照)	『仁濟』医学部同窓会報 第50号 p.2~25	1997.3.31 医学部同窓会	樋上忍、月岡一馬、 山上征二、成山多喜 男、朴勤植、西信一、 鶴原常雄、広橋一裕 医・同窓会-1
--	-----------------------------------	----------------------------	---------------------	--

あ と が き

6430人の命を奪った阪神・淡路大震災は、いまでも多くの人びとにさまざまな深い傷あとを残している。私が山本研二郎学長から、本書のもとになった資料収集を提起されたのは1995年6月のことであった。その後、体制づくりに時間をとられたが、1996年5月にスタッフ会議が設置されて資料収集が軌道にのった。約1年かけて資料を収集したが、これをどのような形で公刊するかが問題となった。あらためて学長からの要望もあり、スタッフ会議で議論し、震災直後の大学の対応がわかるような内容も盛り込むことになった。不十分な点は残るが、本書によって大震災への大阪市立大学の対応がほぼ把握できる内容となったといえよう。

この間、スタッフの方々、とくに資料の分量の多い理学部、工学部、医学部、生活科学部のスタッフの方には、資料の収集作業にくわえて、資料の整理やリストの印刷などで多大のご苦勞をおかけすることになった。また、生活科学部の堀智晴助教授と文学部の塚田孝助教授には、大学史資料室の震災資料担当の運営小委員として尽力していただいた。さらに、本書の刊行予算のことでは、事務局の方にもいろいろと苦勞をかけることになった。とくに、大学史資料室の井上淑子氏には、資料室の日常業務のうえにこの仕事で多大の苦勞をかけることになった。これまでの関係者のご協力に心から感謝したい。

大震災から4年目の冬ようやく本書の刊行にこぎつけることができた。本書が幅広く活用されれば幸いである。

1998年2月

大学史資料室長 広川 禎 秀

阪神・淡路大震災と大阪市立大学の対応

— 大震災に関する大阪市立大学の活動資料リスト —

1998(平成10)年3月20日発行

編集 阪神・淡路大震災に関する大阪市立大学の活動資料収集スタッフ

発行 大阪市立大学

〒558-8585 大阪市住吉区杉本3-3-138

☎ (06)605-3371

印刷・製本 ナニワ印刷株式会社

